

# 年会報

2015

魅力あふれる<sup>まち</sup>地域へ  
～未来へつながる  
新たな一歩～

公益社団法人一宮青年会議所

# 目次

ページ	
1~3	目次
4~7	理事長 野田一郎
8	副理事長兼総務室室長 鈴木強司
9~10	副理事長兼つながりある LOM 創造室室長 森功一郎
11~12	副理事長兼社会開発室室長 土川功介
13~14	副理事長兼青少年共育室室長 石川昌臣
15~16	副理事長兼研修室室長 浅田佳寿優
17~18	専務理事 久保辰也
19	2015 年度組織図
20~22	2015 年度理事会
23~24	2015 年度総会
25~26	2015 年度例会
27~28	事務局 大島 航
29	財務局 眞野尚人
30~33	総務・広報委員会 森 大介
34~35	渉外委員会 小寺浩至
36~39	拡大・交流委員会 平松道介
40~41	地域ブランド確立委員会 青山広己
42~43	地域活性化推進委員会 加藤武志
44~47	青少年共育委員会 大宮和広
48~51	経営資質向上委員会 石黒秀幸
52~56	アカデミー委員会 安田敏弘
57~59	監事所感 木村亮一 横田公一 服部良太



96	貸借対照表 2015年12月31日現在
97	2015年度 正味財産増減計算書（内訳書）
98	正味財産増減計算書
99	委員会別収支決算
100	余剰金計算書
101	固定資産台帳
102	財務諸表の注記
103	財産目録
104	収支計算書
105	2015年度財務諸表等適法性確認報告書
106	監査報告書

## 「一年間を振り返って」

理事長

野田 一郎



### 【はじめに】

本年 1 年間、様々な活動を共有した一宮青年会議所全てのメンバーの皆様にご心から感謝申し上げます。青年会議所の活動は私たちが暮らしている一宮市のために事業を展開していますが、JC 運動を通して自己の成長へ繋がると信じています。メンバーの皆様が社業やプライベートの時間を割いてしっかりと会議を行い、地域の活性化のために事業を行っていただいたおかげで 1 年間、無事に理事長職を全うすることができました。また、本年一宮青年会議所の活動に対して、関係諸団体ならびに多くの先輩の皆様、事業へ参加いただいた地域の皆様にご深く感謝申し上げますとともに、多大なるご理解とご支援をいただいております。一宮青年会議所を代表し心より厚く御礼を申し上げます。

本年一宮青年会議所は「魅力あふれる地域へ～未来へつなげる新たな一歩～」をスローガンとし、次代を担う地域市民のために今よりさらに魅力にあふれ活気ある一宮市となるように、市民を巻き込みインパクトある事業を行ってきました。また、公益社団法人格を取得した初年度として公益性の高い事業を行いながらも、本年以降公益社団法人として活動し続けられる組織を形成してきました。本年が未来へつなげる新たな一歩として踏み出したと確信しています。そのような思いの中で 2015 年度の 1 年間の歩みを振り返ってみたいと思います。

### 【専務室】

本年の専務室は、事務局の運営に特化していただき、専務理事として久保辰也君に重役を託しました。本年度は東海地区協議会ならびに愛知ブロック協議会ともに役員を輩出するという非常に一宮青年会議所としても大きな担いのある

年でしたが、久保専務理事がしっかりと調整を行っていただいたおかげで一宮青年会議所らしい支援ができたかと思えます。言いつらいこともメンバーに伝えていただき、時には嫌われ役として、そして議案など監事との摺合せ、東海地区協議会や愛知ブロック協議会、西尾張 6JC との調整など表には見えない裏方作業ではありますが、嫌な顔せずいつも笑顔で楽しく JC 活動に取り組んでいました。最初から最後まで理事長のことを気にかけて、常に相談役として、常に傍にいてくれる紛れもなく一宮青年会議所の No.2 としての役職を全うしていただきました。久保専務理事の背中を見て育ったメンバーが次世代の一宮青年会議所を担ってくれると確信をしています。1 年間本当にありがとうございました。

事務局長を務めていただいた大島航君は 2012 年入会と経験は少ないですが、持ち前の頭の回転の速さとフットワークの軽さで何事も円滑に対応してくれました。また、久保専務理事とともに常に理事長の傍にいていただき、対外的な立ち振る舞いにおいても大きな影響力を与えていました。理事長・専務と常に同行していた中で感じたことや正副理事長会議へ参加していた経験を 2016 年の活動に活かしていただきたいと思えます。1 年間本当にありがとうございました。

また、事務局次長として三嶋啓一郎君は年間通して理事会の設営や膨大な議事録作成など大変お世話になりました。入会早々理事会を 1 年間見ることができた経験を来年以降、ぜひ活かしていただきたいと思えます。1 年間本当にありがとうございました。

### 【総務室】

本年は総務広報委員会と財務局を担当していただきました副理事長兼総務室 室長鈴木強司

君は任期の途中で体調不良で一線を退きましたが、しっかりと体調を整え7月より復帰してくれました。復帰後は長いJC経験をもとに正副理事長会議などでしっかりと的を射た指摘や意見を発言し、より良い方向に導いていただきました。公益社団法人格を取得し初年度を迎える大切な総務室として2年度理事2人をご指導いただき、総務・広報・財務といった組織運営に必要な不可欠の委員会・局をまとめてくれたと思います。2005年入会からの経験を活かして、見本となるようなメンバーとなり一宮青年会議所をさらに牽引していただきたいと思います。1年間本当にありがとうございました。

総務広報委員会の委員長を務めていただいた森大介君には2年度理事として1月の賀詞交歓例会や総会の設営、ホームページの管理、フェイスブックなどでの広報活動、訃報案内や葬儀のお手伝いなどメンバーの見えない部分でLOMの活動を支えていただきました。また9月に行われた西尾張6JC合同例会の際にはメンバーへの呼びかけ及び一般参加者の動員にご尽力をいただき、無事に終えることができました。

財務局を務めていただいたのは、同じく2年度理事の眞野尚人君です。一宮青年会議所の財務面を次長とともに支えていただいた影の功労者とも言えます。公益社団法人格を取得した初年度として、昨年に引き続き愛知県との担当者レベルでの打合せを行っていただくことで、来年以降も円滑に公益社団法人として運営ができると確信しています。2016年度は青年会議所として最も大切な理事長の右腕となるべき副理事長兼専務理事として活躍されます。ぜひ、2度の理事経験を活かして、より良い方向に導いていただきたいと思います。

森委員長も眞野局長も理事会においても2年度理事らしく的確な質問や建設的な意見をいただき、存在感を発揮していただきました。森委員長、眞野局長、1年間本当にありがとうございました。

#### 【つながりあるLOM創造室】

副理事長兼つながりあるLOM創造室室長を務めていただいた森功一郎君には渉外委員会と

拡大・交流委員会の2委員会を担当いただきました。1月の京都会議の設営から始まり、年末のクリスマス家族会まで1年通して最も設営に携わったメンバーかもしれません。森副理事長は意見を相手に伝えるのが得意なタイプではありませんが、その分実動でカバーしていただき、拡大活動も自ら率先して行ってくれました。持ち前の前向きな気持ちやJCに対する熱い情熱で1年間私たちを盛り上げていただき、最も大変な2委員会の担当副理事長をやり遂げてくれました。この経験をもとに2016年度は卒業年度として、委員会で活発な意見を伝えLOMを支えてください。1年間本当にありがとうございました。

渉外委員会を務めていただいた小寺浩至君は職人タイプとして言葉は少ないですが、不言実行の精神をもとに行動で見せてくれました。議案上程で少し苦勞されましたが、1年間出向者の支援や各種会議、公式事業への呼びかけなどの渉外活動、とうかい号の乗船者募集や支援、11月度例会など非常に多くの担いを全うしてくれました。候補者段階の一般社団法人豊田青年会議所との交流会から始まり、京都会議、横浜でのサマコン、青森県八戸市で行われた全国大会、金沢市での世界会議など遠出が続きましたが、常に理事長より先乗りをしてメンバーを迎えてくれました。1年間通してJC活動に携わった経験をもとに2016年度はアカデミー拡大委員会の委員長として2年度理事としての背中を見せてください。1年間本当にありがとうございました。

拡大交流委員会の委員長を務めていただいた平松道介君は、入会当初はなかなか出席できる状況ではありませんでしたが、様々なJCメンバーとの交流で委員長を受けることができるまでに成長してくれました。その自己成長の経験談をもとに、多くの拡大候補者と出会い、JCの良さや人脈が広がること、会社経営にフィードバックできることなど伝え、確かな実績を残してくれました。2016年度は日本JCの総括幹事として出向し、新たな出会いや人脈を広げLOMへ還元していただきたいと思います。1年間本当にありがとうございました。

### 【青少年共育室】

副理事長兼青少年共育室 室長を務めていた石川昌臣君は2年度理事を経験した副理事長らしく、建設的かつ前向きな意見や質問をして、様々な議案をより良い方向に導いてくれました。趣味の山登りやキャンプなど自然が好きなアウトドアの経験や子たくさん家族の石川副理事長らしく、青少年育成の2つの例会をしっかりとまとめていただきました。2007年の上期に入会した石川副理事長も気づけば、2016年度は卒業年度として見て育つ側からメンバーから見られる立場となります。最終年度厳しいことが言えるメンバーとして取って代われ役をかって、しっかりと一宮青年会議所らしい事業や運営の下支えをしてください。1年間本当にありがとうございました。

青少年共育委員会の委員長として大宮和広君には卒業年度ではありますが、1年間務めていただきました。一宮市の次代を担う子ども達を集めての青少年育成事業は一宮青年会議所としてもメイン事業の1つであります。最も厳しいことを伝えた委員長かもしれませんが、伝えたことをしっかりと噛み砕き、事業に展開してくれました。本年度で卒業を迎えますが、次年度以降も青少年育成事業は続きますので、今年経験したことを後輩に伝えていただきたいと思います。1年間本当にありがとうございました。

### 【社会開発室】

一宮青年会議所の最大事業予算をかける公益事業を担う2委員会を担当いただいた副理事長兼社会開発室 室長の土川功介君は持ち前のリーダーシップを発揮し、大きな事業を終えていただきました。両委員会の中の議案においても完成度の高い状態で上程され、室長としてもしっかりとまとめていただいたことが分かります。その功績も認められ、2016年度は一宮青年会議所のリーダーとしてメンバーを牽引していく理事長となります。委員長とも副理事長とも異なる新たなステージですが、この歴史と伝統のある一宮青年会議所の理事長として2016年度の活動を導いてくれると確信しています。

本年度、第4回の一宮郷土グルメグランプリの

大きな事業を担当いただいた地域活性化推進委員会の委員長を務めた加藤武志君は、本年度卒業ですが委員長をやりきっていただきました。常に自分が楽しみ、その姿を見て委員会メンバーがまとめ、そしてそのまとめをメンバーが感じて例会も100%出席という偉業を成し遂げることができました。天気にも恵まれ5,000名を超える一般来場者にお越しいただき、大きなトラブルもなく終えることができたのも委員長として委員会として、1つにまとめあげたおかげだと思います。ぜひ、この経験を来年以降の担当委員長に引き継いでいただきたいと思います。1年間本当にありがとうございました。

新設委員会として産みの苦しみがあった中で1年間委員長職を務めていただいた地域ブランド確立委員会 委員長の青山広己君は、確固たる信念を持って基本方針からぶれることなく議案に取り組み、事業を展開していただきました。青山委員長のパワー溢れる情熱とフットワークの軽さ、段取りの良さによって、他団体との協議や打合せを経て、大きな事業へたどり着いたと思います。2016年度は今までの経験が認められ、正副の一員となります。執行部の立ち位置は今までと異なり組織を運営する側になることを認識し、土川理事長を支えていただきたいと思います。1年間本当にありがとうございました。

### 【研修室】

経営資質向上委員会、アカデミー委員会の2委員会を担当いただいた副理事長兼研修室 室長の浅田佳寿優君は、2014年専務室の関係もあり本年度も引き続き、ともに活動をしてくださいました。やると言ったら最後までやり切る義理人情に溢れたメンバーです。例会3回、オリエンテーション10回、公開事業、3年未満研修会など多くの設営を行い、委員長及び委員会メンバーをまとめあげていただきました。対外的な副理事長としてもほぼ全ての事業に参加し、内外に支えてくれました。2016年度は2回目の副理事長として本年度とは異なる立場になることを理解し、執行部を引っ張っていく存在になってもらいたいと思います。1年間本当にありがとうございました。

経営資質向上委員会の委員長を務めていただいた石黒秀幸君は、2 回の例会、1 回の公開事業を行っていただきました。LOM メンバーだけでも様々な経営者がいて、会社経営については 1 人ずつ考え方が違うにも関わらず、しっかりと基本方針をまとめ、事業を展開いただきました。イノベーションという難しいテーマに果敢に取り組み、例会を成功に導いてくれました。今年の実験を 2016 年はスタッフ、委員会に伝え、理事経験者としての熱い背中を見せてください。1 年間本当にありがとうございました。

アカデミー委員会の委員長は本年度卒業を迎える安田敏宏君ですが、最も 1 年間で変わった委員長でないかと思えます。候補者段階では担当副理事長に頼っている姿や理事会での答弁も不安な部分がありましたが、1 つずつ事業を終えていくうちに、自信もつき入会予定者も正会員となり、委員長のもとに人が集まってくると安田委員長の顔つきが変わってきました。安田委員長が育てた入会予定者のメンバーが数年後、一宮青年会議所を担っていただけると確信をしています。1 年間本当にありがとうございました。

#### 【監事】

本年は 2 年度監事として木村亮一君と横田公一君に加え、ともに様々な経験をしてきた服部良太君に引き受けていただきました。木村亮一君は卒業後、外部監事として客観的に一宮青年会議所をみていただき、足りない部分や変わってはいけな気持ちの部分を中心に叱咤激励をいただきました。横田公一君は本年度卒業ではありませんが、厳しくもやさしく、いつも前向きに理事会構成メンバーへ言葉をかけてくれました。服部良太君は柔らかい口調の中に正副や理事会構成メンバーのために敢えて厳しい意見を伝えていただき、支えていただきました。三者三様のご助言、ご指導があったからこそ 1 年間活動ができたと言っても過言ではありません。服部監事は引き続き、2016 年度の監事としてもよろしくお願ひします。1 年間本当にありがとうございました。

#### 【終わりに】

本年、今まで一宮青年会議所を支えていただ

いた経験豊富なメンバーが卒業を迎えます。しかし、一宮青年会議所の活動は終わることなく前へ進み続けますが、残る私たちメンバーでこれからの一宮青年会議所を担っていく必要があります。そのために今年は「つながり」と「資質向上」をテーマに 1 年間活動してきました。青年会議所の活動も 1 年ずつ歴史のページに刻まれ、伝統に変わっていきます。2016 年度は創立 65 周年を記念すべき、式典や記念事業を行う年となります。ぜひメンバーの気持ちを改めて一つにして前を向いて進んでいきたいと思ひます。

最後に、第 63 代の理事長職を託した土川功介君率いる一宮青年会議所が 65 年の想いをつなぎ、すべてはこの地域とともに成長し、この地域のために活動を進めていただくことを祈念するとともに、歴代理事長として支えていただきました木村亮一先輩、野杵晃充君に心からの感謝を申し上げ、1 年間の振り返りとさせていただきます。1 年間本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長兼総務室長

鈴木 強司



2015 年度副理事長兼総務室室長の大役を賜り野田理事長ありがとうございます。

お役に立てたか立てて無かったかは現役を卒業してから聞きたいと思います。

本年は法人格移行に伴い公益社団法人一宮青年会議所として公益性が高い事業を行い今まで以上に地域の人たちから必要とされる団体になっていかなくてはなりません。そんな中、私事ですがヘルニアを悪化させ、歩行不全まで陥ってしまった為、4 ヶ月間の長期離脱をしてしまい、副理事長職を全う出来なかったことをまずは御詫び申し上げます。また 7 月より復帰した際にはメンバーの皆様から暖かいお声を掛けて頂き誠にありがとうございました。

2015 年度は総務・広報委員会と財務局を担当させて頂きました。財務局は公益社団法人 1 年目という事で主に本会計及び各委員会の事業費の精査そして、LOM の未来を見据えた組織の地盤固め等、眞野局長を先頭に 1 年間活動する事が出来ました。そして、総務・広報委員会は 1 月の賀詞交歓会から 12 月の役員選出総会まで設営や事前の準備等、各事業での広報活動等、1 年を通して活動して参りました。一宮青年会議所の熱い情熱を伝播する事でファンを増やせたと思います。

この 1 年間を振り返りますと筆頭副理事長として LOM メンバーにちゃんと伝える事が出来たのかまた眞野局長、森委員長そして総務室メンバーに背中を見せる事が出来たのか分かりませんが、メンバーの皆様に伝えたい事がございます。

- ①会議室の出入り時には必ず一礼を行う。
- ②人が話をしている時は話を聞く。他の人と話をしない。
- ③理事長より先に箸をつけない、たばこを吸わな

い、上着を脱がない等。

細かい事を申せばきりがございませんが特に近年、私が感じた事や気になる事を記載させて頂きました。中々メンバーの皆様にお伝えする事が出来なかったですが皆様に礼節やマナーが少し疎かになっている事を知って頂きたく記載いたしました。完璧に行えとは言いません。JC は学び舎です。3 信条の中にある修練と心掛けて今後の JC 活動に邁進してほしいと思います。最後になりますが、筆頭ナイトでは参加の取り纏めに協力して頂いた、尾上君、加藤貴泰君当日は本当にお世話になりました。ありがとうございました。

また野田理事長を始めとする理事会構成メンバーの皆様、総務室メンバーの皆様、メンバーの皆様、不甲斐無い筆頭副理事長で申し訳ありませんでした。この経験を残りの JC 活動に活かして行きたいと思います。1 年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長兼つながりある LOM 創造室長

森 功一郎



まずは本年度、副理事長兼つながりある LOM 創造室室長として活動させていただき野田理事長を始めとする LOM メンバーの皆さまに御礼申し上げます。ありがとうございました。

昨年の予定者段階から渉外委員会と拡大・交流委員会の2つの委員会を担当させていただいたことで大変ではありましたが非常に充実した日々を過ごさせていただきました。

まずは渉外委員会ですが、1月の京都会議から始まり名古屋会議、サマーコンファレンス、ブロック大会、東海フォーラム、全国大会、世界会議と数多くの大会、会議、事業をアテンドさせていただきました。渉外委員会として精一杯設営させていただきましたが、設営の不備が多々ありましたことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。担当副理事長としてももう少し細かいところまで目を配り、委員長始め委員会メンバーを導いていたらもっと良かったと反省しております。また11月度例会については内容的には出向者の活動、想いというものを出向者自身の言葉で発信していただき、ディスカッションもしていただいたことで LOM メンバーにも出向の意義というものが良く伝わったのではないかと感じておりますが、こちらに関しましても例会設営の段取りの面で出向者のみなさまに大変なご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

続いて拡大・交流委員会ですが、2月度例会の拡大セミナー、大邱交流をからめた4月度例会と LOM メンバーのみなさまのご協力のおかげでなんとか無事に終えることが出来ました。本当にありがとうございました。4月度例会については大邱メンバーにも参加していただいたことで懇親会のみの大邱交流とは違い、一緒に体を使って1つのことを行うことでより深く友情を育むことが

出来たのではないかと感じております。この例会があったおかげで11月に訪韓した際も大邱メンバーと本当に良い交流が出来たものと考えます。しかしながら4月度例会に関しましても当初の議案通りに実行出来なかった部分があったことは反省しております。

また拡大に関しましては当初2000年代最大会員数を目指し、51名拡大という目標を掲げましたが、上半期で11名という結果に終わり下半期でどれだけ挽回できるか分かりませんが、大幅に目標を下回ったことは拡大担当副理事長として大変不甲斐なく感じております。昨年は日本青年会議所の拡大委員会で拡大というものがどういものか勉強させていただきました。日本では拡大は JC 運動の拡大を意味します。青年会議所の目的は明るい豊かな社会の創造であります。明るい豊かな社会にするためには明るい豊かな人を育成していくことが重要です。こういった人はすなわち我々 JAYCEE だと言えます。この一宮という地域に JAYCEE と呼べる人を増やしていく、そのためには一宮青年会議所により多くの人に入会してもらい、メンバーと切磋琢磨しながら JC 創始の想いを学んでいただくことが一番良いと考えます。大体1000人に1人が青年会議所の会員であると地域に与える影響が強くなると言われております。この比率でいくと人口38万人を有する一宮市ですから300人以上のメンバーが必要になってくる計算です。近年は毎年少しずつではありますが、会員数が増加しております。まだまだ先の長い道のりですが、コツコツと地道に毎年増やし続けていけば必ず300人という人数も達成出来ると思います。ただ真の拡大というのは JC 運動の拡大であって人数というのはあくまで結果に過ぎません。重要なのは一宮青年会

議所の会員一人ひとりが自ら行っている運動に自信と誇りを持ち、その想いというものを情熱を持って内外へ伝えていくことです。そういったことが自然に出来る組織になれば一宮青年会議所が地域のリーダーとなり、またこの地域が明るい豊かな社会になっていると考えます。私のJCライフもあと一年となりましたが、微力ながら最後までJC運動の拡大をし続けていきたいと思ひます。また卒業してからも地域のため世のため人のためにJAYCEEであり続けることを誓ひます。

最後になりますが、このような私を副理事長として引き立てていただいた野田理事長、時には厳しく色々ご指導いただきました3人の監事のみなさま、毎回深夜まで議論を酌み交わした正副理事会構成メンバー、議案作成から設営実行、様々な事業を頑張っていたいただいた2人の委員長と委員会スタッフメンバー、大変多くの助けをいただきましたLOMメンバーのみなさま全員にお礼を申し上げます。貴重ないい経験をたくさんさせていただきました。本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長兼社会開発室長

土川 功介



2015 年度野田一郎理事長のもと副理事長兼社会開発室室長という大役を務めさせていただき、なんとか1年を無事に終えることができたことに胸をなでおろしているというのが正直な感想です。

歴史と伝統ある公益社団法人一宮青年会議所でこの大役を仰せつかったことに併せて、明るい豊かな社会の実現の理念に直結をする委員会の担当をさせていただくことの重責に身の引き締まる思いでございましたが、ここまで様々な面でご協力をいただきました野田理事長を始め、メンバーの皆様のお陰様をもちまして、無事に2015 年度を終えることができましたことに心から感謝、御礼を申し上げます。

副理事長として LOM 全体を見渡し、自分の担当する事業に留まらず、すべての事業がさらに良くなるにはどうしたらよいのかという立場に立ち1年間活動をしてきたつもりではございますが、理事会が紛糾をすることも多く、監事より正副の姿勢を問いただされることも多くありました。また、室長という立場からも、もっと委員長との関わりを多くし、議案や事業の組立に踏み込んでいくということも満足がいくほどできたとは言いがたいのが正直な思いであります。また副理事長という立場でありながら会員拡大についても実績を挙げることができず、やり残したと感じることは多々ありますが、この反省点については、自分自身の反省をしっかりとするとともに、また次の立場の方に引き継ぐなど、しっかりと行っていきたく思います。

社会開発室では2つの委員会を担当させていただきましたが、どちらの委員会においても『一宮の魅力って何ですか?』、『一宮ってどんな地域ですか?』この問いかけがスタートでありました。

地域ブランド確立委員会では、委員会の名前

のとおり、一宮に古くからある地域資源に由来をした地域のブランドの確立を目指す委員会でした。基本方針の段階から、ブランドの定義は何か、地域ブランドとはどんなものなのか、そして地域資源と地域ブランドの違いはなど言葉の定義の考えをまとめることに相当な時間を費やしましたが、その時間がしっかりとあったからこそ、1年間同じところを目指して活動ができたのではないかと感じています。

次に時間を費やしたのが、各種団体との協議を重ねつつ行った、どの地域資源を使い、どんな地域ブランドを確立していくのかを固めることです。

青山委員長は本当に動きが早く、様々なことを前倒し前倒しに進めていく様は、私が委員長をしていた時にはできなかつたことだと本当に感心しながら見ていました。もちろん、苦しんだ時期もたくさんあったと思いますが、委員会メンバーの協力のもと、最後には非常に大きな事業を作り上げ、地域ブランドの礎を作ってくれたのではないかと感じています。

また多くの諸団体の方たちと意見交換を行う中で、地域づくりについて考える時間も多く、私自身にとっても非常に多くの学びを得る機会にもなりました。

地域活性化推進委員会については、本年度で4回目を迎える一宮青年会議所としての目玉事業である、ICHINOMIYA 郷土グルメグランプリを担当する委員会でした。2012年の第1回の時には、私自身当時の委員会セクレタリーとして、その立ち上げに携わらせていただいた事業でもあり、思い入れも強く、担当させていただけることを非常に嬉しく思っていました。ただ、そうであるがゆえに、ICHINOMIYA 郷土グルメグランプリが抱

える問題点や、今後の方向性など、頭を悩ませる材料が多かったことも事実です。ただのイベントごとで終わらせるのではなく、理事長所信にあるとおり、『一宮めし』をどうやって確立させるのか。それをどうやって地域の方たちに浸透させていくのかという点が最も大きな課題でありました。本年度は提供店や、コンビニでの商品化など新たな試みを多く取り入れたものの、年内に『一宮めし』が本当に浸透したのかという検証までいたらなかったことは残念ではありますが、事業自体は滞りなく終えることができ、多くの来場者に会場に足を運んでいただくことができました。

加藤委員長は本当に良く委員会をまとめ、そしてそれに応えてきた、スタッフ委員会の頑張りにも目を見張るものがありました。

どちらの委員会についても、軌道修正等をさせていただくことはありながらも、委員長2人とも議案作成の段階からしっかりとその職責を全うし、担当としては楽をさせていただいたというのが正直な感想です。改めてにはなりますが、両委員長をはじめ、スタッフ委員会メンバーに心からの敬意と、感謝の気持ちを申し上げたいと思います。私も一緒になってこの両委員会と事業の構築にあたれたことは本当に素晴らしい経験をさせていただいたと感じています。

最後になりますが、改めて副理事長という役職を与えていただきました野田理事長に感謝を申し上げるとともに、本年得た経験や学びを、次年度以降のJC活動にしっかりと生かしていきたいと思っております。

「一年間を振り返って」

副理事長兼青少年共育室長

石川 昌臣



2015 年度副理事長兼青少年共育室長を拝命し 1 年間活動をさせていただきました。まずは「魅力あふれる地域(まち)へ～未来へつながる新たな一歩～」のスローガンのもとたくさんのお力添えをいただきました野田一郎理事長をはじめとする理事会構成メンバー、そしてすべてのメンバーに感謝申し上げます、1 年間本当にありがとうございました。

2015 年度は公益社団法人一宮青年会議所として初めての年ということもあり、より公益性のある事業や公益性のある団体としての活動が求められてくる中でスタートしました。

今まで以上に公益事業をどうしていくかを考えなければならない中、どのように地域にインパクトを与えるのかは今後もより必要になってくるのかもしれません。しかし青年会議所は自己の修練の場である、これは今後も変わらないと思うし変えてはいけなところだと思います。特に青少年育成に関しては奇をてらったものでより認知してもらう必要もあるかもしれませんが、公益社団法人になっても昔と変わらず子供の成長、メンバーの成長を両立できる事業だと思います。より地域に求められる団体としてそしてメンバーの成長をともに行っていきたい、そんな思いの中候補者期間を始めさせていただきました。

そして、この一宮の未来を担う子供たちへの共育を大宮和広君に委員長として担っていただきました。今年度は子どもたちに対し、お互いを尊重し認め合うことの大切さ、何事にも真正面から向き合いそれを乗り越えることで得られる気づき、そして大人も子供も共に成長できることを基本方針の軸として事業を作り上げてもらいました。

初の委員長ということもあり、また青少年事業の委員会の経験もない、自分の子どもがいるわけ

でもないそんなことで初めの頃はどうしたらいいのか分からないことが多かったように思います。ですがスタッフ委員会メンバーと本当に夜遅くまで何度も真剣に議論を重ね、またいろいろな案を考えてもらい 5 月例会には積み木を使った事業、公開事業 8 月例会には第 2 回サマーアドベンチャーと題し秘密基地づくりをとおしてキャンプを行い子供たちのためによりよい事業となるよう活動していただけたと思います。

また事業が始まると、委員長という立場上 1 人ひとりの子供達とかかわりにくいのですが、本当に子供たちの成長や笑顔が見たいといった思いで、いろいろな子どもたちとかかわってくれたのも印象的で思いの強い事業を行っていただけたと思います。ですが今年度至らぬところも多々あったかと思いますが、大宮委員長は本年度卒業ですが、その反省を今後も後輩につなげていただきたいと思います。

また今年 1 年間の活動を通じて改めて感じたのは私たち一人ひとりの行動はいろいろな人たちに見られているということです。それは事業に参加していただく参加者の方であったり保護者の方であったり、その人の家族や友達であったり。JC 関係でいえば一宮 JC を中心とした西尾張 6JC、愛知ブロック、地区、日本と広がっていきます。たくさんのメンバー同士で中にいるときは全体の中の一部ですが、自分が一宮青年会議所の看板を背負うタイミングが必ずあります。事業で子どものグループの担当になったり、関係各所の窓口をお願いに行ったり、他 LOM とかかわる出向であったりと、そんな場面での 1 人ひとりの行動と立ち振る舞いが一宮青年会議所そのものになっているのではないのでしょうか？

参加者や関係各所にとっては理事長でも委員で

も同じ主催者スタッフであること、それを今後自分自身も当事者意識をもって事業に参加をするとともに、今後の一宮青年会議所でもそうあり続けていただきますようご祈念いたします。

2015 年度は本当にいろいろなメンバーに支えられ 1 年間で過ごさせていただきました。野田理事長にはこんな私を副理事長として任命していただき、また正副、理事会構成メンバーには 5 月例会、6 月、7 月事業 8 月例会キャンプと議案作成段階から本当にたくさんのご支援、ご協力をいただきました。また今年を通じていろいろな学びや気づきがありました。やっぱり最後は JC は一人ではできないしうまくいかないんだなと。私自身の力などたいしたことはないし。大宮委員長 1 人ではここまでいかなかったと思います。本当に自分事と思って手伝ってくれた卒業年度の尾関副委員長はじめスタッフやメンバーの力で終わったと思います、そんなたくさんの時間をとりましたスタッフですが、特に若い大森幹事、光樂幹事には今後も力を合わせて LOM のために頑張っていたきたいと思います。ご活躍を期待しています。

最後になりますが、2015 年度の青少年事業を通じて本当にたくさんの参加、ご応募いただきました保護者、青少年の皆様、各種事業の参加者、関係各位、大宮委員長、そして一宮青年会議所メンバーの皆さん 1 年間本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長兼研修室長

浅田 佳寿優



まずは、2015 年度副理事長兼研修室室長という大役を務めさせていただきました野田理事長には厚く御礼を申し上げます。また、一年間サポートを頂きました経営資質向上委員会及びアカデミー委員会メンバーはもとより、全てのメンバーに感謝申し上げます。

野田理事長とは昨年、専務理事と事務局長という関係でありましたので、多くの時間を共に過ごさせて頂きましたし、様々なことを学ばせて頂きました。その野田理事長より副理事長の役職を指名され、また研修室という私にとっては一番魅力的な室長を任命頂いたので、野田理事長が思い描く魅力あふれる地域(まち)への一助となるべく活動をさせて頂きました。

副理事長という役職は対外的な部分で他の青年会議所の方々や諸先輩方、一宮市を始めとする各地域の方々、各種団体様や企業様との関わりが非常に深いものであると実感しました。この一宮青年会議所の副理事長という名を汚さぬように自分自身にも厳しく行ってきましたが、まだまだ努力が足りなかった部分が多かった気がします。対内的な活動としては、自分が担当する委員会を含め、すべての議案をより良いものに導くことや、他のメンバーの模範となるような行動を心がけていました。例会や事業の出席はもちろん、一般参加者の動員や拡大活動等も積極的に行いましたが、結果として期待されたレベルに達していたのかは定かではありません。一年を振り返ってみると、もっとやれたのではないかと反省しております。

研修室室長として、2 つの委員会を担当させて頂きました。まずは経営資質向上委員会です。この委員会は、私は一度も経験をしたことがありませんでしたし、企業経営に関しても未熟であるた

め、何をどう行っていけば期待される効果が得られるのか、非常に不安な思いでスタートをしたことを覚えています。委員長を引き受けて頂いた石黒秀幸君には、大変苦勞をかけてしまったと思います。しかし、石黒委員長はしっかりと委員会メンバーを導き、二つの例会と一つの事業を完遂していただきました。どちらも公開例会であるため、対外の方々を巻き込むものであったため、一般参加者の募集や、例会の内容について非常に苦勞をしました。担当室長である私がしっかりと導くことができなかつた部分も多々ありましたので、委員会メンバーにはご迷惑をかけてしまった気が致します。また、内容についても厳しいご意見を頂いたことは、今後の活動に活かしていくように対処させて頂きたいと思ひます。しかしながら、私たちの事業にご参加頂いた皆様には深く感謝いたします。ありがとうございました。

もう一つの担当であるアカデミー委員会ですが、正会員予定者の育成という最も大切な担いと合わせ、本年は西尾張 6JC 合同オリエンテーションの主管という重役がありました。卒業年度にも関わらず、アカデミー委員会の委員長を引き受けて頂いた安田敏宏君は、例年より担いの多いこのアカデミー委員会をしっかりと支え、一年間を走り抜けてくれました。また、入会年度が 3 年未満の会員が半数を超える現状では、今後の一宮青年会議所を担っていただくには、今一度、青年会議所活動はなにかを理解して貰う必要がありました。新たな試みとして、入会 3 年未満研修会を行ったことも例年と違い委員会メンバーには苦勞をかけてしまいましたが、この事業を行ったことで来年以降へ繋がる組織づくりができるのではないかと考えています。

まずは研修室メンバーの皆様には御礼をさせて

頂きます。石黒委員長には無理難題を与え、うまく導くことができなかつたため、時には青年会議所活動を諦める手前まで追い込んでしまい大変申し訳なく感じております。しかし、スタッフと協力して全てを乗り越えて頂きました。最後まで委員長職を全うして頂いたこと感謝しています。両副委員長と両幹事においても、高い能力を存分に発揮していただいたこと感謝しています。委員会メンバーの皆様においても、一年間しっかりとサポート頂きまして誠にありがとうございました。

安田委員長は卒業年度にも関わらずアカデミー委員長を引き受けて頂きありがとうございました。最初は青年会議所の仕組みや議案の作成方法に戸惑いを感じながらも、しっかりと取り組んで頂き、予定者を全て正会員へと導いてくれたリーダーシップに敬意を表します。本当に感謝しています。両副委員長と幹事においては、指示を出す前に積極的に行動し、委員長を支えて頂きました。担いの多い委員会でしたが、最後の卒業例会までやり遂げていただき感謝しています。委員会メンバーの皆様は経験豊富な方ばかりでしたので、貴重なご意見やご指導、ありがとうございました。

最後に、野田理事長を始め 2015 年度理事会構成メンバーの皆様には本当に支えて頂きましたこと感謝申し上げます。非常に多くのことを学ばせて頂きましたし、次年度にもこの経験を活かして活動を行っていこうと思います。また、LOMメンバーや私たちの事業に携わって頂いた皆様にも同様に感謝申し上げます。一年間、誠にありがとうございました。

## 「一年間を振り返って」

### 専務理事

久保 辰也



まずは、本年度専務理事としてご指名いただきました野田理事長に本当に感謝申し上げます。

この1年を振り返ってまず出てくる気持ちとしては、出来の悪い専務だったなど実感をしております。

専務経験者である理事長だったからかもしれませんが、何事も理事長が気付く前に先手を打てなかった事や、LOMの失敗は全て専務の責任という事を分かっているながらも放棄してしまった部分や、責任の重さから、その責任に耐えることが出来ず、モチベーションが下がってしまっていた事など、あげればいくらでも浮かんできます。

あと、一宮では少数派であろう、単独専務理事という役であったことでも、自分自身に葛藤があり、LOMの運営をしていくうえでの障害になりました。専務理事は副理事長より格下である。そんな事は分かっています。先輩からは、専務が実質のNO.2だから、そんな事に屈することなく役を全うすればいい。とも言われましたが、私の力ではそれも出来ず、すごく悩みました。役を演じる事もJCの修練のうちだとも思いますが、自分を捨てる事が出来ず、嫌な事等を言い続ける役にはなり切れず、LOMの為の専務としては、落第点の専務だったのではないかと感じております。もう二度と出来ない役職ですので、もっと自分に負荷をかけてやればよかったと後悔をしている部分もあります。でもただの後悔だけで終わらせるわけにはいきませんので、今後の人生においての糧にしていこうと考えております。

しかし、たった1つだけ、どの専務よりも長けていたのではないかとと思う部分としては、どんな時も理事長の側に居た事だと思います。理事長に言われればもちろんですが、そこだけは言われなくても付いて行きました。当たり前と言われれば当

たり前ですが、その当たり前なことを自分の責務であると思い、なんとか全うできたのではないかと感じております。京都会議やサマコンはもちろんの事、東海フォーラム、全国大会八戸大会、世界会議金沢大会、愛知ブロック内のLOMの賀詞や周年式典、とうかい号の出港式や帰港式に加え、とうかい号の寄港地活動の応援に台湾まで行ったり、姉妹JCの大邱江北JCとの交流に候補者段階から行きましたので、2回も大邱に行きましたし、愛知ブロック協議会や東海地区協議会の第1回目や最後の役員会などにもオブザーブ参加等、本当に沢山一緒に廻りました。理事長をお支えで来たか分からないし、大変でしたが、貴重な体験が出来て本当に良かったと思っています。

あと、専務は1年に1人だけという事でよかったことがありました。まずは西尾張の同期の専務との関係が非常に充実した物にできたことや、愛知ブロックの全LOMの専務の皆様と関係性を構築できたことです。西尾張の皆様とは、2か月に1回西尾張の事業のために理事長の皆様が集まって会議を行う理事長会というものがあります。その裏でその事業がスムーズに進むように連携を取る為に専務会というも行っております。その専務会では回を重ねるごとに仲は深まり、分かりませんがきっと、近年にないくらい仲の良い専務会にしていけたのではないかと自負しております。副理事長では各LOM複数名居ますので、ここまでの仲にはならなかったのではないかと感じております。

それと愛知ブロックの専務の皆様とは、LINEで全ての専務と繋がっており、この1年で愛知ブロック専務会なる会を4回開催しました。これも調べたわけではないので分かりませんが、専務全

員が何らかのツールで繋がっていて、ノンオフィシャルで会を開いた年などなかったのではないかと思います。それくらい今年は専務のつながりが非常に充実した年になった事は言うまでもありません。その繋がりから、各 LOM でどんな例会が開催されているのか、どんな試みがあったのか、公益の事について質問を試みたりと、ただ楽しい会だけではなく、情報交換も頻繁に行われておりました。

そんな事から気づいたことは、人間素直に生きる事が大切であると気付きました。西尾張の専務会においても、腹の探り合いみたいな回がありましたが、私の性格上、そういった探り合いは本当に窮屈でしたので、次の回からは自分をさらけ出してぶち当たってみたら、他の専務もぶち当たってくれました。それこそが仲を深め、連携の取れる専務会へと導けたのではないかと考えております。それから愛知の専務会も、会員会議所の懇親会で私が尾張の専務を集め、尾張の専務会をやらうと言っているところに、三河の専務たちもぞろぞろと集まりだしたので、愛知ブロック専務会をやりましょうよと、切り出しましたら、皆様同意で愛知ブロック専務会が開催されることになりました。そんな事から、やはり自分の JC 感というのは、腹の探り合いじゃない、理屈でもない、あなたと繋がりたい、あなたと JC 運動を展開していきたい、あなたとともに過ごしたい。という素直な心で人と接する事が一番大切なんだという事が、確信へと変わった1年でございました。

最後になりますが、理事長には本当にご迷惑ばかりをおかけして、申し訳ありませんでした。でも1年一緒に過ごせたこと、私の財産でございました。ありがとうございました。

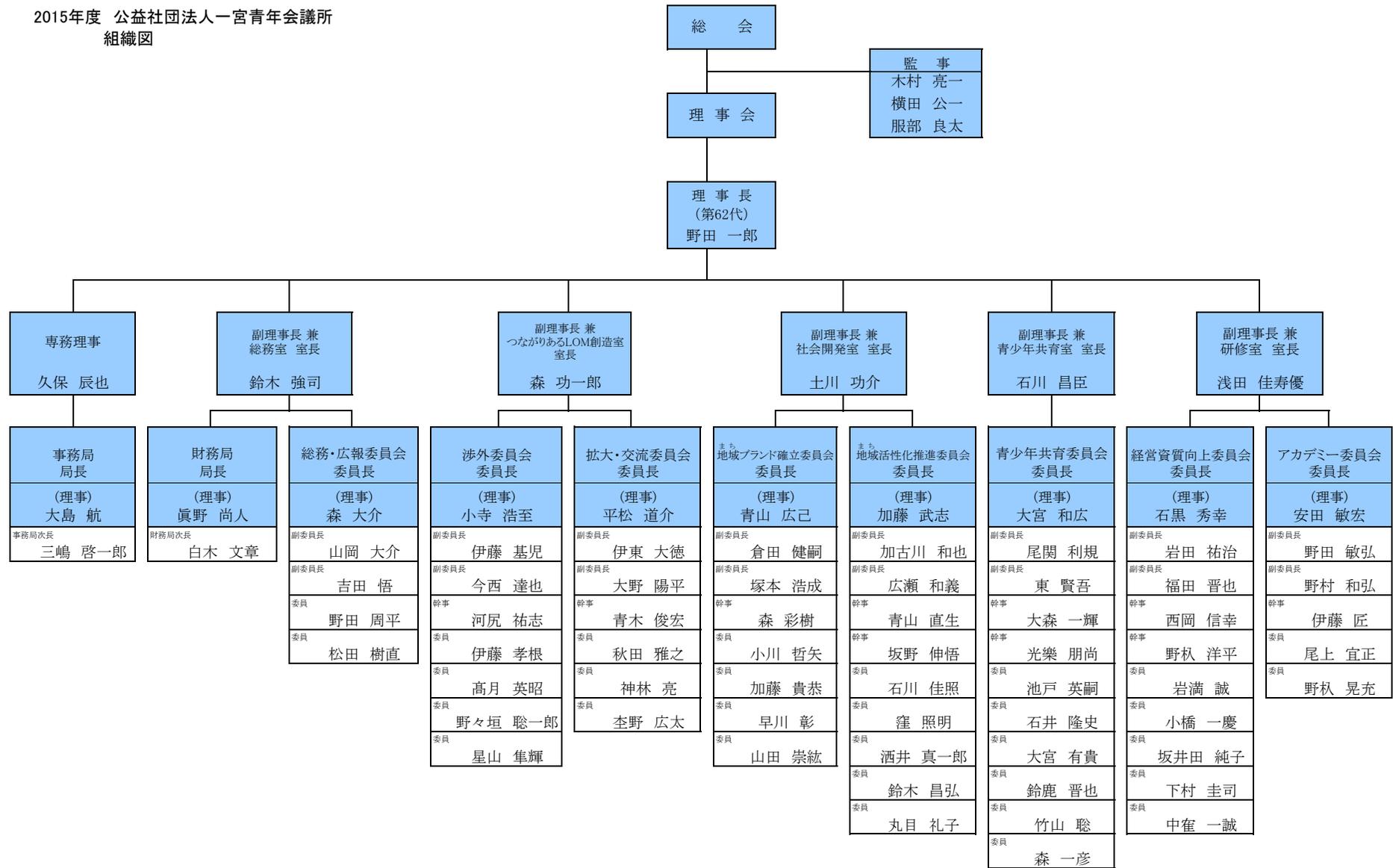
副理事長の皆様、頼りない専務で本当に申し訳ありませんでした。もっとちゃんと導くことが出来れば、もっと器量が備わっていれば、と後悔ばかりですが1年ともに活動が出来た事は一生の財産ですし、生涯の友として宜しく願います。理事の皆様へは、同じく頼りなかったと思います。厳しさの乏しい専務で申し訳ありませんでした。皆様の成長が手に取るように見えて、

羨ましかったです。メンバーの皆様へも、凛とした専務でもないし頼りない専務でしたが、皆様の「専務、専務」とお声をかけて頂けた事だけで、力になりました。本当にありがとうございました。

最後の最後に監事さまへ、1年間のご指導大変ありがとうございました。監事の皆様が居なければ LOM はもとより、私自身さえも全うできませんでした。いろんな場面でお助けいただきまして、本当にありがとうございました。これからも心の監事で居てください。

2015 年度の理事会構成メンバーとして活動が出来た事を誇りに感じます。ありがとうございました。

2015年度 公益社団法人一宮青年会議所  
組織図



## 2015 年度理事会

### 第 1 回理事会 1 月 19 日(月)

#### 一宮市民会館第 1 会議室

①2014 年度一般社団法人一宮青年会議所決算報告書の承認に関する件②2015 年度一般社団法人一宮青年会議所決算報告書の承認に関する件③会員の休会に関する件④正会員及び正会員予定者の確認に関する件⑤委員会・局の構成員・事業計画・事業予算の変更に関する件⑥組織図の修正に関する件⑦日本・地区・ブロックへの出向の変更及び追加に関する件⑧正味財産増減予算書(補正案)に関する件⑨定時総会に関する件⑩地域ブランドの調査・選定(1 月～2 月)に関する件⑪例会の開催(2 月)に関する件⑫2014 年度年会報及び 2015 年度 LOM 基本資料の発行・発送(3 月)に関する件⑬例会の開催(3 月)に関する件

### 第 2 回理事会 2 月 10 日(火)

#### 株式会社土川油店 4 階会議室

①例会の開催(5 月)に関する件②2015 年度日本・地区・ブロックへの出向の変更及び追加に関する件

### 第 3 回理事会 3 月 11 日(火)

#### 一宮市民会館第 4 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②賀詞交歓例会(1 月)の事業報告に関する件③第 42 回 JC 青年の船「とうかい号」の支援・協力(4 月～8 月)に関する件④一宮市民水ロケット教室の開催について協力をお願いに関する件⑤2015 年度理事長候補者・監事候補者選考委員会の決定に関する件

### 第 1 回臨時理事会 4 月 30 日(水)

#### 一宮スポーツ文化センター第 4 会議室

①例会の開催(4 月)に関する件②現状を把握し新しい価値の創造力の養成(5 月～7 月)に関する件

### 第 4 理事会 4 月 10 日(木)

#### 株式会社土川油店 4 階会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②入会 3 年未満研修会の実施(5 月)に関する件③未来を担う子どもたちの「生きる力」の共育(6 月～8 月)に関する件④地域ブランドの確立(6 月～10 月)に関する件⑤ICHINOMIYA 郷土グルメグランプリの開催(6 月～12 月)に関する件⑥2015 年度理事長候補者・監事候補者選考委員会の決定に関する件⑦2015 年度選挙管理委員会の委員の指名に関する件

### 第 5 回理事会 5 月 7 日(木)

#### アイプラザー宮 第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②理事長代行者の承認に関する件③第 60 回おりもの感謝祭一宮七夕まつり「東京ディズニーリゾート・スペシャルパレードに伴うボランティアスタッフご協力」のお願いに関する件

### 第 6 回理事会 6 月 9 日(火)

#### アイプラザー宮第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②地域ブランドの調査・選定(1 月～2 月)の事業報告に関する件③例会の開催(2 月)の事業報告に関する件④例会の開催(3 月)の事業報告に関する件⑤下期正会員予定者オリエンテーションの開催(7 月～12 月)に関する件⑥上期正会員予定者の正会員承認に関する件⑦上期正会員予定者の委員会配属に関する件⑧おりもの感謝祭一宮七夕まつりの協賛に関する件⑨おりもの感謝祭一宮七夕まつり写真コンテストの後援名義及び協賛に関する件⑩2015 年度濃尾大花火大会の協賛に関する件

### 第 2 回臨時理事会 6 月 16 日(火)

#### アイプラザー宮第 6 会議室

①下期オリエンテーションの開催(7 月～12 月)の変更修正に関する件

### 第 3 回臨時理事会 6 月 29 日(月)

#### アイプラザー宮第 6 会議室

①会員の拡大(1 月～12 月)に関する件②会員の休会に関する件③上期正会員予定者の正会員承認に関する件④上期正会員予定者の委員会配属に関する件

### 第 7 回理事会 7 月 8 日(水)

#### アイプラザー宮第 6 会議室

①公益社団法人一宮青年会議所会員資格規程の変更(案)に関する件②第 42 回 JC 青年の船「とうかい号」乗船者募集(1 月～3 月)の事業報告に関する件③例会の開催(3 月)の事業報告に関する件④例会の開催(5 月)の事業報告に関する件⑤138 ハロウィン～おりものパレード～への共催のお願いに関する件⑥地域ブランドの確立(6 月～10 月)の変更修正に関する件⑦事務局夏季休暇に関する件

### 第 8 回理事会 8 月 4 日(火)

#### アイプラザー宮第 6 会議室

①上期オリエンテーションの開催(1 月～6 月)の事業報告に関する件

②入会3年未満研修会の実施(5月)の変更修正に関する件③入会3年未満研修会の実施(5月)の事業報告に関する件④西尾張6JC合同例会の開催(9月)に関する件⑤JCだよりの発行(9月)に関する件⑥2016年度LOM基本資料の作成(9月～12月)に関する件⑦公益社団法人一宮青年会議所会員資格規程の変更(案)に関する件⑧2016年度公益社団法人一宮青年会議所理事及び監事の選任に関する件⑨第1回臨時総会に関する件⑩第14回いちのみやタワーパークマラソンの後援名義使用に関する件

**第4回臨時理事会 8月17日(月)**

**一宮市民会館大会議室**

①2016年度公益社団法人一宮青年会議所理事及び監事の選任に関する件②公益社団法人一宮青年会議所2015年度第1回臨時総会の開催に関する件

**第9回理事会 9月9日(水)**

**アイプラザ一宮第6会議室**

①会員の拡大(1月～12月)に関する件②「一宮市長選挙 公開討論会」の報告に関する件③入会3年未満研修会の実施(5月)の事業報告に関する件④事務局移転のお知らせに関する件⑤公益社団法人一宮青年会議所運営規程の変更に関する件⑥公益社団法人一宮青年会議所会員資格規程の変更(案)に関する件⑦公益社団法人一宮青年会議所役員選出規程の変更(案)に関する件⑧公益社団法人一宮青年会議所経理規程の変更に関する件⑨大江川クリーン作戦の後援名義の使用に関する件

**第10回理事会 10月7日(水)**

**アイプラザ一宮第6会議室**

①会員の拡大(1月～12月)に関する件②例会の開催(4月)の事業報告に関する件③現状を把握し新しい価値の創造力の養成(5月～7月)の事業報告に関する件④例会の開催(11月)に関する件⑤理事長代行者の承認に関する件⑥事務局移転に関する件⑦公益社団法人一宮青年会議所運営規程の変更に関する件⑧公益社団法人一宮青年会議所会員資格規程の変更(案)に関する件⑨公益社団法人一宮青年会議所役員選出規程の変更(案)に関する件⑩公益社団法人一宮青年会議所経理規程の変更に関する件

**第11回理事会 11月10日(火)**

**アイプラザ一宮第6会議室**

①2014年度年会報及び2015年度LOM基本資料の発行・発送(3

月)の事業報告に関する件②未来を担う子どもたちの「生きる力」の共育(6月～8月)の事業報告に関する件③出席率100%及び優秀会員の表彰(12月)に関する件④2015年度年会報の作成(12月)に関する件⑤卒業例会の開催(12月)に関する件⑥事務局冬期休暇に関する件⑦公益社団法人一宮青年会議所運営規程の変更に関する件⑧公益社団法人一宮青年会議所会員資格規程の変更(案)に関する件⑨公益社団法人一宮青年会議所役員選出規程の変更(案)に関する件⑩公益社団法人一宮青年会議所経理規程の変更に関する件

**第12回理事会 12月8日(火)**

**アイプラザ一宮第6会議室**

①会員の拡大(1月～12月)に関する件②第41回JC青年の船「とうかい号」乗船者支援(4月～8月)の事業報告に関する件③西尾張6JC合同例会の開催(9月)の事業報告に関する件④JCだよりの発行(9月)の事業報告に関する件⑤例会の開催(11月)の事業報告に関する件⑥下期正会員予定者の正会員承認に関する件⑦2016年度公益社団法人一宮青年会議所組織図(案)に関する件⑧2016年度公益社団法人一宮青年会議所委員会の基本方針(案)・事業計画(案)・予算(案)に関する件⑨2016年度公益社団法人一宮青年会議所入会金・会費(案)に関する件⑩2016年度公益社団法人一宮青年会議所正味財産増減予算書(案)に関する件⑪2016年度公益社団法人一宮青年会議所事業及び予算の執行に関する件⑫2016年度公益社団法人一宮青年会議所資産の管理方法に関する件⑬2016年度公益社団法人一宮青年会議所顧問・相談役の承認に関する件⑭2016年度公益社団法人一宮青年会議所名誉会員の承認に関する件⑮2016年度公益社団法人一宮青年会議所賛助会員の承認に関する件⑯役員選出総会の開催に関する件⑰特別会員の承認に関する件

**第5回臨時理事会 12月28日(月)**

**株式会社土川油店4階会議室**

①会員の拡大(1月～12月)に関する件②下期正会員予定者の正会員承認に関する件③会員の休会及び休会延長に関する件

**決算理事会 1月6日(火)**

**株式会社土川油店4階会議室**

①熱い情熱を伝播する広報活動(1月～12月)の事業報告に関する件②各種大会・事業・会議への案内及び参加の促進(1月～12月)の事業報告に関する件③出向者の支援・協力(1月～12月)の事業報告に関する件④会員の拡大(1月～12月)の事業報告に関する件⑤126

名以上のLOMに向けて(1月～12月)の事業報告に関する件⑥地域  
ブランドの確立(6月～10月)の事業報告に関する件⑦  
ICHINOMIYA 郷土グルメグランプリの開催(6月～12月)の事業報  
告に関する件⑧ 2016年度LOM基本資料の作成(9月～12月)の  
事業報告に関する件⑨ 2016年度LOM基本資料の作成(9月～12  
月)の事業報告に関する件⑩例会の開催(11月)の事業報告に関  
する件⑪出席率100%及び優秀会員の表彰(12月)の事業報告に関  
する件⑫2015年度年会報の作成(12月)の事業報告に関する件⑬  
卒業例会の開催(12月)の事業報告に関する件⑭2015年度公益社  
団法人一宮青年会議所決算報告書の承認に関する件



#### 定時総会

日時・場所 2015年1月30日(金) 一宮商工会議所 3階大ホール

出席者 53名

- |    |       |                                               |
|----|-------|-----------------------------------------------|
| 議案 | 第1号議案 | 2014年度一般社団法人一宮青年会議所事業報告の承認に関する件               |
|    | 第2号議案 | 2014年度一般社団法人一宮青年会議所収支決算の承認に関する件               |
|    | 第3号議案 | 2015年度一般社団法人一宮青年会議所収支決算の承認に関する件               |
|    | 第4号議案 | 2015年度公益社団法人一宮青年会議所委員会・局の構成・事業計画・事業予算の変更に関する件 |
|    | 第5号議案 | 2015年度公益社団法人一宮青年会議所組織図の修正に関する件                |
|    | 第5号議案 | 2015年度公益社団法人一宮青年会議所正味財産増減予算の修正の承認に関する件        |

#### 第1回臨時総会

日時・場所 2015年8月28日(金) 一宮商工会議所 3階大ホール

出席者 57名

- |    |       |                     |
|----|-------|---------------------|
| 議案 | 第1号議案 | 2016年度役員候補者の承認に関する件 |
|----|-------|---------------------|

#### 役員選出総会

日時・場所 2015年12月22日(火) 一宮商工会議所 3階大ホール

出席者 56名

- |    |       |                             |
|----|-------|-----------------------------|
| 議案 | 第1号議案 | 公益社団法人一宮青年会議所会員資格規程の変更に関する件 |
|    | 第2号議案 | 公益社団法人一宮青年会議所役員選出規程の変更に関する件 |

- 第3号議案 公益社団法人一宮青年会議所経理規程の変更に関する件
- 第4号議案 2016年度公益社団法人一宮青年会議所組織図及び委員会・局の構成に関する件
- 第5号議案 2016年度公益社団法人一宮青年会議所委員会の基本方針(案)・事業計画(案)・予算(案)に関する件
- 第6号議案 2016年度公益社団法人一宮青年会議所正味財産増減予算書(案)に関する件
- 第7号議案 2016年度公益社団法人一宮青年会議所資金の管理方法に関する件
- 第8号議案 2016年度公益社団法人一宮青年会議所顧問・相談役の承認に関する件

1 月度例会	総務・広報委員会
	<p>1月13日(火) 尾張一宮駅前ビル i-ビル シビックホール 賀詞交歓例会</p>
2 月度例会	拡大・交流委員会
	<p>2月2日(月) 一宮市民会館 大会議室 拡大の意義を伝え意識と実行力を高めることにより、全会員による拡大活動を加速させる。</p>
3 月度例会	経営資質向上委員会
	<p>3月19日(木) 尾張一宮駅前ビル i-ビル 大会議室 『人々とのつながりを大切にし、 地域から信頼される企業づくり』</p>
4 月度例会	拡大・交流委員会
	<p>4月18日(土) アイプラザ一宮 体育室 仲間との交流により、 LOMをより強固な一枚岩にする</p>
5 月度例会	青少年共育委員会
	<p>5月10日(日) 一宮市総合体育館 多目的室 スプリングチャレンジ ～つみ木でめばえ♪豊かな心～</p>
6 月度例会	地域ブランド確立委員会
	<p>6月13日(土) 尾張一宮駅前ビル i-ビル シビックホール 地域ブランドの確立 ～つながりの始動～</p>

7 月度例会	経営資質向上委員会
	<p>7 月 9 日 (木)</p> <p>尾張一宮駅前ビル i-ビル シビックホール</p> <p>『イノベーション～常識を打ち破れ～』</p>
8 月度例会	青少年共育委員会
	<p>8 月 8 日 (土)～9 日 (日)</p> <p>かみいしづ緑の村公園</p> <p>第 2 回サマーアドベンチャー</p> <p>～自然の中で秘密基地づくり～</p>
西尾張 6JC 合同例会 (9 月度例会)	総務・広報委員会
	<p>9 月 19 日 (土)</p> <p>津島市生涯学習センター 大ホール</p> <p>「ディズニーランド“本気のブランディング”」</p>
10 月度例会	地域活性化推進委員会
	<p>10 月 17 日 (土)</p> <p>138 タワーパーク</p> <p>第 4 回 ICHINOMIYA<sup>ふるさと</sup>郷土グルメグランプリ</p> <p>～創りだそう！魅力あふれる「一宮めし」！</p> <p>for the future～</p>
11 月度例会	渉外委員会
	<p>11 月 12 日 (木)</p> <p>アイプラザ一宮 小ホール</p> <p>出向先での経験を全会員が共有し、LOM の資 質向上を図る</p>
12 月度例会	アカデミー委員会
	<p>12 月 10 日 (木)</p> <p>アイプラザ一宮 小ホール</p> <p>卒業例会</p>

# 事務局

## 1. 事務局構成メンバー

専務理事 久保辰也  
事務局長 大島航  
事務局次長 三嶋啓一郎



## 2. 理事会開催報告

内容	月日	場所	内容
理事オリエンテーション	8月30日	ぎふ長良川温泉ホテルパーク会議室	内容につきましては、理事会報告をご覧ください。
第1回理事候補者会議	9月2日	一宮スポーツ文化センター第4会議室	
第2回理事候補者会議	9月29日	株式会社土川油店4階会議室	
第3回理事候補者会議	10月17日	株式会社土川油店4階会議室	
第4回理事候補者会議	11月4日	株式会社土川油店4階会議室	
第5回理事候補者会議	11月26日	株式会社土川油店4階会議室	
第6回理事候補者会議	12月17日	株式会社土川油店4階会議室	
第1回理事会	1月19日	一宮市民会館第1会議室	
第2回理事会	2月10日	株式会社土川油店4階会議室	
第3回理事会	3月10日	一宮市民会館第4会議室	
第1回臨時理事会	3月26日	株式会社土川油店4階会議室	
第4回理事会	4月10日	アイプラザー宮第6会議室	
第5回理事会	5月7日	アイプラザー宮第6会議室	
第6回理事会	6月9日	アイプラザー宮第6会議室	
第2回臨時理事会	6月16日	アイプラザー宮第6会議室	
第3回臨時理事会	6月29日	アイプラザー宮第6会議室	
第7回理事会	7月8日	アイプラザー宮第6会議室	
第8回理事会	8月4日	アイプラザー宮第6会議室	
第4回臨時理事会	8月17日	一宮市民会館大会議室	
第9回理事会	9月9日	アイプラザー宮第6会議室	
第10回理事会	10月7日	アイプラザー宮第6会議室	
第11回理事会	11月10日	アイプラザー宮第6会議室	
第12回理事会	12月8日	アイプラザー宮第6会議室	
第5回臨時理事会	12月28日	株式会社土川油店4階会議室	
決算理事会	1月6日	株式会社土川油店4階会議室	

<p><b>3. 他LOMとの交流</b>          公益社団法人名古屋青年会議所・公益社団法人豊橋青年会議所・一般社団法人豊田青年会議所・大韓民国社団法人大邱江北（テグカング）青年会議所が相互に発展する為、情報交換を目的に開催される会議です。          「名豊一会」          開催日：2015年2月23日          開催場所：関谷醸造          参加LOM：公益社団法人名古屋青年会議所          公益社団法人豊橋青年会議所          公益社団法人一宮青年会議所          会議内容：2015年度年間事業計画説明並びに質疑応答          「豊一会」          開催日：2014年12月4日          開催場所：一宮市総合体育館・日本料理江美          参加LOM：一般社団法人豊田青年会議所          公益社団法人一宮青年会議所          会議内容：2015年度年間事業計画説明並びに質疑応答          「姉妹会議」          開催日：2015年4月19日          開催場所：ナディアパークビジネスセンタービル会議室          参加LOM：大韓民国 社団法人大邱江北（テグカング）          青年会議所 公益社団法人一宮青年会議所          会議内容：2015年度年間事業計画説明並びに質疑応答</p>		第4回 第5回 第6回	2015年6月15日 2015年8月25日 2015年10月27日
<p><b>4. 公益社団法人日本青年会議所 東海地区          愛知ブロック協議会 会員会議所会議</b>          愛知ブロック協議会と愛知ブロック 33LOM の理事長で行われる会議です。</p>			
第1回候補者会議 第2回候補者会議 第1回会員会議所会議 第2回会員会議所会議 第3回会員会議所会議 第4回会員会議所会議 第5回会員会議所会議 第6回会員会議所会議	2014年10月25日 2014年11月15日 2015年1月31日 2015年4月4日 2015年5月9日 2015年7月25日 2015年9月23日 2015年11月14日		
<p><b>5. 西尾張6JC正副理事長会議</b>          西尾張6JCの正副理事長で行われる会議です。</p>			
第1回 第2回 第3回	2014年12月9日 2015年2月9日 2015年4月27日		<p><b>6. 最後に</b>          「大島君しかいない。」          久保専務にこの言葉をいただき、私の事務局長としての役割がスタートしました。2013年2014年と2年度理事が務めてきたこの役職を、理事経験もなく知識も浅い私が全うするにあたって、常にこの言葉を胸に活動し、この言葉に答えたいという思いで活動してきました。理事の中で唯一議案作成がなく、理事としては末席に位置するという反面、実際の行動は常に理事長や専務と行動を共にし、多角的な視点が養え、数多くの経験ができ、思考だけは上昇していくというジレンマに何度も落ち入りました。そんな時いつも話を聞いてくださり助けてくれたのは野田理事長や久保専務や監事・理事の理事会構成メンバーでした。この2015年度のメンバーでなければ私が最後まで事務局長という役職を走り抜けることはできなかったと思います。皆様には本当に感謝申し上げます。          また、1年4ヶ月を通して影ながら常に私を支えていただき、理事会の運営や議事録の作成、会場の予約等を滞りなくやってくれた事務局次長の三嶋啓一郎君には本当に感謝の言葉しかありません。やって当たり前と言われる役割ばかりで、三嶋君には陽の当たる機会がほとんどなくとも残念な思いがありますが、この理事会で得た経験を自信に変えて次年度以降羽ばたいていく三嶋君を見られるのがとても楽しみです。三嶋君と1年4ヶ月を共に過ごせて本当に良かったです。ありがとうございました。          そして私のみならず全ての一宮青年会議所メンバーをずっと支えていただいている事務局員の長谷川さんにも本当に感謝ばかりです。就業時間外であっても常に一宮青年会議所を気にかけていただき、心配事があれば連絡をくれ、事務局に行けばいつも助けてくれた長谷川さんがいるからこそ、組織が長い間成り立っているのだと思います。ありがとうございました。          最後になりますが、いつも背中を押してくれて快く送り出してくれた家族と会社の従業員への感謝を忘れることなく、まだ残り7年ある青年会議所活動に事務局長としての経験を生かしていくとともに、公益社団法人として様々な素晴らしい事業・活動の影には常に下支えしてくれているメンバーがいることを絶対に忘れない様に今後活動していくことをお誓いいたします。この大役を担わせていただき本当にありがとうございました。</p>

## 財務局

### 1. 財務局構成メンバー

担当副理事長 鈴木 強司  
局 長 眞野 尚人  
局 次 長 白木 文章



### 2. 事業報告

#### ①事業計画1 会員の拡大(1月～12月)

熱い情熱をより広く伝播するために会員の拡大が必要不可欠と考え、委員会全体で拡大活動を行って参りました。委員会で拡大情報を交換し、拡大懇親会に拡大対象者を連れて参加し、拡大活動に精力的に取り組みましたが、結果として拡大に至ることができませんでした。このことに関しては、深く反省しております。拡大活動に積極的に参加していただきました白木次長ありがとうございました。

#### ②事業計画2 財務の管理運営(1月～12月)

将来的に公益社団法人として永続していく為の第一歩を歩き出すにあたり、一つでも多くの課題を明確にし、後世へ繋がる基盤をつくるべく先ずは候補者段階から公益事業比率及び公益事業委従事者按分を加味した組織図作りを行いました。体内例会・事業の委員会と対外(公益性のある)の例会・事業を持つ委員会では大きく予算と人数に差をつけました。特に負担を掛けたのは予算も人も大幅に減らすこととなった体内向けの委員会だと思えます。中々ご希望の予算を支出することができず希望に添えない部分もあったことと思えますが、何とか例会・事業を行っていただきまして誠にありがとうございました。対して、対外向けの委員会に於きましても、今までにない多くの委員会メンバー、大きな予算を使いよりスケールの大きな例会・事業を行わなければならないという条件の中で、多大なご苦労があったことと存じますが無事に事業を終えられましたこと、本当にお疲れさまでした。外部が無事に決算を迎えることができました。

#### ③事業計画3

##### 公益社団法人として組織の地盤を固める(1月～12月)

一宮青年会議所の伝統である上期予定者下期予定者制度の見直しに踏み切りました。これは愛知県庁担当者との確認不足でありましたが公益事業従事者按分に絡みまして、予算組の時点(年初)で計算した体内事業従事者数:対外(公益事業)従事者数の比率が50%を超えていれば良いという認識で引継ぎを受けておりましたが、愛知県庁担当者とのやり取りの中で、期末(12月末)時点での比率で50%を超えなくてはいけないと云う事が判明しました。これは一宮青年会議所独自の上期・下期予定者期間を経て正会員扱いになる1月と7月に正会員の人数・会

費収入が変動する要因となり、7月に正会員認証された上期予定者会員は原則アカデミー委員会への配属となることになっており、体内事業従事者が増える要因となってしまいます。拡大人数も仮定、その拡大して予定者が正会員認証条件をクリアするのも未定、そうすると、沢山の予定者を拡大し過ぎてしまった場合12月末時点での体内事業従事者数:対外(公益事業)従事者数の比率が50%を超えない可能性も出てしまうことになり兼ねません。数回に渡る会議を経て、上期予定者(1月～6月オリエンテーション)のみ存続させ、7月に無事正会員認証された後は対外系の委員会へ配属するという形でまとめ、諸規定変更も行い、無事に理事会承認していただきました。新たに見つかった課題として、周年事業のための積立て金をどのような名目で積み立てていくのか、また、日本JICなどへの負担金を公益事業費として申請することができれば、固定費の圧縮となり、会員数が減少しても公益事業比率50%を満たすことを容易にしてくれることが期待できましたが、愛知県担当者との交渉の中では今のところ難しいことも分かりました。支出面での削減にも限界が見えてきた場合には、外部資金の導入とともに、収入を上げるために年会費の増額といったことも視野に入れておく必要があると思えますが、これらは次年度以降への引継ぎ事項とさせていただこうと思えます。

### 3. 最後に

最後になりますが、表立って見える活動は無かったにも拘らず、一年間私を支えてくれた白木次長には大変感謝申しあげます。本職だけあって、適切な意見アドバイスをいただくことができ大変助かりました。本当にありがとうございました。また正副・理事会の場では、理事の皆様は数字に関わる細かい指摘ばかり申し上げ嫌な思いもされたかと思いますが候補者段階から16か月間にわたり苦楽をともにした正副理事メンバーの皆さま本当に一年間お疲れさまでした。一緒に活動できた時間は掛け替えのない物となりました、本当にありがとうございました。

# 総務・広報委員会

## 1. 委員会構成メンバー

担当副理事長 鈴木 強司  
 委員長 森 大介  
 副委員長 山岡 大介  
 副委員長 吉田 悟  
 委員 野田 周平  
 委員 松田 樹直



## 2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月19日	菊水会議室	①基本方針(案)について
第2回予定者委員会	10月6日	株式会社大志 会議室	①基本方針(案)について ③予算(案)について ⑤事業計画4(案)について
第3回予定者委員会	10月24日	株式会社大志 会議室	①基本方針(案)について ③予算(案)について ⑤事業計画4(案)について
第4回予定者委員会	11月10日	株式会社大志 会議室	①基本方針(案)について ③予算(案)について ⑤事業計画4(案)について
第5回予定者委員会	11月27日	株式会社八丁商会 会議室	①基本方針(案)について ③予算(案)について
第1回委員会	1月12日	尾張一宮駅前ビル シビックホール	①基本方針・事業計画・予算の変更について ③事業計画5について
第2回委員会	1月27日	株式会社八丁商会 会議室	①事業計画1について
第3回委員会	2月20日	株式会社八丁商会 会議室	①事業計画1について
第4回委員会	3月20日	株式会社八丁商会 会議室	①事業計画1について
第5回委員会	4月20日	株式会社八丁商会 会議室	①事業計画1について
第6回委員会	5月25日	株式会社八丁商会 会議室	①事業計画1について ③事業計画7について
第7回委員会	6月24日	株式会社八丁商会 会議室	①事業計画1について ③事業計画7について
第8回委員会	7月22日	株式会社八丁商会 会議室	①事業計画1について ③事業計画7について
第9回委員会	8月20日	株式会社八丁商会 会議室	①事業計画1について ③事業計画10について ⑤会員資格規程の変更(案)について ⑦経理規程の変更(案)について
第10回委員会	9月18日	株式会社八丁商会 会議室	①事業計画1について ③事業計画10について ⑤会員資格規程の変更(案)

第 1 1 回 委 員 会	10月16日	株 式 会 社 八 丁 商 会	会 議 室	について ⑦経理規程の変更(案)につ いて	⑥役員選出規程の変更(案) について
第 1 2 回 委 員 会	11月20日	株 式 会 社 八 丁 商 会	会 議 室	①事業計画1について ③事業計画10について ⑤会員資格規程の変更(案) について ⑦経理規程の変更(案)につ いて	②事業計画9について ④運営規程の変更につい て ⑥役員選出規程の変更(案) について ⑧事業計画5の事業報告に ついて
第 1 3 回 委 員 会	12月21日	株 式 会 社 八 丁 商 会	会 議 室	①事業計画1について ③事業計画8の事業報告に ついて ⑤事業計画10の事業報告 について	②事業計画4の事業報告に ついて ④事業計画9の事業報告に ついて

### 3. 事業報告

#### ①事業計画1 会員の拡大(1月～12月)

熱い情熱をより広く伝播するために会員の拡大が必要不可欠と考え、委員会全体で拡大活動を行って参りました。委員会で拡大情報を交換し、拡大懇親会に拡大対象者を連れて参加し、拡大活動に精力的に取り組みましたが、結果として拡大に至ることができませんでした。このことに関しては、深く反省しております。拡大活動に積極的に参加していただきました委員会メンバー・スタッフに感謝申し上げます。

#### ②事業計画2 賀詞交歓例会の開催(1月)

本年の賀詞交歓例会は、公益社団法人一宮青年会議所として、記念すべき最初の例会となるということで、委員会メンバー一同、事前の準備に取り組んでまいりました。そして、委員会メンバーを始め、各メンバーひとりひとりが各持場の役割のなかで支えていただくことで、新たな一步を踏み出した2015年度公益社団法人一宮青年会議所がどのような活動を行っていくのかということ、理事長所信を始め、来賓の皆様をおもてなしするメンバーの皆様の立ち居振る舞いからも、関係者・関係諸団体の皆様に広く強く発信することができました。しかしながら、準備に準備を重ねても、不備不足が多々あり、多くの方々にご迷惑をおかけしてしまうこととなってしまいました。そのような中でも大きな問題もなく、会を進められたことは、ご出席いただきましたメンバーの皆様のおかげと、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

#### ③事業計画3 総務の管理運営

昨年は、総務局として総務単独での活動でしたが、本年度は、総務・広報委員会としての活動となりました。広報の動きの傍ら、個人情報管理・書類管理・計報連絡はもとより、時代に即した定款諸規程に改定する活動に注力して活動して参りました。特に、マイナンバー制度が始まる次年度に向けての活動は、次年度にしっかりと伝えて、より適切な運営が永続的にできるようにしたいと考えております。

#### ④事業計画4 熱い情熱を伝播する広報活動(1月～12月)

本年度、広報を担当する委員会として、総務・広報委員会が、広報を担当するにあたり、例年、事業計画として、ホームページやFacebookの管理運営といった事業と、全般的な広報の運営といった事業とが分かれていたものを、ホームページやFacebookの管理運営は、広報における一つの手法であるという考え方のもと、広報全体の運営という議案にまとめさせていただき、広報事業を展開することとさせていただきます。一宮青年会議所がこういった団体であるか、この地域において一宮青年会議所がこういった活動を行っているのか、ということ発信していくことが必要なことでしたが、そういった点において、多々反省点を残す活動となってしまいました。ホームページやFacebookなどを連携させ、広く地域の人たちに定期的に情報を発信する理想を掲げておりましたが、Facebookにおける一宮青年会議所のページに対する「いいね」の数も、年始での371件から447件となっており、増加はしているものの物足りない数字と反省しております。ホームページにおける工夫やブログの運営などにおいて、至らぬ点が多々あり、様々な点からアプローチをしていく手法をとったにもかかわらず、そういった点に手が回りきらなかったことは、メンバーの少ない委員会のなかで運営していくことのむずかしさを、改めて感じさせられました。メンバーの少ない委員会運営の中では、多種多様な手法を選択して行くのではなく、確実に効果の得られる芯の通った手法を徹底的に行っていくこと

が、最低限必要なことと感じ、そういったところをしっかりと次年度に引継いで参りたいと感じております。本年、一年間を通して、総務・広報委員会とともに活動していただいたメンバー、そして、集客活動などにおいて情報発信に携わっていただいたすべてのメンバーに、広報担当委員長としてお礼を申し上げますとともに、反省点を次年度以降の活動に引継ぎ、活かしていきたいと思っております。

#### ⑤事業計画5 2014年度年会報及び2015年度LOM基本資料の発行・発送(3月)

本年もLOM基本資料に関しては冊子で発行し、年会報に関してはホームページで公開しました。LOM基本資料に関しては、発行にあたり、総務・広報委員会内で前年度作成の資料を繰り返し校正してまいりましたが、正副理事長・各委員長の皆様にもご協力いただくことで、より正確な基本資料が作成できると感じました。年会報に関しては、より多くの人に見ていただくことを考えると引き続きホームページでの公開をしていただきたいと思っております。最後になります校正作業にご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

#### ⑥事業計画6 西尾張6JC合同例会の開催(9月)

まずは、本年、総務・広報委員会として西尾張6JC合同例会を担当させていただきましたことにお礼申し上げます。この西尾張6JC合同例会は、かつては、夢エリア合同例会として、西尾張6JCの各LOMから出向という形で組織体を作り、合同例会を行ってまいりました。その夢エリア合同例会も一昨年に6年間の持ち回りを終え、昨年は、一宮青年会議所が主管LOMとして開催し、そして、本年、初めて、出向者を輩出する形でもなく、主管という形でもない形式で開催させていただき例会となりました。そのような中、総務・広報委員会としては、主管LOMが立案した例会に対して、一宮青年会議所としてコミットする姿を見せる為に、こういった行動ができるか、こういった参画をすべきか、ということ念頭に事業として展開してまいりました。そして、メンバーの皆様を始め、正副理事長・次年度正副理事長・各委員長の皆様に多大なるご理解とご協力をいただき、どうにか、一宮青年会議所としてのコミットする姿を、西尾張5JCの皆様にも示すことができました。本当にありがとうございました。この西尾張6JC合同例会は、今後も継続的に各LOMが持ち回り主管を行い、事業が開催されていきます。今回の反省を活かすべく、次年度以降に引継ぎをしっかりと行ってまいります。事業を作るのは、主管LOMであることは紛れもないところではありますが、実働の部分での協力をしていくに当たり、事業自体の企画段階での情報共有は、間違いなく実働部分の効率を上げ、集客活動や集客数実績のみならず事業全体のクオリティをあげていくことになると考えます。最後になりますが、6JC合同例会を一宮青年会議所9月度例会として行うにあたり、ご協力をいただきましたメンバーの皆様、正副理事長はじめとする理事会構成メンバーの皆様、また、財務局を含む総務室のメンバーの皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

#### ⑦JCだよりの発行(9月)

野田理事長、土川理事長候補者及び各委員長の皆様

にはご多忙の中原稿作成にご協力いただき、ありがとうございました。皆様期限内の原稿提出にご協力いただき、スケジュールどおりにJCだよりを発行することが出来ました。本年度は、昨年に引き続き、対内向け、対外向けのJCだよりを作成し、それぞれ青年会議所関係者、一般の方が関心を持つ内容になるよう心がけました。また、JCだよりをホームページ・Facebookに掲載し、より多くの方に見ていただけるようにしました。これにより、一宮青年会議所が行っている活動をより分かりやすく、より多くの方に伝え、私たちの熱い情熱を地域(まち)の人々に伝播することができたと感じています。最後になりますが、原稿作成にご協力いただいた皆様、公開例会、公開事業等での配布の機会を与えてくださった委員長の皆様に厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

#### ⑧事業計画8 2016年度LOM基本資料の作成(9月～12月)

本事業は、LOMの事業が円滑に遂行されるようにするために必要な情報を記載したLOM基本資料を作成する重要な事業となります。その資料には、誤りがあるはずはなく、また、常に最新の情報が記載されることが要求されます。しかしながら、これらの情報は、各会員・特別会員の皆様のご協力なくしてはなしえません。本事業にあたり、ご協力いただきましたすべての会員・特別会員の皆様に改めてお礼申し上げます。さて、本年度の本事業にあたっては、昨年作成されたデータベースを活用し、会員・特別会員の皆様から寄せられた更新情報などをデータベース上にて更新していくことで進めて参りました。本事業における目的であるLOMの事業の円滑な遂行という点においては、このデータ管理を一元的に行うことで、より会員と特別会員との間の情報交換がスムーズに行われ、ひいては、事業を行うことにおいても情報交換が円滑に行われ、LOM全体の事業がより円滑になっていくと感じます。特別会員である諸先輩方との情報交換こそが、歴史と伝統を次代に紡いでいくことの本質であると考えます。改めて、本年度の本事業にご協力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### ⑨事業計画9 出席率100%及び優秀会員の表彰(12月)

本年度も、出席率100%会員と会員の投票による優秀会員の表彰を行いました。投票にご協力いただきましたメンバーの皆様にお礼申し上げます。誠にありがとうございました。本年は、メールでの投票受付に加え、卒業例会や懇親会開会前の待ち時間などで投票用紙を印刷・持参し、投票を受け付けるようにいたしました。その結果、8割近いメンバーの方々に投票をしていただくことができました。次年度以降も同様な事業があれば、ぜひ、より多くのメンバーに投票していただけるような工夫をご検討いただきたいと思います。優秀会員投票においては、部門を3部門とさせていただき、本年度のテーマの一つでもあった入会3年未満のメンバーにスポットをあて、現状をすこしでも打開するためにあえて理事会構成メンバーを対象とした賞を設定しました。受賞された皆様にスピーチをしていただいたことにも改めてお礼申し上げます。本事業において目指しているところが多くのメンバーに伝わったことと思います。誠にありがとうございました。

#### ⑩事業計画10 2015年度年会報の作成(12月)

まずは、年会報の原稿を依頼させていただき、快く原稿を作成していただきましたメンバーの皆様に厚く御礼

申し上げます。年会報の作成は、その年の年末に、どういった年を過ごしてきたか、ということ振り返る事業になります。それは、その年ばかりではなく、次年度として動き出した頃や、入会したばかりの頃からさかのぼって振り返る必要があります、その期間の間で自分自身がどのように変化したのか、どのような成長を遂げたのかを確認し、定着させる活動でもあると思います。そういった振り返りや検証を行ってはいじめて、次の活動へのヒントやきっかけが生まれるのだと思います。年会報を作ることが、一宮青年会議所の歴史を作る。メンバーの成長を確たるものとする。そうして出来上がった年会報をすべてのメンバーが熟読し、そこから派生するものが、次年度以降の活動につながる。という年会報事業の重要性をメンバーに発信できるように引継ぎをさせていただきたいと考えております。最後になりますが、改めて、年末のお忙しい中、年会報原稿を作成させていただいた皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## 4. 最後に

本年、総務・広報委員会は、委員長である私と、2名の副委員長、2名の委員メンバーの合計5名での活動となりました。日々の総務としての役割を粛々とこなしながら、広報の活動を行うという担いのなかで、総務室に属する財務局の2名のメンバーにもさまざまなところで多大なるご協力をいただき、どうにか一年間の担いを終えることができました。最も多い事業計画を抱える委員会として、また、事業計画に現れないさまざまな活動のある総務・広報委員会の委員長として、至らない点が多々あった活動だったと反省しております。総務や広報の活動について、未知で、未熟な委員長を様々な形で支えていただいた委員会スタッフ、委員メンバー、また、同じ総務室の財務局のメンバーの皆様に、改めて、あつくお礼申し上げます。また、新たな担いを与えていただき、成長の機会を与えていただいた担当副理事長にもあつくお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

# 渉外委員会

## 1. 委員会構成メンバー

担当副理事長	森 功一郎	野々垣聡一郎
委員長	小寺 浩至	星山 隼輝
副委員長	伊藤 基児	
副委員長	今西 達也	
幹事	河尻 祐志	
委員	伊藤 孝根	
委員	高月 英昭	



## 2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月18日	菊水会議室	①基本方針案について
第2回予定者委員会	10月6日	カネージュビール3階会議室	①基本方針案について ②事業計画案について
第3回予定者委員会	10月20日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について ④事業計画2案について ⑤事業計画3案について ⑥事業計画4案について
第4回予定者委員会	11月17日	木乃婦会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について ④事業計画2案について ⑤事業計画3案について ⑥事業計画4案について
第5回予定者委員会	12月9日	浜島防災システム(株)会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について ④事業計画2案について ⑤事業計画3案について ⑥事業計画4案について
第1回委員会	1月7日	浜島防災システム(株)会議室	①予算案について ②事業計画1について
第2回委員会	1月27日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①事業計画1について ②事業計画5について
第3回委員会	2月25日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①事業計画1について ②事業計画5について
第4回委員会	3月24日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①事業計画1について ②事業計画2決算について
第5回委員会	4月21日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①事業計画1について ②事業計画2決算について
第6回委員会	5月24日	(株)Harbor Create	①事業計画1について ②事業計画2決算について
第7回委員会	6月23日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①事業計画1について ②事業計画2決算について
第8回委員会	7月22日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①事業計画1について ②事業計画6について
第9回委員会	8月22日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①事業計画1について ②事業計画6について
第10回委員会	9月24日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①事業計画1について ②事業計画6について
第11回委員会	10月28日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①事業計画1について ②事業計画6について
第12回委員会	11月18日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①事業計画1について ②事業計画5決算について
第13回委員会	12月26日	ヴァーゼルテクノロジー&コミュニケーション会議室	①事業計画1について ②事業計画3決算について ③事業計画4決算について ④事業計画6決算について

### 3. 事業報告

#### ①事業計画1 会員の拡大（1月～12月）

更なる LOM の資質向上には会員の拡大が不可欠であると考え、一年間会員拡大の活動を行ってきました。しかしながら目標人数には達しなかったことをお詫び申し上げます。

最後まで積極的に拡大活動を行ってくれました委員会メンバーの皆様には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### ②事業計画2 第42回 JC 青年の船「とうかい号」乗船者募集（1月～3月）

第42回 JC 青年の船「とうかい号」の乗船者募集を行わせて頂きました。本年は、前年にも行っていた、ロータリークラブやライオンズクラブ等の他団体の例会にも参加させて頂き PR 活動をさせて頂きました。そして色々な企業にも説明させて頂き、一宮青年会議所より5名の一般乗船者を輩出する事が出来ました。ご協力頂きました企業様、そして会員の皆様には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### ③事業計画3 各種大会・事業・会議への案内及び参加の促進（1月～12月）

会員の皆様に対して各種大会・事業・会議への参加の向上を図る為に渉外メールマガジン等で興味や意義をもって頂く活動を展開していきました。また、各種大会・事業・会議へ参加する事が LOM の資質向上にもつながると言う事を理解して頂けるように活動を展開しました。多くの会員の皆様にも理解して頂き多くの会員の方々に参加して頂きました事、誠に感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### ④事業計画4 出向者の支援・協力（1月～12月）

本年度、渉外委員会は、出向者と LOM の相互協力を目的とし活動していきました。しかしながら、実際は相互協力の為の懸け橋に渉外委員会がなれず多くの出向者の方々にはご迷惑をおかけしました、お詫び申し上げます。

#### ⑤事業計画5 第42回 JC 青年の船「とうかい号」乗船者支援（4月～8月）

第42回 JC 青年の船「とうかい号」は「切り拓け！情熱の航路～最高の仲間たちと最高の未来へ～」をテーマに5月31日から6月7日までの間、寄港地台湾での寄港地活動と洋上研修を終えて帰港いたしました。1週間もの間、快く乗船させて頂いた企業様には心より感謝申し上げます。また、本年度は、各とうかい号事業に理事会構成メンバーの皆様にも乗船者の皆様の激励に来て頂いたことにも感謝申し上げます。今回の事業をへて、何事にも前向きに真剣に取り組まれていた乗船者皆様の活躍を心からご祈念申し上げます。そして、乗船者皆様の支援をご協力頂きました、会員の皆様にも感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### ⑥事業計画6 例会の開催（11月）

出向者の経験を個々が共有し、LOM の資質向上を図る、をテーマに例会を開催させて頂きました。出向者の代表者の方々に一年の出向活動を振り返って頂き、学んだことや、気づき、出向先での多くの経験についてお話頂きました。また、経験を共有できるよう、グループディスカッションをし、出向者と会員とがテーマにそって意見交換をして頂きました。

ご協力頂きました、出向者の皆様及び参加頂いた会員の皆様には心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

開催場所:アイプラザ 小ホール

### 4. 最後に

2016年度の渉外委員会は、8名のメンバーと担当副理事長を含め9名のメンバーで活動させて頂きました。委員長を拝命し、委員長のやりがいや、重要性、責任の重さを感じさせて頂きました。今までの活動では感じる事ができなかった一年でした。

最後まで支えて頂いた、スタッフ、委員会メンバーに本当に感謝しております。本年度の経験をこれからの JC 活動に活かしていきたいと思えます。1年間、本当にありがとうございました。

# 拡大・交流委員会

## 1. 委員会構成メンバー

担当副理事長 森 功一郎  
 委員長 平松 道介  
 副委員長 伊東 大徳  
 副委員長 大野 陽平  
 幹事 青木 俊宏  
 委員 秋田 雅之  
 委員 柰野 広太

神林 亮



## 2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月2日	菊水 会議室	①基本方針案に関する件
第2回予定者委員会	10月2日	(株)大志 2F 会議室	①基本方針案・事業計画案・ 予算案に関する件 ②事業計画1案に関する件
第3回予定者委員会	10月23日	(株)大志 2F 会議室	①基本方針案・事業計画案・ 予算案に関する件 ②事業計画1案に関する件
第4回予定者委員会	11月17日	名古屋市駅前ベンチャーオフィス	①基本方針案・事業計画案・ 予算案について ②事業計画1案に関する件 ③事業計画2案に関する件 ④事業計画3案に関する件
第5回予定者委員会	12月10日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1案に関する件 ②事業計画2案に関する件 ③事業計画3案に関する件 ④事業計画4案に関する件
第1回委員会	1月9日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画4に関する件 ③事業計画5に関する件
第2回委員会	1月26日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画5に関する件
第3回委員会	2月20日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画5に関する件
第4回委員会	3月18日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画4の事業報告に ③事業計画5に関する件 関する件
第5回委員会	4月23日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画4の事業報告に 関する件
第6回委員会	5月25日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画4の事業報告に ③事業計画5 報告事項に関 関する件 する件
第7回委員会	6月22日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画5の事業報告に 関する件
第8回委員会	7月16日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画5の事業報告に 関する件
第9回委員会	8月24日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画5の事業報告に 関する件
第10回委員会	9月24日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画5の事業報告に 関する件
第11回委員会	10月21日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件
第12回委員会	11月20日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件
第13回委員会	12月16日	(株)HarborCreate 会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画2の事業報告に

			関する件
--	--	--	------

### 3. 事業報告

#### ①事業計画 1

会員の拡大 (1月～12月)

本年度の会員拡大の目標を理事長所信にあります2000年代最大の会員数を目標としてきました。

2000年代最大の会員数は126名以上です。その126名以上を目標とし、全会員での拡大活動に邁進して参りました。

年初に野田理事長より一人目の会員拡大をして頂いた事をスタートに上期11名の会員拡大を行いました。

しかし、当初の目標である126名以上の会員数にするには全く足りていない数字の結果でありました。

下期にこの数字以上の結果を残すために全員拡大を行えるように気軽に参加できる拡大懇親会を実施して参りました。LOMメンバーや拡大対象者にも気軽に参加して頂き、そこでLOMの活動及び紹介をさせて頂きました。またその懇親会より入会に至った新規会員もいました。

しかし、全体の結果は19名と2000年代最大会員数には到底及ぶ事が出来ない数字でありました。

これも委員長である私の責任であります。申し訳御座いません。

拡大活動は単年で終わるものではなく、次年度もずっと続いていく活動であります。本年度の失敗を次年度の委員長にしっかりと伝え、同じ失敗を起こさないようにして行き、また自分自身も拡大活動に邁進していきたいと思ひます。

会員活動にご協力頂きました理事長含め多くのメンバーの皆様にご感謝申し上げます。本当に有難う御座いました。

#### ②事業計画 2

126名以上のLOMに向けて (1月～12月)

今年度、公益社団法人一宮青年会議所は入会3年未満の会員数が半数を超え、経験年数が若い会員が増えています。その若いメンバーにも分かりやすくかつ会員拡大を行いやすい拡大ツールとして拡大パンフレットを作成しました。

一宮青年会議所として行って来た過去の事業を新入会員および拡大対象者に分かりやすくカテゴリーに分けました。また女性会員も増やすべく、現役の女性会員の声もパンフレットに載せるようにしました。

また、拡大状況をタイムリーに伝達できるように、拡大グループのFacebookページを活用し、現役メンバーおよびOBの皆様にも見て頂けるようにしました。

また正副メンバーだけでなく、他のメンバーも気軽に参加出来る拡大懇親会を実施してきました。アポイントを取り、JC活動を説明していく事も当然行いましたが、受け手もかなりハードルを上げてその場に来ることも多々ありますので、気軽に参加出来る拡大懇親会を実施してきました。

次年度以降も気軽に参加出来る拡大懇親会を定期的に行って頂きたいと思ひます。

#### ③事業計画 3

姉妹JCとの交流 (1月～12月)

姉妹JCであります大邱江北青年会議所と交流活動を行って参りました。4月には例会も一緒に参加して頂き、大邱江北青年会議所メンバーが希望してくれていました桜、そして国宝でもあります犬山城に行つて参りました。その後、メンバーのお店でもあります焼き肉店でもご協力をお願いし、お店の中にも桜を用意して頂き、大邱江北青年会議所メンバーにはとても喜んで頂きました。

また11月には大邱江北青年会議所の記念式典に合わせて訪韓させて頂きました。たくさんの名所をご紹介頂きました。そして参加した一宮メンバーは大邱メンバーと

交流を通して、友情を育めたのではないかと思います。これからも引き続き、交流をして行って頂きたいと思ひます。

#### ④事業計画 4

例会の開催 (2月)

開催場所：一宮市民会館

開催日時：2015年2月2日 (月)

野田理事長の所信にあります2000年代最大の会員数を目標とすこと、また現在入会3年未満の会員数が半数を超え、経験年数が若い会員が増えている中で、会員拡大の意義を伝え、意識と実行力を高めるために、2月度例会では、2014年度公益社団法人日本青年会議所人財グループ拡大委員会委員長の新美伸宏先輩と2014年度公益社団法人日本青年会議所顧問の古川大司先輩の2名の講師を招聘し、講演を行つて頂きました。

講演の中では若いメンバーに向けた『JC活動とは』をそして会員拡大の必要性もご講演頂きました。

ご参加頂いたメンバーには拡大の意義が伝わり、また意識と実行力を高めて頂けたと思ひます。

設営にあたり、不備不足や反省点が多々御座いましたが、皆様のご支援ご協力のおかげで無事例会を終えることができました。厚く御礼申し上げます。本当に有難う御座いました。

#### ⑤事業計画 5

例会の開催 (4月)

開催場所：アイプラザ 体育室

開催日時：2015年4月18日 (土)

役職経験や出向経験の豊富なメンバーが卒業していき、経験年数が若い会員が増えている現状の中で、会員同士のつながりや絆を大切にし、組織としてまとまり活動していくために、4月度例会では『絆を深めようフェスティバル』を行いました。

今年度は姉妹JCの大邱江北青年会議所メンバーの訪日と重なり、大邱江北青年会議所メンバーにも一緒に参加して頂きました。

大邱メンバーとの交流とLOMメンバー同士の交流を図るべく、第1部では自己紹介を含めた韓国語、ハングル文字の研修を行いました。そして第2部では綱引きや長縄跳びを行い、交流して頂きました。

そして例会最後に一枚岩になるべく、『信頼椅子』として参加者全員で一つの輪となる空気椅子を行つて頂きました。

大邱江北青年会議所メンバーにも韓国に戻つてからも訪日がとても楽しく、交流できたのがよかつたと連絡を頂きました。

4月度例会にご参加頂きましたメンバーの皆様にも本当に感謝致します。有難う御座いました。



#### 4. 最後に

本年、拡大・交流委員会は、2000年代最大会員数の126名以上を拡大目標にまた、入会3年未満会員数が半数を超えている中で、会員同士のつながりや絆を大切に、LOMを一枚岩にする交流事業の2つの柱を掲げて活動して参りました。

会員拡大では、目標とする結果が出せず申し訳御座いません。しかし、最低限の会員数減少まではならず良かったと思います。

拡大委員長を経験し、得られたものはとても多く、会員拡大の大切さ、LOM全体でも継続事業であることがよくわかりました。

次年度以降は拡大委員会メンバーではなくなりますが、会員拡大は全メンバーの責務であることを忘れず、会員拡大に邁進していき、また他のメンバーにも会員拡大の重要性を伝えていきたいと思っております。

また交流事業においては、一宮メンバーとの深い絆を得ることができました。また姉妹JCであります大邱江北青年会議所メンバーとも一生の友人を得られたことがとても良かったです。

最後になりますが、わがままばかり言う使いづらい私を委員長に選んで頂きました森担当副理事長、本当に有難う御座いました。

また、未熟な私を支えて頂きました委員会メンバーの皆さま本当に有難う御座いました。

そして、今年一年通してLOMメンバーの皆様にはご無理ばかり言ったにも関わらず、ご参加・ご協力頂きまして、本当に有難う御座いました。心より厚く御礼申し上げます。

まち  
地域ブランド確立委員会

1. 委員会構成メンバー

担当副理事長	土川 功介	委員	早川 彰
委員 長	青山 広己	委員	山田 崇紘
副委員 長	倉田 健嗣		
副委員 長	塚本 浩成		
幹事	森 彩樹		
委員	小川 哲矢		
委員	加藤 貴恭		



2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月19日	菊水 会議室	①基本方針案について
第2回予定者委員会	10月2日	㈱土川油店 4階会議室	①基本方針案について ②事業計画案について
第3回予定者委員会	10月20日	㈱土川油店 4階会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について
第4回予定者委員会	11月17日	㈱土川油店 4階会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について ④事業計画2案について
第5回予定者委員会	12月6日	㈱土川油店 4階会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について ④事業計画2案について
第1回委員会	1月9日	㈱土川油店 4階会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③事業計画3について
第2回委員会	1月27日	㈱土川油店 4階会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③事業計画3について
第3回委員会	2月24日	㈱土川油店 4階会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③事業計画3について
第4回委員会	3月24日	㈱土川油店 4階会議室	①事業計画1について ②事業計画3について
第5回委員会	4月22日	㈱土川油店 4階会議室	①事業計画1について ②事業計画2決算について ③事業計画3について
第6回委員会	5月25日	㈱土川油店 4階会議室	①事業計画1について ②事業計画2決算について ③事業計画3について
第7回委員会	6月12日	㈱土川油店 4階会議室	①事業計画1について ②事業計画3について
第8回委員会	7月17日	㈱土川油店 4階会議室	①事業計画1について ②事業計画3について
第9回委員会	8月13日	(有)青山造園 会議室	①事業計画1について ②事業計画3について
第10回委員会	9月10日	(有)サンライト 会議室	①事業計画1について ②事業計画3について
第11回委員会	10月13日	㈱土川油店 4階会議室	①事業計画1について ②事業計画3について
第12回委員会	11月18日	㈱土川油店 4階会議室	①事業計画1について ②事業計画3決算について
第13回委員会	12月16日	㈱土川油店 4階会議室	①事業計画1について ②事業計画3決算について

### 3. 事業報告

#### ① 事業計画1 会員の拡大(1月～12月)

本年、地域ブランド確立委員会では、地域ブランドの確立に向けて、ともに活動する会員を拡大するという目的のもと1年間活動してまいりました。毎月、委員会メンバーから拡大対象者のリストアップを行い、例会、事業にお誘いをして青年会議所活動を知っていただき、ともに活動していただけるようにフォローアップもしてきました。その活動に賛同し、入会の意志をいただくことができた拡大対象者もいましたが、今年度入会には至りませんでした。結果として目標人数5名に対し、入会者3名と、目標人数まで達成できなかったことは大変残念で、申し訳ないと思っております。今年度、入会まで至らなかった拡大対象者においては引き続き、アプローチを重ねていき、次年度も引き続き活動していきたいと思っております。

#### ② 事業計画2 地域ブランドの調査・選定(1月～2月)

市民とともに地域ブランドを調査、選定することを目的に、まずは委員会の中で、地域ブランドの根源となる一宮の地域資源についてリストアップを行い、一宮を活性化しようと活動している行政や他団体の方々と地域資源について、どのような思いがあるのか、またどのような見方をしているのか、意見交換を行い、その意見をまとめました。その結果、リストアップした地域資源の中で最も地元根付き、地域ブランドの可能性が高いものは繊維(おりもの)と選定しました。また現在、他の地域で地域ブランドとして確立している団体と、地域ブランドを確立していくためには、どんなことが重要であるかについて意見交換を行い、繊維(おりもの)を地域ブランドとして確立していく方向性が定まったと思っております。

#### ③ 事業計画3 地域ブランドの確立(6月～10月)

##### 公開例会の開催

魅力あふれる地域ブランドの礎を確立し、地域への誇りと愛着を育むことを目的に、まずは6月例会を開催しました。

6月度公開例会 地域ブランドの確立～つながりの始動～ 地域ブランドの始動として、産官学の視点より地域ブランドを展開している修文地域研究センターの木村樹生様と繊維業を下支えしている一宮地場産業ファッションデザインセンターの山田事務局長様には、プレゼンテーションをして頂き、一宮青年会議所が打ち立てる地域ブランドについてプレゼンテーションを行いました。また中野市長を始め、多くの市民団体の参加者の方々と地域ブランドとなる体感プログラムでイメージを高めました。

##### 7月度公開事業①

おりもの感謝祭一宮七夕まつりの来場者に広告うちわの配布し、ミサガ体験を通して、多くの市民の方に一宮の地域資源について知って頂きました。また地域ブランドとして確立していく138ハロウィンについて、しっかりと今後の事業の説明ができました。

##### 9月度公開事業②

ボランティア参加として一宮高校ファッション創造科の犬下先生を始め生徒の皆様へ趣旨に対して賛同していただき、協力して頂きました。一般参加者には、ハロウィンアイテム作成

の中で、地域資源からなる地域ブランドをイメージしていただき、公開事業③④の参加を促しました。

##### 10月度公開事業③

パレード説明会では、パレード参加者に参加規程やパレドールールについて説明し、生地(おりもの)の配布をしました。

##### 10月度公開事業④ 地域ブランド 138 ハロウィン～おりものパレード～

尾張一宮駅前ビル シビックテラスに集合し受付を行い、おりもの衣装に着替えて、本町4丁目から本町1丁目まで、先導車を先頭にパレードを行いました。

おりものを身に纏い地域を練り歩き、普段の興味のない市民に興味を湧かせ、認知度を高め、参加者には地域資源である地域資源(おりもの)を使用した集団仮装体験を行ってもらいました。また、「いちみん」も仮装し参加しました。一宮だいたいフェスタ大集合 for Halloween2015に参加し、市民とともに地域資源を使用したおりものパレードを開催しました。

6月の公開例会から始まり、延べ2378名の市民の方々に参加頂き、地域ブランドについてプレゼンテーション、体感プログラム、アイテム作成からパレードまで様々な経験をして頂きました。事業では大きなトラブルも無く、地域が笑顔で溢れていた光景から地域への誇りと愛着が育まれたのではないかと確信しております。

LOMメンバーの皆様には、計7日間にわたり地域ブランドの礎の確立に向けて協力頂き、心より感謝申し上げます。長期にわたり、事業を展開できたのも、LOMメンバー皆様のお支え、ご協力があったからこそ、事業の目的が達成できたと考えております。

##### 開催場所

- |       |                                             |
|-------|---------------------------------------------|
| 公開例会  | 尾張一宮駅前ビル シビックホール                            |
| 公開事業① | 七夕まつり会場 サンライズ広場                             |
| 公開事業② | 一宮スポーツ文化センター 小ホール                           |
| 公開事業③ | 尾張一宮駅前ビル 大会議室                               |
| 公開事業④ | 尾張一宮駅前ビル シビックテラス(受付)<br>パレードコース 本町4丁目～本町1丁目 |

### 4. 最後に

一宮ってどんな地域?この問いに誰もが答えることができるような地域ブランドを確立するため、1年4か月活動を邁進して参りました。市民とともに地域ブランドを確立し地域への誇りと愛着を育むことは、公開事業④の光景を思い出すと達成できた思いがありますが、地域ブランドという点でやり残した部分があり、反省しなくてはならない部分と考えております。また地域における青年会議所のあり方について非常に学びの多い一年でした。

最後になりますが、多面に渡りご指導をいただきました土川担当副理事長、ほぼ毎週のように集まって意見を交わした委員会スタッフ、メンバーの皆様、たくさんのご意見、ご指導をいただきました理事会構成メンバーの皆様、例会事業で大変な活動をしていただきました野田理事長を始めLOMメンバーの皆様へ心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

# 地域（まち）活性化推進委員会

## 1. 委員会構成メンバー

担当副理事長	土川功介	窪照明
委員長	加藤武志	酒井真一郎
副委員長	加古川和也	鈴木昌弘
副委員長	広瀬和義	丸目礼子
幹事	青山直生	
幹事	坂野伸悟	
委員	石川佳照	



## 2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月19日	菊水会議室	①基本方針案について
第2回予定者委員会	10月6日	オクトパスファイヤーズ会議室	①基本方針案について ②事業計画案について
第3回予定者委員会	10月20日	(株)青山一宮工場 会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について
第4回予定者委員会	11月17日	(株)青山一宮工場 会議室	①基本方針案について ②事業計画案について ③予算案について
第5回予定者委員会	12月3日	オクトパスファイヤーズ会議室	⑤事業計画1案について ④事業計画2案について
第1回委員会	1月10日	(株)青山一宮工場 会議室	①事業計画1案について ②事業計画2案について
第2回委員会	1月27日	(株)土川油店 4F 会議室	①事業計画1案について ②事業計画2案について
第3回委員会	2月25日	花岡飯店 会議室	①事業計画1案について ②事業計画2案について
第4回委員会	3月25日	(株)土川油店 4F 会議室	①事業計画1案について ②事業計画2案について
第5回委員会	4月20日	花岡飯店 会議室	①事業計画1について ②事業計画2案について
第6回委員会	5月19日	(株)でんがら 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③7月公開事業について
第7回委員会	6月18日	花岡飯店 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③7月公開事業について
第8回委員会	7月23日	花岡飯店 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③8月公開事業について
第9回委員会	8月19日	花岡飯店 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③8月公開事業について
第10回委員会	9月17日	(株)土川油店 4F 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③10月公開事業について
第11回委員会	10月8日	(株)土川油店 4F 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③10月公開事業について
第12回委員会	11月16日	(株)土川油店 4F 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について
第13回委員会	12月16日	花岡飯店 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について

### 3. 事業報告

#### ①事業計画 1

より多くのメンバーと、この一宮を笑顔と活気あふれる郷土 ICHINOMIYA の実現を目指すため、1 年間活動して参りました。委員会メンバーにも大変協力してもらい、多くの方々への拡大活動をしていただきましたが、年間を通じて目標の人数を拡大することまではできませんでした。目標達成を反省すると共に、今後も多くの人へ引き続き青年会議所の魅力を伝えていきたいと思っております。

#### ②事業計画 2

一昨年の秋ごろから計画をはじめ、昨年 12 月までの非常に長い期間の事業となりました。当初は、メインの公開例会まで 1 年近くあるということから、十分にしっかり準備ができ、落ち度がないという点を目指してやって参りましたが、対外的な打ち合わせ等も多く、当初、自分たちがイメージしていたり、また予定していたことが急遽変更になってしまったり、担当者の変更で引継ぎがうまくできなかつたりして諦めざるを得ない事態も出てくるなど、なかなか思うように進めることが出来ませんでした。そのうちに 4 月の審議までにあつという間に時間が過ぎてしまい、十分な準備や検証がなかなかしっかりできなかつたことを反省しております。

7 月の出店者説明会では、予想よりも多くの方々に説明会に来ていただきましたが、その後、実際にエントリーしていただけた出店者数は、逆に予想よりも少なくなってしまう、エントリーの条件を厳しくしすぎてしまったことが原因だったのか。と、エントリーの方法や内容に関して考えさせられることとなりました。

8 月の試食会では、撮影会を終えてからの保健所申請という流れになってしまっていたため、実際にはその後の修正がなかなか難しく、保健所の許可を出してもらうために、内容の一部を変更したり見直しをしていただいたりしなければならず、なかなか最終決定までうまくまとめることができず苦労いたしました。

10 月のグルメグランプリ当日は、LOM メンバーみなさん全員が出席していただけたおかげで、100%例会を達成することができました。また、メンバー全員の多大な協力のおかげで、大きなけがや事故、トラブル等はほとんどなく終わったことに、心より感謝いたします。しかしながら、当日は、多くの一般来場者の方々との事業に、当日はバタバタしてしまい、運営の難しさを感じさせられました。また、来場者数が思うようには伸びず、出店者様の中には、用意いただいた食数を出し切れなかった店舗様が出てしまった事を強く反省することとなりました。

グルメグランプリ終了後は、この優勝した「一宮めし」を広く伝播すべく提供店を募らせていただきましたが、なかなか実際に提供していただけるお店が見つからず大変苦労いたしました。しかしながら、一宮市からも協力していただけたおかげで、シティープロモーション等にも参加させていただき、なんとか 13 店舗の飲食店様に優勝した商品を提供していただけることとなり、グルメマップが完成させることができました。このグルメマップは、一宮市内に 6 万部程度を配布をさせていただきましたが、この「一宮めし」が一時のものではなく、将来へ向かってひろく伝わっていつてくれることを願っています。

最終的に、この「一宮めし」がどれだけ地域に浸透でき、地域の人たちが誇れる「一宮めし」となり活気あふれるものとなれたかどうか。の検証にまでは至らなかった点を鑑みると、今回の事業でやりきれなかったことは、大変反省しなければならない点であると同時に、非常に申し訳なく思っております。

す。

最後の最後ギリギリまで、この事業のためにご協力いただきました理事長をはじめとするメンバーの皆さま、出店者の皆さま、提供店の皆さまには、心より感謝申し上げます。

開催場所:

#### 【7 月事業説明会】

会場:一宮スポーツ文化センター 3F 小ホール

#### 【8 月出品発表・試食会】

会場:一宮スポーツ文化センター 1F スポーツフロア及び調理室

#### 【第 4 回 ICHINOMIYA 郷土グルメグランプリ】

会場:138 タワーパーク イベント広場

### 4. 最後に

本年、地域(まち)活性化推進委員会では、初めから、自分たちは、グルメグランプリを行うこと自体が真の目的ではなく、そこで選ばれた「一宮めし」を作り上げ、この地域へ広げていき、この地域を盛り上げていく。という本来の目的を見失わないよう、常に念頭に置き、またそれができたときの達成感や喜びをイメージし、思いを共有することによって委員会全体が一致団結し、この事業を何とか成功させていく。と言う強い思いで臨んできました。そのため、委員会としては、大変なことも多かったですが、みんなが楽しみながら、将来の「一宮めし」に期待を込めて活動することができたと思います。

しかしながら、実際に進めていく中では、書類作成時には気が付かなかった細かな点や、出店者さまとのやり取りの難しさに何度も壁にぶつかり、軌道修正していかなければいけないことも多々あり、どれだけイメージを沸かせていても実際に運営していくことのむずかしさを委員会全体で痛感いたしました。今思えば、もう少し、広い視野で物事をとらえたうえで、細かなところを詰めていく。といった方法をとっていく必要も、反省点も多々、数えきれないところで

す。  
事業を終えた時に、今回の事業を通じて、この一宮という地域の魅力を感じることができ、一宮を支え、よくしていることとされている多くの方々とお会いしたことに感謝するとともに、今回の事業が終わった後も、一宮の地域がより魅力的な地域になれるよう、継続して活動していきたいと思えました。

このように思えたもの、理事長をはじめといたしますメンバーの皆様の多大なるご協力をいただきましたおかげと心より感謝しております。誠にありがとうございました。そして、委員会活動に積極的に参加・協力して下さった委員メンバー全員にも、本当に心より感謝しております。事業としては、比較的規模の大きな事業だったので、委員会メンバーの一人が欠けても、成り立たなかったものだと思っております。本当にありがとうございました。

この経験を通じて、これからも一宮の地域がより良くなるよう貢献していきたいと思っております。

# 青少年共育委員会

## 1. 委員会構成メンバー

担当副理事長	石川 昌臣
委員長	大宮 和広
副委員長	尾関 利規
副委員長	東 賢吾
幹事	大森 一輝
幹事	光樂 朋尚
委員	池戸 英嗣
委員	石井 隆史
委員	大宮 有貴
委員	鈴木 晋也
委員	竹山 聡
委員	森 一彦



## 2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月19日	菊水会議室	①基本方針(案)について
第2回予定者委員会	10月6日	森吉通運(株)会議室	①基本方針(案)・事業計画(案)・予算(案)に関する件
第3回予定者委員会	10月23日	森吉通運(株)会議室	①基本方針(案)・事業計画(案)・予算(案)に関する件
第4回予定者委員会	11月7日	森吉通運(株)会議室	①基本方針(案)・事業計画(案)・予算(案)に関する件 ②事業計画2(案)に関する件
第5回予定者委員会	12月3日	森吉通運(株)会議室	①事業計画2(案)に関する件 ②事業計画3(案)に関する件
第1回委員会	1月7日	ペリカンビル会議室	①基本方針・事業計画・予算に関する件 ③事業計画2に関する件 ②事業計画1に関する件 ④事業計画3に関する件
第2回委員会	1月28日	ペリカンビル会議室	①事業計画1に関する件 ③事業計画3に関する件 ②事業計画2に関する件
第3回委員会	2月20日	ペリカンビル会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件
第4回委員会	3月16日	ペリカンビル会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画3に関する件
第5回委員会	4月20日	ペリカンビル会議室	①事業計画1に関する件
第6回委員会	5月19日	ペリカンビル会議室	①事業計画1に関する件 ②事業計画2の事業報告に関する件
第7回委員会	6月20日	かみいしづ緑の村公園	①事業計画1に関する件 ②事業計画2の事業報告に関する件
第8回委員会	7月21日	アイプラザ宮第3会議室	①事業計画1に関する件
第9回公開委員会	8月6日	ペリカンビル会議室	①事業計画3に関する件

第10回委員会	8月26日	ペリカンビル会議室	①事業計画1に関する件	②事業計画3の事業報告に関する件
第11回委員会	9月18日	ペリカンビル会議室	①事業計画1に関する件	②事業計画3の事業報告に関する件
第12回委員会	10月15日	ペリカンビル会議室	①事業計画1に関する件	②事業計画3の事業報告に関する件
第13回委員会	11月16日	ペリカンビル会議室	①事業計画1に関する件	
第14回委員会	12月18日	ペリカンビル会議室	①事業計画1に関する件	

### 3. 事業報告

#### ①事業計画 1

一年間を通して会員を増やすために委員会で拡大活動を行ってきました。青年会議所について説明をさせていただきましたが結果としては出てこず拡大の難しさを痛感いたしました。委員会として拡大できたことはうれしく感じております。ありがとうございました。

#### ②事業計画 2

事業目的:子どもたちの人間性を豊かにする。

例会開催日 5月10日(日)は、ゴールデンウィーク明けの最初の日曜日で、また母の日にもかかわらず大変多くのメンバーにお集まりいただき本当にありがとうございました。

参加者募集においては、定員60名に対し142名の募集があり、落選者の方には興味を持って申し込みされたのにお断りせざる得ない状況になってしまったことは本当に反省しております。

我々委員会の5月例会の目的としまして、子どもたちの人間性を豊かにする。ほんとうに難しい挑戦でした。委員会の基本方針作成や5月例会議案作成にあたって、何回も何回も理事長所信をよみなおし、文科省の学習指導要領「生きる力」を何回も読むという日々がつづきました。そして、時には石川担当副理事長からも自分の議案作成の取り組みに対して一喝される日もありました。委員会メンバーや理事会構成メンバーの方々にも自分の語彙力の不足や自分の不甲斐なさや人に伝えることの下手さから本当に迷惑をお掛け致しました。

ファシリテーター荻野雅之氏をお招きして開催した5月例会では、つみ木を使って子どもたちの人間性を豊かにすることを目的として開催いたしました。第一部では青年会議所メンバーの皆様が荻野氏より「子どもたちとことんかかわり合う」をテーマに短い時間ではありましたが講演していただきました。この第一部では大人は子どもを尊重し認めてあげること、子どもの個性を伸ばしてあげること、子どもをほめてあげること、子どもと積極的に話しをするということと、未来を担う子どもたちに対して大人がどうあるべきかを？伝えてもらいました。しかしながら、例会第二部において青年会議所メンバーが保護者席でつみ木体験に参加せず座って見ている姿を目の当たりにし、委員長として青年会議所メンバーに参加意義や目的を伝えることの難しさを改めて痛感し反省しています。そして、例会第二部では参加者の子どもと青年会議所メンバー並びに保護者と一緒につみ木を行いました。議案にはなかった保護者の方も参加してしまったことは本当に申し訳なく思っています。

住んでいる場所も違う学年も違う、見ず知らずの大人と子どもと一緒につみ木をした第二部では、最初よそよしかった子どもも大人も時間が経つにつれて、つみ木を通じてお互いを尊重し、知らない人の中でもお互いを思いやり協調してつみ木を共同でしている姿が見受けられました。自分自身が見ている中で印象的だったのが5人共同で富士山をテーマにつみ木をしている子がいて、共同制作終了間際で富士山が崩れてしまいあきらめて制作をやめるのではないかと考えてみていましたら、その5人の一人の子が「大丈夫！大丈夫！時間までまたつくろう」と言って仲間を励まし、またつみ木を始めている姿を見て本当に涙出そうになりました。最後のふりかえりでの子どもたちの感想を聞いてもすごく事業目的にあった感想発表を見て、改めてつみ木をやって良かったと感じました。ただ我々委員会が反省しなければいけないことが、事業目的を検証するにあたってアンケート資料を取らなかったことは大きな反省点であり大きな課題です。

最後になりますが、基本方針、議案作成、そして事業の準備段階まで、多面に渡りご指導をいただきました石川担当副理事長、ほぼ毎週のように集まって意見を交わし、準備にお付き合い頂きました委員会スタッフ、委員会ではたくさんのご意見をいただき、そして準備や当日の設営にご尽力いただきました委員会メンバーの皆様、議案に対してたくさんのご意見、ご指導をいただきました理事会構成メンバーの皆様、そして例会の当日、子ども達と温かく接していただきました野田理事長を始め LOM メンバーの皆様、そして上期予定者の皆様に心から感謝申し上げます。

そして、今回のスプリングチャレンジに参加していただいた60名の子ども達に感謝するとともに、今回参加したことが思い出となり、少しでも豊かな心を育ててもらっきっかけとなったら幸いに思います。本事業例会に携わった全ての方に心から感謝申し上げます。本当に本当にありがとうございました。

開催場所：一宮市総合体育館 多目的室

#### ③事業計画 3

事業目的:子どもたちに気づきを与え成長させる。

まずは、6月から8月まで第2回サマーアドベンチャー～自然の中で秘密基地づくり～に多数のメンバーの皆様の参加をしていただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。

前年好評だったサマーアドベンチャーを引継ぎ、不安や相当なプレッシャーがありました。と申しますのも、前年の2014年生きる力に満ちた青少年共育委員会の事業終了後に青年会議所事務局に数多くの問い合わせがあったことを聞いてましたし、前年のスケール感を自分たちにもできるのか？このサマーアドベンチャーは地域の子どもの親が楽しみにしていることを肌で感じておりました。おかげさまで参加者募集に関しては、220名を越す参加申し込みがあり、すべての参加申し込み者が参加することはできなかったのですが、今ではもう少し参加者募集人数を増やしておけばよかったのかなと思っています。

今回の第2回サマーアドベンチャーは秘密基地づくりをおして子どもたちに気づきを与えて成長させることを目的に開催いたしました。6月ではチームづくりと保護者説明会を行いました。チーム名を決める時には「カレーにたくあん」「革命ピンク」斬新で個性的なチーム名が出てきてびっくりいたしました。

7月では、秘密基地の設計図・模型づくりと竹の採取を、はっきりしない天候の中、大野極楽寺公園で行いました。この日最初にびっくりしたのが、6月で宿題として出した設計図の宿題です。アドベンチャーノートにびっしりと書かれた設計図の数々と、親も一生懸命に書いた子どもの頃に作った設計図、自分が作りたい設計図はどれもこれも思いの詰まった秘密基地に感動しました。設計図づくりでは、チームのみんながあーでもない、こーでもない、といひながら話し合っ一つの設計図をつくりあげていました。その後の模型づくりでは青年会議所メンバーと一緒に試行錯誤を繰り返しながら作り上げることができました。8月の2日間に渡る第2回サマーアドベンチャー～自然の中で秘密基地づくり～は猛暑の中で開催されました。この2日間は本当に暑かったです。現地までの移動はバスで行いましたが、安全に現地まで行けたのは非常に良かったです。それからかみいしづクエストでは猛暑であったため、熱中症を訴える参加者や青年会議

所メンバーが数多くみえました。重篤な症状を訴える参加者や青年会議所メンバーはいなかったのですが、大人や子どもにも水分補給や熱中症対策をもっとしておけば防げたのではないかと感じています。その後の秘密基地づくりでは大人も子どもも夢中になって制作していました、模型にはなかったオプションもどんどん追加されチーム内で色々と話し合っ、思いの詰まった秘密基地を完成させることができました。ほんとうにあの8個の秘密基地は数々の工夫がされていて非常に感動いたしました。

すべての事業を終えて、今振り返ってみると、本当に第2回サマーアドベンチャーは議案の作成から開催まですべてのことが手探りの状態だったと思います。自分自身もそうなのですが我々委員会メンバーはキャンプが得意と言えるメンバーは一人も居なかったと思います。そして子どもたちの接し方が上手いと言えるメンバーもいなかったと思います。例会の中身であった秘密基地づくりでは大人が主となりすぎてしまい、もっと子どもたちに主体的な設えにしたほうが良かったのでは今は感じています。数多くの失敗、設営上の不備不足はありましたが、公開事業や公開例会開催まで子どもたちのキャンプファイヤーや事業をとおしての振り返りをみると、仲間との絆が深まったとか仲間がいたから秘密基地ができました等の数多くの気づきや感想があり、短い時間ではありましたが秘密基地づくりや様々な体験をとおして成長させるという事業目的の達成に近づけたのではないかと感じています。また今回のサマーアドベンチャーをとおして、我々委員会メンバーは子どもたちと接する機会は多くはありませんでしたが、保護者の方の参加の動機を見ていると、年下の子を思いやる気持ちを持ってほしいとか年齢の違うお友達を作りたいなど様々な願いがあり、今の子どもたちは我々が育った頃に比べて異年齢の子どもどうしの交流や、子どもたち自身で何かを考え行動したりする機会が減っていることを感じました。もっとも地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流する機会を増やすことが必要だと感じています。

そして、このサマーアドベンチャーは委員会スタッフや委員会メンバーの他に本当に数多くの青年会議所メンバーの協力がなければ成立しなかったと思っています。野田理事長は子どもたちのために太いロープを持参していただき自作で縄はしごを作っていただきましたし、大野極楽寺公園で採取した竹が腐ってしまい、竹の本数が減ってしまった時には眞野局長のところで、竹を採取させてもらいました、青山委員長や加藤委員長には議案の作成過程、秘密基地づくりに対して数多くのアドバイスをもらいました、平松委員長はほんとうにチームの子どもたちを盛り上げてくれました、小寺委員長は黙々とブランコをつくっていただきました、大島局長は時には子どもたちを厳しく叱っているところもありました、安田委員長は夜チームの子どもたちを連れだして昆虫採集に出かけていました、石黒委員長は秘密基地ほんとうに試行錯誤しながら一生懸命に作っていただきました。子どもたちにとっても素晴らしい体験だったと思います。そして地域活性化委員会の酒井真一郎委員からはボランティアスタッフを紹介していただきました、森大介委員長にはかなり無理を言って事業の広報や一宮青年会議所ホームページにて参加者の保護者に対する配慮としてレポートをしていただきました、沢山メンバーの皆様に関わっていただきサマーアドベンチャーを支えていただきまして本当にありがとうございました。

最後となりますが、議案作成、そして事業の準備段階まで、多面に渡りご指導をいただきました石川担当副理事長、ほぼ毎週のように意見を交し、準備にお付き合いただきました委員会スタッフ、委員会ではたくさんの意見をいただき徹夜までしてくれた委員会メンバーの皆様、就職活動の忙しいなか、

例会に参加していただいたボランティアスタッフの岐阜聖徳学園大学の中野恵さん、松井千晴さん、議案に対してたくさんのご意見ご指導をいただきました理事会構成メンバーの皆様、そして事業を通して子どもたちと温かく接していただきました野田理事長を始めLOMメンバーの皆様、そして下期予定者の皆様に心より感謝申し上げます。

そして、今回の第2回サマーアドベンチャーに参加していただいた60名の子ども達に感謝するとともに、今回の秘密基地づくりをとおして様々な人との交流の中から自分自身の成長につながるきっかけとなったら幸いです。

卒業年度にもかかわらず委員長というすばらしい大役とかけがえのない体験を与えていただいた、一宮青年会議所に心より感謝申し上げます。また次年度以降もこのサマーアドベンチャーが引き続き開催されることを期待しています。本当に本当にありがとうございます。

開催場所：かみいしづ緑の村公園

#### 4. 最後に

本年、青少年共育委員会は、「未来を担う子どもたちに対し、人とかかわりあいの中にあるお互いを尊重し認め合うことの大切さを伝えることで人間性を豊かにします。また、何事にも真正面から向き合い乗り越えた先にある気づきを与えることで成長を支えます。

そして、それぞれの経験をとおして、大人も子どもも学びあうことにより「生きる力」を共育します。」

という基本方針のもと1年半活動してまいりました。いまこうして1年振り返ってみると、子どもたちに対しては5月例会8月例会とも事業目的達成には近づけたのではないかと感じております。ただ、両事業とも青年会議所メンバーの出席率が悪かったという点だけ非常に悔いが残ります。青年会議所がおこなう青少年事業は非常に特徴的で、他団体では青少年事業はやっていませんし、青年会議所に入会したからには青少年事業にしっかり参加してもらわなければ損ではないかと感じています。青年会議所メンバーにはもっと青少年事業に参加してほしいという気持ちでいっぱいです。

私は本年度卒業ということで次年度がないわけですが、まだこれから活動していく皆様にはこれからも青少年事業に積極的に参加をし、地域の子も大人が驚くような事業を企画し実施をおこなってほしいと思っています。特に次年度副理事長の森委員、次年度理事の大森幹事、光楽幹事にはしっかりと目度青少年事業を導いて欲しいです。

最後となりますが、候補者段階よりスタッフを始め委員会メンバーの皆様には多大なご迷惑をおかけしましたが、皆様の支えがあったおかげで最後までやり遂げることができました。担当副理事長及び委員会メンバーの皆様には、本当に多くの時間を費やして頂いたこと、一年間共に過ごせたことを誇りに思っています。本当にありがとうございました。このかけがえのない体験を忘れることなく、今後の活動に活かしていきたいと思っております

# 経営資質向上委員会

## 1. 委員会構成メンバー

担当副理事長	浅田 佳寿優	委 員	小橋 一慶
委 員 長	石黒 秀幸	委 員	坂井田 純子
副 委 員 長	岩田 祐治		
副 委 員 長	福田 晋也		
幹 事	西岡 信幸		
幹 事	野杵 洋平		
委 員	岩満 誠		



## 2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月18日	菊 水 会 議 室	①基本方針案について
第2回予定者委員会	10月6日	一宮市民会館 第2会議室	①基本方針案、事業計画案、予算案について
第3回予定者委員会	10月23日	一宮市民会館 第1会議室	①基本方針案、事業計画案、予算案について
第4回予定者委員会	11月17日	株式会社 アイライフ 会議室	①基本方針案、事業計画案、予算案について ②事業計画2案について ③事業計画3案について
第5回予定者委員会	12月1日	一宮市民会館 第4会議室	①基本方針案、事業計画案、予算案について ②事業計画2案について ③事業計画3案について
第6回予定者委員会	12月26日	株式会社 アイライフ 会議室	①事業計画1案について ②事業計画2案について ③事業計画3案について
第1回委員会	1月4日	株式会社 アイライフ 会議室	①事業計画1について ②一宮青年会議所 組織図について
第2回委員会	1月21日	株式会社 アイライフ 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について ③事業計画3について
第3回委員会	2月19日	株式会社 アイライフ 会議室	①事業計画1について ②事業計画3について
第4回委員会	3月16日	株式会社 アイライフ 会議室	①事業計画1について ②事業計画2について
第5回委員会	3月25日	株式会社 アイライフ 会議室	①事業計画1について ②事業計画2事業報告について ③事業計画3について
第6回委員会	4月22日	株式会社 アイライフ 会議室	①事業計画1について ②事業計画2事業報告について ③事業計画3について
第7回委員会	5月25日	株式会社 アイライフ 会議室	①事業計画1について ②事業計画2事業報告について ③事業計画3について
第8回委員会	6月24日	一宮市民会館 第4会議室	①事業計画1について ②事業計画2事業報告について ③事業計画3について
第9回委員会	7月21日	一宮スポーツ文化センター第6会議室	①事業計画1について ②事業計画3事業報告について
第10回委員会	8月26日	一宮スポーツ文化センター第4会議室	①事業計画1について ②事業計画3事業報告について
第11回委員会	9月24日	一宮市民会館 第2会議室	①事業計画1について ②事業計画3事業報告につ

第 1 2 回 委 員 会	10 月 21 日	株 式 会 社    アイライフ    会 議 室	①事業計画 1 について
第 1 3 回 委 員 会	11 月 18 日	株 式 会 社    アイライフ    会 議 室	①事業計画 1 について
第 1 4 回 委 員 会	12 月 21 日	株 式 会 社    アイライフ    会 議 室	①事業計画 1 について

### 3. 事業報告

#### ①事業計画1 会員の拡大(1~12月)

事業計画1では、地域経済をともに担う青年経済人を拡大し、より多くの青年経済人とともに青年会議所活動を行うために、会員の拡大活動を行いました。

しかしながら、委員会メンバーの皆様にもご協力いただき情報収集、勧誘活動等を行ったものの、十分な結果に結びつけることができず、年間を通じて1名のみでの拡大となってしまうことは誠に残念でなりません。

取組の不足を反省するとともに、今後は拡大活動により一層力を入れ、青年会議所の魅力を伝播していきたいと思えます。

#### ②事業計画2 例会の開催(3月)

事業計画2では、人々とのつながりを大切に、地域から信頼される企業づくりと題しまして、第1部では、社員や顧客や取引業者とのつながりを大切に100年以上の社歴を持つ株式会社松本義肢製作所へ訪問し、経営者や従業員、取引業者の方にインタビューした映像をプレゼンテーションを交えて発表させていただきました。この発表を通して、参加者の皆様に自社のつながりを再確認していただきました。また、第2部では講師に株式会社DREAM ON COMPANY 会長 赤塚久男氏をお招きしてご講演をしていただきました。この講演を通して、「人の魅力で人を呼べる企業」「楽しんで働ける企業」「感動を与える企業」など利他の精神を持つことにより、人に笑顔や元気や感動を与え、ひいてはそれが地域から信頼される企業へと発展していくことだと参加者へ伝えていただきました。赤塚講師が言うつながりとは、人を思いやること。人が喜ぶことが自分の喜びと感じる社員がたくさんいる職場は明るい雰囲気になり、ありがとうで溢れた職場になるということを学びました。

人口構造が変わり、労働形態も変わり、情報が入手し易い混沌とした社会だからこそ、現代社会で企業を永続していくためには、人と人とのつながりが大切であると、われわれ経営資質向上委員会は提起しました。事業全体としては、つながりの大切さを参加者の方に学んでいただくことができたことと思われれます。第1部と第2部の内容に、より関係性を持つことができているれば、さらによい例会になったのではないかと思います。また、全体を通して地域から信頼される企業基盤の構築の内容として具体的な例がなく、落とし込みが不十分であったことは反省するべき点でした。

最後になりますが、公益社団法人格になり最初の公開例会を開催するまでに色々ご助言いただきました野田理事長をはじめとするLOMメンバーの皆様には深く感謝申し上げます。また例会を無事終えることができましたのも、多くの労力をさいていただきましたスタッフと委員会メンバー、そして何より多くのLOMメンバーの参加と暖かいご協力があったおかげ様です。また、貴重な講演をしていただき参加者の質問にも適切に対応していただいた赤塚久男講師、本例会に関わりあるすべての方に心から感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

開催場所:尾張一宮駅前ビル「i-ビル」2階 大会議室

#### ③事業計画3 現状を把握し新しい価値の創造力の養成(5~7月)

事業計画3は、公開事業の5月21日、公開例会の7月

9日に開催させていただきました。

本例会は、『イノベーション~常識を打ち破れ~』と題しまして、混沌とした社会を生き抜く術を身に付け、自社に即したイノベーションを起こすことで、まわりに変化をもたらすことができる青年経済人を育成するために開催させていただきました。

5月度公開事業では、「イノベーションとは」を理解していただくために、イノベーションを体系的に説明する勉強会をさせていただきました。その中では、イノベーションをより身近に感じていただけるように、誰もが知っている具体例を用いてプレゼンテーションとワークをさせていただきました。また、イノベーションを通して自社経営の事業拡大に成功された企業様にインタビューした映像を発表させていただきました。これを通して、成長している企業に共通することは、自社の強みや弱みといった現状をしっかりと把握し、イノベーションという発想を柔軟に取り入れ、対応しているということが参加者の皆様にご理解いただけたかと思えます。ただ、設営においては反省するべき点が多々ございました。事前準備から想定していない事態があり、事業時間を短縮せざるを得なかったことは、私の読みの甘さとリハーサル不足、段取り不足、確認不足がゆえに皆様に迷惑をかけてしまいました。

7月度公開例会では、冒頭に5月事業の振り返りとして、参加者の生の体験談を発表していただくことで、他の参加者に「自社でも取り組んでみよう」と気づいていただけたかと思えます。続いて、講師に株式会社 クラブハリエ 代表取締役社長グランシェフ 山本 隆夫氏をお招きしてご講演をしていただきました。赤字続きだった同社を一躍人気店へと変貌させた発想。バームクーヘンを切り分ける姿を見せることは、今でこそ当たり前前の試みではあるが、当時は斬新な手法として様々なメディアから絶賛されたことがブームのきっかけになりました。今までの常識にとらわれない自由な発想と、既存のものを壊す勇気により新しいスタンダードが生まれてきたことが成功の背景となっています。山本講師は、常識は世の中が決める。あたりまえのことをあたりまえにやるという自分の信念を信じ貫くことがイノベーションに繋がるということを教えて下さいました。

事業全体としては、自社に即したイノベーションを起こす必要性について参加者の方々に気づき、学んでいただけたのではないかと思います。公開事業から公開例会までの時間に、もっと我々から参加者へ向けた情報発信や課題の取り組み状況の把握等ができていれば、さらによい例会になったのではないかと思います。

最後になりますが、公開事業から公開例会までを開催するにあたり色々ご助言いただきました野田理事長をはじめとするLOMメンバーの皆様には深く感謝申し上げます。また例会を無事終えることができましたのも、多くの労力をさいていただきましたスタッフと委員会メンバー、そして何より多くのLOMメンバーの参加と暖かいご協力があったおかげ様です。また、貴重な講演をしていただき参加者の質問にも適切に対応していただいた山本隆夫講師、本例会に関わりあるすべての方に心から感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

開催場所:尾張一宮駅前ビル「i-ビル」7F  
シビックホール 北面

#### 4. 最後に

本年、経営資質向上委員会は、自社を取り巻くすべての人々とのつながりを大切に、地域社会から信頼され必要とされる人材の育成と、いかなる困難にも対応できるよう、現状を把握し新しい価値の創造力を持った、人や組織に変化をもたらすことができる青年経済人の育成をテーマに一年間活動してまいりました。

思い返せば、昨年末に委員長の職をお受けしてから、長いようであつという間の1年間だったように感じます。まちのためという高い志を持つ青年会議所の事業だからこそ、実務的な準備や対応はもちろんのこと、自分自身の意識の高さや情熱など、ある意味では泥臭いと思えるほどにひたむきに一生懸命取り組まなければ、達成することは難しいのだと感じました。

もっとこうしておけばよかったと感じる点は数え上げればきりがありませんが、そのような反省の中でも、時に厳しくも暖かく指導し委員会を導いていただきました浅田担当副理事長、こちらからの指示を待つだけでなく自ら積極的に動いてくれた岩田副委員長と福田副委員長、そしてブロックアカデミーへ出向し大いに活躍しながらも委員会の為にしっかりと動いてくれた西岡幹事と野村幹事という優秀なスタッフに恵まれたこと、また、その若く経験の少ないスタッフを岩満委員、小橋委員、坂井田委員という委員会メンバーの皆さんが支えて頂いたことは本当にありがたく、ほかにも一年間多くの方に支えられて委員会の活動が行えたことは感謝の念に絶えません。

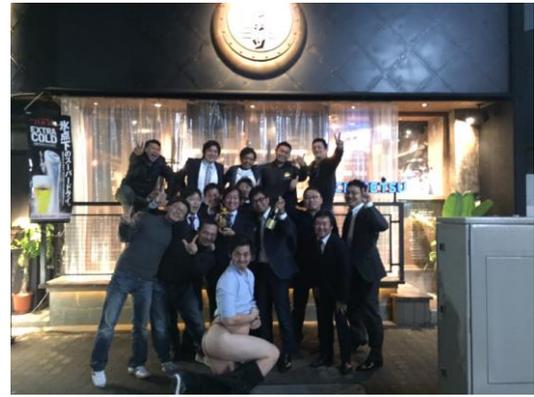
一年間の至らなかった点を反省し今後に生かすとともに、本年関係したすべての皆様から頂戴しました「御陰様」を、わずかなりとも皆様にお返しできるよう、その時々々の立場で全力をもって取り組んでまいりたいと思います。

一年間、誠にありがとうございました。

# アカデミー委員会

## 1. 委員会構成メンバー

担当副理事長 浅田 佳寿優  
 委員長 安田 敏宏  
 副委員長 野田 敏弘  
 副委員長 野村 和弘  
 幹事 伊藤 匠  
 委員 尾上 宜正  
 委員 野杵 晃充



## 2. 委員会開催報告

内容	月日	場所	内容
第1回予定者委員会	9月 18日	菊 水 会 議 室	1 基本方針案について
第2回予定者委員会	10月 3日	一 宮 市 民 会 館 会 議 室	1 基本方針案について
第3回予定者委員会	10月 24日	一 宮 市 民 会 館 会 議 室	1 基本方針案について 2 事業計画案について 3 予算案について 4 事業計画 2 案について 5 事業計画 3 案について
第4回予定者委員会	11月 10日	一 宮 市 民 会 館 会 議 室	1 基本方針案について 2 事業計画案について 3 予算案について 4 事業計画 2 案について 5 事業計画 3 案について
第5回予定者委員会	12月 5日	一 宮 市 民 会 館 会 議 室	1 基本方針案について 2 事業計画案について 3 予算案について 4 事業計画 2 案について 5 事業計画 3 案について
第6回予定者委員会	12月 25日	ノダックスコーポレーション 会議室	1 事業計画 3 案について 2 事業計画 4 案について
第 1 回 委 員 会	1月 7日	ノダックスコーポレーション 会議室	1 事業計画 1 について 2 事業計画 3 について 3 事業計画 4 について
第 2 回 委 員 会	1月 27日	桂 林 会 議 室	1 事業計画 1 について 2 事業計画 3 について 3 事業計画 4 について
第 3 回 委 員 会	2月 16日	一 宮 市 民 会 館 会 議 室	1 事業計画 1 について 2 事業計画 3 について 3 事業計画 4 について
第 4 回 委 員 会	3月 24日	一 宮 市 民 会 館 会 議 室	1 事業計画 1 について 2 事業計画 3 について 3 事業計画 4 について
第 5 回 委 員 会	4月 21日	桂 林 会 議 室	1 事業計画 1 について 2 事業計画 4 について
第 6 回 委 員 会	5月 19日	桂 林 会 議 室	1 事業計画 1 について 2 事業計画 4 について
第 7 回 委 員 会	6月 19日	一 宮 市 民 会 館 会 議 室	1 事業計画 1 について
第 8 回 委 員 会	7月 21日	一宮スポーツ文化センター 会議室	1 事業計画 1 について 2 事業計画 2 の事業報告について 3 事業計画 3 の事業報告について 4 事業計画 5 のについて
第 9 回 委 員 会	8月 19日	一宮スポーツ文化センター 会議室	1 事業計画 1 について 2 事業計画 5 について
第 10 回 委 員 会	9月 18日	一 宮 市 民 会 館 会 議 室	1 事業計画 1 について 2 事業計画 5 について
第 11 回 委 員 会	10月 19日	一 宮 市 民 会 館 会 議 室	1 事業計画 1 について 2 事業計画 5 について
第 12 回 委 員 会	11月 18日	一宮スポーツ文化センター 会議室	1 事業計画 1 について
第 13 回 委 員 会	12月 21日	デ ン 会 議 室	1 事業計画 1 について 2 事業計画 4 の事業報告に

			3 事業計画 5 の事業報告に ついて
--	--	--	------------------------

### 3. 事業報告

#### ①事業計画 2

上期オリエンテーションの開催(1月～6月)

今回は私自身、初めての理事経験とアカデミー委員長という大役を仰せつかり本当に自分に出来るのか、やり切れるのかという不安な気持ちで一杯でしたが皆様のご協力のもと何とか上期を乗り越える事が出来ました。初顔合わせより始まり全5回のオリエンテーションにご参加、ご協力頂きました委員会メンバー並びに理事長、正副、LOMメンバーの皆様に変更してお礼申し上げます。

上期を終えて、予定者の皆さんにはとにかく目的意識を持ってJC活動に参加して頂き、そして楽しく活動してもらう事を伝えオリエンテーション、例会に参加してもらう様にしました。

第1回の初顔合わせからアンケートを用いて今から始まる青年会議所活動で自分自身が何を目的として活動をするのか、行く先がぶれない為に目的意義を書いてもらい皆さんの前で発表してもらいました。

第2回では、青年会議所の仕組みや歴史を知ってもらうオリエンテーションを行い、よりJCについての理解をして頂くと共に、そこでも目的、目標を持つ大切さを伝え懇親会で楽しむというメリハリのある体験もしてもらいました。

第3回の理事会傍聴では、予定者の皆さんと絡む時間はありませんでしたがアンケートを取ることで、初顔合わせ後から目的目標の前向きな姿勢の変化がある事が分かり、改めて目的意識を持って活動する事の大切さを学んでもらう事が出来ました。

第4回の模擬委員会では、今後のJC活動に強い意志と実行力も持って行動してもらう為、予定者の皆さんだけで議案作成してもらいスタッフメンバーは一切手伝わずに、作り方を教えました。そしてその議案を用いて実際に模擬委員会を行いました。模擬委員会では様々な意見が出て良い学びになったと思っております。ここでは議案作成の大変さ、楽しさ、達成感が育まれ将来、強い意志と実行力を持ち合わせた次世代の会員となる為の一助となるオリエンテーションとなりました。

そして集大成と致しまして第5回では私自身が尊敬する藤野雅丈先輩を講師としてお呼びしてご講話をして頂きました。JCを続けていく事により自分自身が得られる財産や人脈、JC活動は自分を向上させる様々な学びとなる場所だということを予定者の皆さんに気づかせて頂けるご講話となりました。ここでもアンケートを取りましたが予定者の皆さんが更に前向きな姿勢で活動していきたいという意志を感じさせるアンケート結果となりましたので今後も今以上に飛躍してもらう為に目的意識を持ち活動する事の大切さを忘れないよう伝播していこうと思っております。しかし反省点としまして目的意識を持ち活動しメリハリをつけて楽しむ事は十分に伝わったと思いますが、目的意識を持って参加させる事だけに気を取られ過ぎてしまいJCの歴史や伝統、礼儀礼節マナーといった点では指導しきれず課題が残ったと感じております。今後は今回、正会員となったメンバーには、この部分を残り半年間しっかりと伝え指導していきたいと思っております。

#### ②事業計画 3

3年未満研修会の開催(5月)

今回の研修会は、入会3年未満会員に対し、自ら率先して人々を魅了するリーダーとしての資質を向上する事を事業目的として開催しました。それを踏まえた上で、長時間ではありますが4部構成で研修を行いました。

研修会第1部で議案作成をすることによりその不安は少なからず取り除く事が出来たと感じます。その逆で議案作成が大変だと感じるメンバーが居るのではないかと懸念もありましたが、アンケート結果を見る限り総合的に良い経験が出来たという意見が多く議案作成をした後の達成感や楽しさを伝える事が出来て良かったと思っております。

そして第2部の模擬理事会では理事会そのままの演出をして非常に緊張感のある体験をして頂きました。

普段の委員会とは違い、必ず挙手をして質問・答弁・意見の流れ、実際の理事会の進行等が経験できたことは自分が理事となった時、かなりの手助けになるのではないかと感じております。

その後押しとして第3部では、日本青年会議所公認プログラムのCCセミナーを行い、新しい行動で一步前へと踏み出す勇気を育むことを学びメンバー間の絆を深めることもできました。この絆を深める事は非常に大切で重要な事だと考えます。私自身がそうであるように今回の理事を受けるにあたり、浅田担当副理事長のお誘いがなければ理事を受けていなかったと思います。なぜならばそこに絆と信頼関係があったからです。

将来、役職を受けるにあたり理事長所信にもあるように『あいつのために俺はやる』と言う部分はLOMの一体感に繋がりが一宮市の為、仲間の為、自分自身の為にと言う部分では、このCCセミナーは非常に実りのあるセミナーになったと確信しております。

また、日本青年会議所公認セミナーには安価で深い内容まで学べるプログラムがあり、メンバーの資質向上に繋がる様々なセミナーが沢山ありますので今後も積極的にLOMの事業に取り入れるべきだと思いました。

そして第4部の現役理事長講話では一宮の伝統、礼儀・礼節・マナー、ナンバー8の重みを伝えて頂き、自分が一宮青年会議所のメンバーである事に誇りを持って各種大会・事業に参加することを気づかされるご講話となりました。近年にはない現役理事長講話は大変貴重な時間となりメンバーのモチベーションを上げる結果となりました。

私からの総合的な所見と致しまして長時間で大変な研修会ではありましたがメンバーにとって非常に実りのある貴重な1日になったと思っております。

そしてこの研修会は今回初めての試みで5月開催をさせて頂きましたがメンバーのモチベーションを上げる事に関して時期的にも非常に良いタイミングで今後もこの3年未満研修会を続けて頂けたらメンバーの資質向上に繋がると思いました。

### ③事業計画 4

下期オリエンテーションの開催(7月～12月)

まずは上期オリエンテーション終了後、息つく間もなく直ぐに下期オリエンテーションが始まり、大変タイトなスケジュールにも関わらず委員会メンバーの皆様には設営準備、運営と上期同様最後までご協力くださいましたことを心より感謝申し上げます。そして私共の運営上多々至らない点等ございましたが、理事長並びに正副、理事、LOMメンバーの皆様方におかれましてもオリエンテーションにご協力くださいました事を改めてお礼申し上げます。

今回の下期オリエンテーションに関しましては、上期に行った事と同様の事業をそのまま行いましたのでオリエンテーションの内容と致しましては上期の反省点も踏まえ落ち着いて運営できたと思います。但し、下期正会員予定者の数が11名と上期のほぼ倍の人数となりましたので予定者とコミュニケーションを図る事や、目的意識を持つ大切さを伝えるという部分では倍の労力を使いました。しかし自分自身も気合が入り直し遣り甲斐のあるとても充実した下半期になったと思います。

第1回、初顔合わせでは予定者の皆様におかれましてはよいよ始まるJC活動に対し期待感と不安感様々な思いを胸に参加し非常に緊張をしている姿が見受けられました。ここでは今後、正会員へとなるための説明を行い同期との絆を深める事、そしてこれからのJC活動に対する目的意義を一人ずつ立って発表して頂きしっかりと目的意識を持って参加して頂くための第一歩となりました。同期と絆を深めるという部分では上期と下期で温度差が出ない様、上期で正会員となったメンバーにも偏愛マップを作成してもらい一緒に参加させお互いを知って頂くようにしました。

第2回、青年会議所の組織と仕組みを学んで頂くオリエンテーションですが、まずは初顔合わせで今後のJC活動でどの様な目的意識を持って参加をするのか覚えている予定者、忘れてしまっている予定者に分かれたのですがそこは想定内でした。オリエンテーションに関しましては、事前に資料を配布し予習してくるよう促しました。しかし理解できない部分は沢山あると思いましたので当日は資料を一人ずつ読み上げて頂きより理解できるよう工夫をしました。また出席できなかった予定者に関しては、当日資料を手渡ししてオリエンテーションの内容を伝えました。ですが我々教える側のメンバーがしっかりと青年会議所の仕組みを説明できない部分もありましたのでそこに関しては深く反省しております。

第3回、理事会傍聴では自分自身が理事会に参加しておりますので事前に電話連絡をして目的意識を持って参加するよう予定者の皆さんには促しました。予定者の心境を感じ取ることは出来ませんでした。アンケートを取ることでより心境をよみ取ることは出来ました。予定者の皆さんにとって理事会という非常に重苦しい空気の中、会議が進行してく様を見て自信を無くす方もいるのではないかと心配しましたがそのアンケート結果を見て予想以上の反響が返ってきたのでホッとした事を覚えております。勿論不安な気持ちを隠せず自分には理事は無理だとアンケートに記入する方もみえましたがどこでJCスイッチが入るかは人それぞれだと思いますので焦らずフォローしていこうと思いました。しかし自分にはJCは向いていないから辞めてしまおうと考えていた時に、この理事会傍聴を体験してJCにスイッチが入り、更に仕事も頑張ろうと気持ちが変わったと本人から聞かされた時は本当に嬉しく感じました。

第4回、模擬委員会では予定者の皆さんだけで議案作成をして頂き、その資料を基に実際の委員会形式で机を円にして真剣に協議を行いました。予定者同士で共に議案作成をする事によりさらに絆が育まれている事を肌で感じました。そして目的意識を持ちしっかりと議案も作成して頂きました。個人差

### ④事業計画 5

卒業例会の開催 (12月)

本年度は8名の卒業生をお見送りするにあたりどの様な例会にしたら喜んで頂けるのか、前年度からの良いところも取り入れさせてもらい、更に進化させた本年度のカラーをどの様に出していくのか非常に悩む例会となりました。新しく取り入れた趣向で、今だから言える話を卒業生から聞き出し当日資料にQ&A方式でJC手記として盛り込んだ部分は、LOMメンバーは勿論、卒業生に対しても少々過激な内容にはなりましたが非常に楽しんで頂けたのではないかなと思っております。

次に卒業生にプレゼントする記念品としまして心温まる送り物は何かないかと委員会メンバーで色々考えた結果、手作りで気持ちのこもった湯呑みとお皿を作成する事にしました。卒業生の会の名称と本人の名前を湯呑みとお皿に彫った点なども非常に心温まる良い贈り物になったのではないかと思います。更に湯呑みとお皿の作成は当日の卒業生の担当者が心をこめて作成致しました。卒業例会当日には控室でその湯呑みとお皿を使いお茶とお菓子を出した点など私も含め卒業生の方々に大変喜んで頂きました。

そして近年には無かった卒業した先輩からのビデオレターに関しましては卒業生側からしますとといった誰が出てくるのだろうかとかドキドキ感と感動を演出する事も出来ました。見ているLOMメンバーにとっても刺激と感動があったかと思っております。

反省点としましては、例会準備に気を取られすぎ卒業例会の主役でもある卒業生の方々に対する配慮が足りず、例会前日にお迎えに行く時間を聞いたり、入場する際のテーマ曲を卒業生側から心配され渡されたり、送辞と答辞のお願いが遅かったりと多々至らない点があったことを反省しております。また、感謝の儀に関しましては前年度からの良いアイデアとして取り入れさせて頂いたにも関わらず、当日の説明不足やアカデミー委員会からの誘導する配慮が足りずLOMメンバーの皆様を混乱させてしまったことも深く反省しております。しかし全体を通して良かった点、反省点等残りましたが私的には無事に卒業生に不快な思いをさせる事なく感謝と敬意を持って送り出すことができたと感じております。そして残されたメンバーにとっても卒業例会に対して私が体を張って歴史と伝統を継承する事ができたのではないかと満足もしております。最後となりますが今回の例会は委員長の私が卒業生側にいたので委員会メンバーの皆様には大変ご苦勞をお掛けしたことをお礼すると共に深く感謝しております。そして卒業生の皆様におかれましても歴の長い方、短い方とおられました。数々の功績を残して頂きました。その足跡を胸に残されたメンバーは強い意識と実行力を持ち合わせ今後も一宮青年会議所を盛り上げて頂けると思っております。

はありますが強い意志と実行力が育まれていることを実感できるオリエンテーションとなり大変微笑ましく思いました。

第5回、オリエンテーションの集大成でもあります歴代理事長講話では木村亮一先輩にJCの魅力についてご講話頂きました。沢山のLOMメンバーの方々にお集まり頂きました事を感謝いたします。しかし設営上では色々と不備が多々ありました事をお詫び申し上げます。

ここでは、木村先輩と事前に何度も打ち合わせをしてどのような講話をしたら予定者の心にJCの魅力が伝わるのか、予定者の皆さんは何がきっかけでJCに入会することを決意したのか、どうしたらこれからの一宮青年会議所を背負って立ち次世代を担う会員に出来るのかなど、予定者の皆さんに聞き取り調査も行い木村先輩にお時間を作って頂き真剣に討論をしました。そして当日は熱いご講話をして頂き、結果として予定者の皆さんの心を動かすオリエンテーションの集大成を飾る非常に実りのあるご講話となりました。

アカデミー委員会の基本方針にもある「目的意識を持つ大切さを伝え、強い意志と実行力を持ち合わせた次世代の会員を育成する」といった部分に関しましては、個人差がありすべての予定者の皆様にどこまで伝わったかは正直、未知な部分ではありますが今後のJC活動における手助けは出来たと感じております。反省点は多々ありますが11名の下期予定者を全員正会員へと導くことが出来たことに関しましては非常に満足しております。そしてすべてのLOMメンバーの皆様方におかれましてもオリエンテーションにご協力くださいました事を感謝申し上げます。

⑤最後に

私は入会が34歳で6年間という短いJC活動でしたが最終年度にアカデミー委員長のお誘いを受け理事を受けさせて頂いた事を本当に感謝しております。JC入会当初は後ろ向きで早くこんな団体は辞めてしまいたいと思っていましたが何となく続け3年程経った時にLOMの中で気の許せる仲間たちと出会いそして絆が生まれました。今では卒業してしまってもうJC活動が出来なくなってしまう事が名残惜しくて仕方ありません。もっと自分から率先して何事にも挑戦していればもっと楽しいJCライフになっていたと思います。

一番悔いが残るのは今年アカデミー委員長をさせて頂き17名の入会予定者が全員正会員となりました。ですがそれと同時に僕はJCを卒業してしまいます。

2015年度に新しく出会った素晴らしいメンバーと共に楽しい時間を過ごしてきたのに、これからまた共にJC活動が出来ない事が非常に残酷で辛いです。この一年間、僕なりにとにかくJCの魅力を知ってもらおうと一生懸命、予定者と接し頑張ってきました。勿論そこには委員会メンバーの協力があってからこそこの高い壁を乗り越えることが出来ました。世話の焼ける委員長で委員会メンバーには大変ご迷惑をおかけしてしまいました。本当に感謝しております。あらためてお礼申し上げます。本当に最後までお付き合いくださいましてありがとうございます。

今後は2015年度入会メンバーを外から応援する事しか出来ませんが皆様のご活躍を楽しみにしております。

最後となりますがJCは泣いても笑っても40歳になれば皆、卒業がやってまいります。今思えば出向もしたかったですし、理事もまたやりたいと思いますし本当に悔いが残ります。現役で役職をやっている時は辛い事も多いと思いますが自分自身に戻って来る物も沢山あります。仕事を疎かにしてはいけません少し無理をしてでも残されたメンバーの皆様には是非、悔いの残らないよう全力でJC活動を全うして頂き卒業までの残された時間、仲間と苦楽を共に過ごして頂きたと思います。

6年間本当にありがとうございました。

## 監事所感



外部監事  
木村亮一



監事  
横田公一



監事  
服部良太

2015年度は、「公益社団法人」として最初の1年でした。

事業の組立、予算配分など、制約の多い中で、手探りながらも野田一郎理事長の掲げた「未来へつながる新たな一歩」を模索しながら進めてきた、そんな年だったかと思います。

そのため、各局・委員会においては例年と異なる取り組みをしていただいたり、あるいは、踏襲すべきところは踏襲していただいたりと、この年特有の苦労と挑戦がありました。

例年、この監事所感は手放しで皆さんをほめたたえ、ねぎらい、事業の遂行をなぞり、素晴らしい一年でしたと締めくくります。

が、しかし、監事も新たな挑戦として、厳しい所感を述べさせていただきます。基本、持ち上げて落とします。

### 《事務局》

理事長と同行してその考えを吸収し、正副理事長会議にも同席しているため、理事会では他の局長・委員長とは異なる観点から質疑をしていたと思います。それはひょっとすると独自の発想のものだったのかもしれませんが、惜しむらくは、その質疑から導かれる結論がぼやけていたと思います。この点は、事業を立案遂行する立場をまだ経験していないからこそではないでしょうか。今後の経験を期待するとともに、逆に、事務局を経験したからこそその視点を大切に成長していただければと思います。

### 《財務局》

今後の一宮青年会議所の公益法人格を維持す

るための大切な基盤整備、基礎の確立を担うという重職において、県担当者や顧問税理士、他のLOM等の折衝・情報収集・分析をしっかりと行っていただいたと思います。その一方で、各委員会からの上程議案における予算・決算の財務チェックにおいては、もっと力を発揮できなかったのではないかと思います。この点に関しては、現状の一宮青年会議所の議案上程スケジュール等にも起因することですので、今後の検討課題として変革を期待するところです。

### 《総務・広報委員会》

年初の担当例会である賀詞交歓例会からこの委員会の特徴として、他の委員会からは見えない裏方の仕事が多すぎるという点が挙げられます。年度途中でいろいろなことがありましたが、その裏方の総務としての仕事をしっかりとこなしていただきました。そのためか、広報の点では基本方針で掲げた到達点までたどり着くことが困難であったかと思います。総じて、青年会議所は広報の点においては、いまだに力を発揮できていませんので、広報のあり方そのものを根本から見直す必要があると思います。

### 《渉外委員会》

渉外委員会もまた、裏方の仕事が多く、周囲にその苦労がなかなか伝わらない部署です。ですが、逆に、経験者から見ると、どこまで努力しているかが一目でわかる委員会でもあります。そのため、非常に厳しい視点で見られてしまう委員会ですので、モチベーションを維持するのに苦労した一年だったのではないのでしょうか。渉外委員会の引継ぎ事項は細かい事柄が多いので、しっかりと

引継ぎをしていただければと思います。

#### 《拡大・交流委員会》

基本方針で数字を掲げることは勇気がいります。あえてその数字を掲げた1年でしたが、その数字に至らなかったことを悪いように捉えるのではなく、良い意味で意識していただければと思います。拡大活動に限らず、JC活動は1人でするのには限界があります。委員会だけで行うのも限界があります。周囲に対していかに意識の変革をさせられるか、実際の行動に移らせることができるか、その難しさを感じればこそ、今後の糧になると思います。

#### 《地域ブランド確立委員会》

地域のブランドを選定する段階から、外部団体との協調、地域の声の吸い上げなど、事業前からの多くの折衝をしていただき、色々な活動の制約のある中で、事業までたどり着くことができました。経験したことの無いもの、はじめて行うことも多かったため、色々な苦労があったと思います。しかし、本当の苦労はここからであり、青年会議所として、地域のブランドとして選定して事業を進めた以上、次年度以降でこれを放り出すことなく、しっかりと地域ブランドとして根付かせて地域への誇りと愛着を育むために活動していただければと思います。

#### 《地域活性化推進委員会》

なすべき事業が当初から決まっており、例年よりも結果を求められる状況の中、早め早めの準備をしていました。毎年行っている事業であるからこそ、改良を加え、より良いものを作って当たり前と見られる中で、新しい試みにも挑戦していただきました。この委員会に求められるものは、本来であれば事業を行って終了、ではなく、事業後の伝播等であったかと思います。例会担当割り等の関係もあり、開催時期が遅めでしたが、年度をまたいでも、継続して伝播し続ける努力を忘れてはなりません。

#### 《青少年共育委員会》

生きる力をテーマに事業を遂行していただきましたが、おおよそ、この委員会の難しさは、青少年向けの事業を企画立案して実行することではなく、「共育」の点にあるかと思います。この難しさが、たとえ青少年に対する意識づけ等がいかにできたとしても、満足できるものには至らないという帰結を導きます。すなわち、青少年にとっての生きる力と、大人にとっての生きる力は似て非なるものだからです。その困難な事業に果敢に挑戦していただいた経験を踏まえ、今後の「共育」問題を解消していただければと思います。

#### 《経営資質向上委員会》

「経営」系の委員会はとりわけその立ち位置が難しいところです。一昔前でいう「対内」事業か「対外」事業かを意識した時に、本来であれば対内事業に主眼を置くべきところ、公益法人格の絡みもあって予算が大きく、対外事業としての公開例会を担っていただきました。そのため、本来苦勞すべきポイントがずれてしまい、四苦八苦のうちに、事業に至ったように見受けられます。2016年度は経営系の委員会は設けられないようですが、いずれ再設置された際には、その苦勞を伝達していただきたいと思います。

#### 《アカデミー委員会》

近年では例がなかったと思いますが、予定者全員を正会員にしていただきました。ただし、大切なのは、これからです。2015年度の予定者が、今後、強い意志と実行力を持ち合わせた会員として次世代を担うべく活躍してこそ、2015年度のアカデミー委員会が正当に評価されると思います。引き続き継続して「アカデミー」としての役を担っていただきたいと思います。また、卒業例会は毎年ながら時間の組み立てにおいて試行錯誤をしていただきましたが、変えるべきところと、変えてはいけないところの見極めを引き継いでいていただきたいと思います。

#### 《副理事長》

公益社団法人の執行部として、その重責は推し

て測れないものがあつたかと思います。2015年度は、室長も兼任ということもあり、対外的にも対内的にも調整すべき点多々あつたことでしょう。野田一郎理事長の旗印のもと、なんとか切り盛りして無事の帰港、ほっとしているかと思います。ですが、副理事長職に安堵は不要です。副理事長職を経験したからこそ、今後の一宮青年会議所での立ち位置を認識していただいていると思います。反省すべきところは反省し、改めるべきところは改めるという気概をもって、今後の一宮青年会議所でしっかりと責任をもった言動をお願いしたいと思います。

《結びに》

2015年度の活動を振り返って、公益法人格に振り回された感が否めません。本来であれば、青年会議所活動において、法人格があろうがなかろうが、一般だろうが公益だろうが、その活動の本旨は変わらないはずですが、しかし、この公益法人格を維持推進しようともがいた1年は、今後の活動の大きな試金石になったと思います。振り返れば、その年その年で色々な転換期がありました。その節目に立ち会えたこと、その中で活動できたことは、きっと皆さんの糧になったと思います。未来へつながる新たな一歩、その一歩はすでに踏み出されました。その歩を、止むことなく進めることを願ってやみません。

## じゃがいもクラブ

### 部会長 大野陽平



2015年度じゃがいもクラブ部会長を務めさせていただいた大野陽平です。一年間無事に務めることができたのも野田一郎理事長をはじめ、一宮青年会議所メンバー、そして先輩諸兄の皆様ののおかげであり、心より御礼申し上げます。

私自身、一年間活動してみて分かったことが二つあります。まず一つ目は設営の難しさです。組み合わせはもちろん、受付やゴルフ場との打ち合わせ、表彰式での盛り上げ方など様々な事がありました。そして何より先輩方の配慮の奥深さを知る大変貴重な経験になったと感じております。そして、二つ目がお金の管理です。皆様の大切な登録料を預かり景品の買い出しや案内の郵送など非常に不安がいっぱいでした。しかし、青木副部会長、野杵副部会長、青山直生くんが助けてくれたおかげで円滑に遂行できたと思っております。この3人には特に感謝しております。ありがとうございました。

また、たくさんの不備があったこと、この場をお借りしましてお詫び申し上げます。

2016年度はじゃがいもクラブ監事という立場で参加させていただきます。2016年は一宮青年会議所が6JCじゃがいもゴルフコンペの設営ということで大変担いの大きな年になるとは思いますがしっかりと今年の反省を継承し素晴らしい設営に取り組んでいきたいと思っています。そして、必ず優勝して5連覇を果たし、再び優勝トロフィーを一宮に持って帰ってきたいと思っています。そして、65周年の周年を向かえるにあたって本年度以上にたくさんのメンバーに参加していただき盛り上げていきたいと思います。

最後になりますが、65周年という節目の年でたくさんの先輩方が参加されると思います。本年度以上に気を引き締めて運営をお手伝いできたらと思っていますので何かお気づきの点がございましたらご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

一年間という短い期間ではありましたが大変勉強になりました。本当にありがとうございました。

## 公益社団法人日本青年会議所



日中関係構築委員会に出向して

委員 野々垣総一郎

早いもので12年はあっという間でした。長くも感じましたが振り返ればもうこの活動をする事ができないことが寂しく感じます。青年会議所活動最終年度で日本青年会議所、国際グループ、日中関係構築委員会への出向をお許しいただきました野田理事長、ありがとうございます。

最終年度にこの委員会に出向させていただいたのは、JC活動の中で世界各地を見させて頂きました。知っているようで知らない隣国中国の実態を少しでも知ってみたい、その思いからでした。

日中関係構築委員会は10年ぐらい前にもあったようですが、久々の復活となったようです。JCOBがメインで活動している、日本JC日中友好の会と連携して日本と中国の関係改善、強化が目的であり、日本JC日中友好の会は2003年、日本青年会議所会頭の揚原先輩が会長の団体です。

その中で、日中関係構築委員会の私が所属した第2小委員会の担いは、日本各地の青年会議所、自治体と、中国各地の自治体、青年団体との交流マッチングです。相互の訪問と、姉妹都市、姉妹JC（中国にはJCはなく、共産党青年部）締結の手助けをしました。私の担当は仙台市、仙台JCさんと中国、長春市との交流のお手伝いです。この2都市、JCはすでに姉妹提携されておりましたが、最近の交流は少なく、改めて交流し直そうというものでした。我々、日中関係構築委員会メンバーがアテンドし、仙台JCさんと現地担当者さんを引き合わせる事が出来、現地の日本文学を学ぶ大学生との交流ができました。

その訪問、交流の中で強く感じたのが、中国における共産党の役人の方々の方々の力でした。青年部所属の全青連メンバーには結構な大企業経営者が多数占めておりますが、随所で見られる役人さんへのメンバーの気づかいを感じました。事あるごとに食事などは現地担当役人さんよりご接待いただき、十二分な内容にも関わらず、この程度で申し訳ないとおっしゃっておりました。現在、役人さんへの交際費の締め付けが厳しいのでこの程度だとの事ですが、それでも十二分です。懇親会食事後の対応は、全青連の方々が役人さんの指示で執り行っていただきました。現地の方々曰く、中国は共産主義でも資本主義でもなく、権威主義だと言っていましたが、この意味が理解出来る内容です。多数の一般の方は、本音と建前で権威の前で本音がなかなか言えないのでしょう。個々の中国人は冷静でお付き合いするには問題はありますが国家、団体レベルだと難しいのがわかりました。ちょうどいい距離感を維持しつつ、中国の成長をいい意味で見守りたいところです。

卒業年度での出向はその経験をLOMに持ち帰ることは叶いませんが、一年間の短い委員会活動にも関わらず、各地青年会議所の卒業生と深い親交ができ、卒業後もお付き合いできる関係となります。是非、2016年度卒業生の皆さんには出向して、たくさんの方を見つけて欲しいと思います。また、経

験を LOM へ還元するためにも、若手のメンバーの皆様も、早い段階からの出向をお勧めします。

最後になりますが、2016年度は、野杵君が日本青年会議所、国際グループの筆頭議長を担います。とても大変な担いです。一宮青年会議所メンバー皆さんのたくさんのご支援、ご協力が必ず必要です。何卒、よろしくお願いいたします。

## 公益社団法人日本青年会議所



地域再興会議に出向して

委員 石川佳照

まずは、地域再興会議に出向させていただきましたこと野田理事長はじめ理事の皆様には感謝いたします。また、各フォーラムへの参加についてもLOMメンバーの皆様には感謝いたします。

地域再興会議は、『底知れぬ力』による日本再興に向けたビジョンの提示をテーマとして、本年度新設された会議体です。日本の今後の発展について地域がどのように成長させていくべきなのかを学ばせていただく良い時となりました。今日本は人口減少、少子高齢化、国際化が発展する中、今までは国家主体の地域開発が主でした。しかし地域を見ますと、各地域に個性が存在します。その個性を最大限活かしていく事により、地域の自立自活と繋がります。しかし、現状が国への依存体質からまだ抜け出せないというのが現実です。本会議体では、京都会議より募集されました「地域再興コンテスト」が開催されました。内閣府後援のもと全国のLOMから130以上のアイデア・提案がされました。その多くが各LOMのエリアを熟知した素晴らしい事業ばかりでした。昔からある文化や自然を活かす事業、地域を活用した国際色豊かな事業、様々な事業が提案されました。国際色という点においては、2020年の東京オリンピックを見据えた、滞在型観光事業のモデルは私達の地域一宮市において有効的な事業になりうると感じます。名古屋市から電車でも車でも20分で移動ができる環境です。その点を踏まえていくと一宮市は他の地域と比較しても非常に良い地域と感じます。

京都会議、サマーカンファレンス、全国大会では、メインフォーラムの設営に参加させていただきました。一つ一つのプログラム、各フォーラムへの準備はLOMで経験してきた以上の緊張感と下準備がありました。ぜひ学ばせて頂いた事柄をLOM伝播していけたらと思います。

地域を豊かにするためにも今後とも多くの地域での良い事業を吸収して一宮の地域再興につなげていけたらと思います。



## 東海地区協議会

監査担当役員 野杵晃充

2015年度東海地区協議会に監査担当役員として出向をさせて頂きました。ご存知の通り、東海地区協議会は静岡・岐阜・三重・愛知の4ブロック協議会から構成されており、そのスケールメリットを活かして、JC青年の船「とうかい号」と東海フォーラムという、2つの大きな事業を柱としています。2015年度の東海地区協議会は、静岡ブロック・一般社団法人沼津青年会議所より出向された杉澤教人会長が掲げる「成熟した地域愛溢れる東海の実現」をスローガンに活動を展開してまいりました。東海地区協議会は、前年9月からスタートし、毎月1回の地区役員会議、そして同じく月1回のとうかい号本部役員会議が開催され、本年11月に全ての役員会議が終了いたしました。

わたしが、仰せつかった監査担当役員という役職については、杉澤会長を補佐する立場として、事業監査と会計監査という二つの役割と責任を持ちます。事業監査というのは、議案の協議段階では、その事業が果たして杉澤会長が掲げる基本方針に合致しているかどうか、事業内容は事業目的に合っているかどうか、お金の使い方やコンプライアンスは適切かどうかをチェックし、議案の審議可決後は、実際に事業に参加して適切に運営されているかどうかの確認、必要であればその場で指示を出すという役割です。もう一つの会計監査については、言葉通り、予算や決算が正しく記録されているかを確認する機能です。日本青年会議所は公益社団法人格を有しており、その下部組織である東海地区協議会もまた同様に、公認会計士による外部監査を毎年受ける必要があります。監査担当役員は、内部会計監査人そして財政審査特別委員長と協働して、お金の流れをきちんと把握し、内部監査で指摘していくという責任を持ちます。LOMで監事を務めたことのない私にとっては、事業監査も会計監査も初めての経験で、自分自身も勉強になった1年でした。

この1年間を通して、一番記憶に残っているのは、やはり、今年6月に寄港地台湾に向けて出航した第42回JC青年の船「とうかい号」でしょうか。一般団員400名、JC団員200名が、大型客船ばしふいっくびいなすで過ごす8日間。今までも出航式や帰港式は何度も参加したことがありますが、実際に乗船してみると、そのエネルギーに圧倒されました。自己変革につながる研修や、現地台湾人との国際交流はもちろんのこと、濃密な1週間をともに過ごすことで生涯付き合える仲間ができる、素晴らしい事業だと確信しました。総額1億7000万円という、日本青年会議所内でも最大の青少年育成事業でもあります。

この出向を通して得られてものは3つあります。1つ目は、東海地区中に多くの仲間ができたこと。これは今後のJC活動だけでなく、生涯にわたって付き合い合える仲間との出会いでもあります。2つ目は、一宮JC以外の活動手法を学べたこと。過去にあまり出向経験のない私にとって、議案書フォーマットの違いや財審様式・コンプライアンス、各種式典の設営方法の違いなどは、非常に参考になりました。良

い点については、今後、一宮JCの改善につながるようフィードバックしていければと思います。3つ目は、様々なリーダーシップについて学べたことです。杉澤会長をはじめ、4ブロック協議会のブロック会長とともに行動することが多かったのですが、個性はバラバラでも、皆さん素晴らしいリーダーシップの持ち主でした。本年度の柴田会頭いわく、青年会議所がリーダーシップを学ぶ最後の学び舎だとすれば、やはり素晴らしいリーダーに接することで、その感性は磨かれていくものだと信じています。一宮JCのメンバーの皆さんにも、機会があれば、是非、出向して頂き、新たな可能性を切り拓いて頂けたらと思います。

最後に、この度の出向に際しまして、LOMをあげて支援いただきました野田一郎理事長をはじめとする理事会構成メンバーの皆様、そして新たな挑戦の場でいつも笑顔でお支え頂きました尾上宜正君、酒井真一郎君にも、この場をお借りして御礼を申し上げたいと思います。特に、一緒に乗船したとうかい号での1週間は、きっと生涯、忘れることはないでしょう。1年間、本当にありがとうございました。

## 東海地区協議会

地域愛溢れる東海実現委員会

委員 服部良太



まずは東海地区協議会の地域愛溢れる東海実現委員会に出向させていただきましてありがとうございました。

3 回目の出向になりますが、委員会への出向は初めての経験でした。出向が決まったのが遅かったので出遅れたかと思いましたが、3 月の終わりに初めての全体委員会でしたのでかなり遅いスタートで正直びっくりしました。初めての委員会にも関わらず 6 割ほどの出席でしたし、スタッフも欠席しておりましたし、資料も何もない中でのスタートでしたので正直大丈夫かというのが最初の感想でした。

7 月には東海フォーラムがありましたので、LOMでいうと議案上程は間に合わないスケジュールで最初の委員会ではすでに上程後という驚きの連続でした。東海地区という広域な範囲での委員会ということでそのようになっていたのかわかりませんが、改めて一宮青年会議所や愛知ブロック協議会がしっかりとやっていることを再認識いたしました。

そんな中ではありますが、各地から集まったメンバーでしたので、それぞれのやり方や青年会議所活動がわかり、大変勉強になりました。少人数の大変さは愛知ブロックでもありますので知ってはいたしましたが、遠方の大変さは愛知県や特に一宮はどこへ行くにも恵まれていて活動のしやすさを感じました。

そんな中でも志おなじする仲間ですので、危機に直面したら、それぞれの役割を全うできる素晴らしい団体であると感じました。東海フォーラム直前に委員長が不慮の事故で入院することとなり、そこから委員会が東海フォーラムを乗り越える為に団結したように思います。活動エリアは違えど、活動そのものはそれぞれの地域の為に活動しているので、それぞれの役割を理解して行動に移せることには感動しました。

出向の良さは、新たな仲間ができるとか、他LOMの活動や考え方を知ることができるとか、色々あるかと思いますが、同じように真剣に活動している仲間が全国各地に実際にいるんだということ、共に活動することによって実感できることだと思いました。

出向先や出向先での仲間によって得られるものは変わってくると思いますが、出向の良さというものを知ることができましたことは、本当に良い経験となりました。

残り 3 年の中で出向する機会があるかどうかわかりませんが、出向することになれば、前向きに考えたいと思いますし、皆様にも出向する機会があれば是非とも出向していただきたいと思います。

## 東海地区協議会



地域愛溢れる東海実現委員会

委員 吉田悟

本年度、公益社団法人日本青年会議所 東海地区 地域溢れる東海実現委員会 委員として出向させていただきました。まずは、出向の機会を与えていただいた野田理事長をはじめとする一宮青年会議所メンバーの皆様、本当にありがとうございました。わたしが出向させて頂きました東海地区の地域溢れる東海実現委員会は古事記、日本書紀をもとに日本人の精神性を学ぶという委員会でした。

自分の国の歴史を学ぶことの大切さと、日本のことを好きになってもらうためにメインフォーラムではコーディネーターとして宮崎哲弥氏、パネリストとして白駒妃登美氏と吉木誉絵氏をお招きしてパネルディスカッションを行いました。また、パネル展示によって愛知、岐阜、三重、静岡それぞれの市にある古事記、日本書紀にまつわる名所を紹介させて頂きました。

私は東海地区協議会に初めての出向させて頂きました。初めての委員会が開催されたのは3月末で、7月の東海フォーラムのわずか4ヶ月前でした。正直、この短期間でどのような運営をしていくのか不安でした。短期間での運営、数少ない委員会にも関わらずメンバーが揃わない日もありました。そして、東海フォーラムの1週間前に委員長がケガで集中治療室に入ってしまった。当日、委員長不在ということで色々不安ではありましたが、出向された方たちは、それぞれのLOMで様々な経験をされている方たちばかりでしたので、その経験を生かすことで危機を回避することが出来ました。今回、様々な経験を積まれてきたメンバーのお陰でなんとかなりましたが、しっかりとした委員会の運営、事前準備の重要性を再確認致しました。

最後になりますが、出向させて頂いたことで一宮青年会議所のしっかりとした運営を再確認するとともに、この経験を今後のLOMでの活動に生かしていきたいと思えます。出向するにあたり、ご支援、ご協力頂きましたLOMメンバーの皆様、本当にありがとうございました。

# 愛知ブロック協議会

「つながり」のある愛知創造委員会

委員長 野田周平



はじまりの鐘が鳴り響けば、いつかは終りの鐘が鳴り響く。

2014年8月22日、瀬戸商工会議所にて愛知ブロック協議会 2015年度 委員長呼び込みがあり、藤井会長予定者から「愛知ブロック協議会 2015年度 「つながり」のある愛知創造委員会の委員長に任命いたします」と言われ、訳も分からないまま「はい」と言った自分が居たことを今でも鮮明に覚えています。私自身、出向は2008年に愛知ブロック協議会アカデミー委員会以来でした。そんな出向経験の無い私がこの後、非常に苦勞することは言うまでもありません。

呼び込みの翌週から、委員長予定者としての動きが徐々に増えてきました。この時期は、私の担当する委員会の10月度公開例会第3回ICHINOMIYA郷土グルメグランプリが控えていましたのでブロック委員長予定者としての動きと重なり大変な日々を送っている中でも、ブロック委員長予定者としての任務を遂行することができたのも高月委員長率いる委員会メンバーの一人ひとりが協力し合い当日を迎えるまで準備をしていただけたこと。そして、野杵理事長をはじめとする理事会構成メンバーのご協力をいただけたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

「つながり」のある愛知創造委員会は本年度新設で設けられた委員会です。委員会の担いとしては、2月の名古屋会議メインフォーラム、9月の第48回愛知ブロック大会メインフォーラム、青少年事業と大変大きな事業を抱える委員会でした。2月の名古屋会議メインフォーラムについては、11月の第2回会員会議所予定者会議で審議上程をしなければならぬので、ブロックの議案作成、予算について指導を受ける前に基本方針(案)、名古屋会議メインフォーラム事業計画を立案し始めました。この時期は、当然のことながら委員会の副委員長、幹事、委員会メンバーも配属されていない時期でしたので何をす

るのにもとても苦勞しました。

愛知ブロック協議会とLOMの議案、予算の作成方法に大きな違いがありました。議案本体はもちろんのことですが、予算書の作成など非常に細かく財政審査特別会議で厳しく指摘され修正を何度も繰り返したことを覚えています。そして何よりも苦勞したのが議案上程でした。正副会長監査担当役員会議が午前中に開催され、午後から役員会議の開催。正副でいただいた意見を、午後からの役員会議前までに修正、確認をしていただき役員会に臨むと言うタイムスケジュール。議案修正の時間が非常に短く、すべて満足いく修正がなかなか行えなかったことなどもありました。役員会では様々なことがありましたが、いつも正副から同行して修正の手助けをしていただきました総括幹事の加藤貴恭君には言葉では伝えられないほど協力、助けていただき感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

愛知ブロック協議会の委員会で学びを得たことがいくつかあります。ブロックでの委員会は、当然のことながらスタッフ、委員会メンバーの皆さんは、県内青年会議所から出向してきます。LOMでの委員会であれば、顔を知っていれば性格も何となく分かる。ブロックでは、顔も性格も分からない、見ず知らずの人が集います。委員会運営をどのように上手く回すのか、エリア、経歴を考えながら3つの小委員会のどこに配属しようかと加藤総括幹事と試行錯誤しました。委員会で、素晴らしい事業計画を立案しても運動として遂行していくことができなければ意味がありません。今回のブロックへの出向で気がつかされたこと。それは、「運動」と「運営」の両輪が上手く回るができなければ地域へ私たちの運動を伝え、地域の一人ひとりが意識変革し行動に移してもらうことはできないと感じました。これから、LOMで理事を担う方々頭の片隅に「運動」と「運営」の大切さに記憶していただけたらと思います。

最後になりますが、愛知ブロック協議会の委員長として出向させていただき大変なことも多くありましたが、県内青年会議所の多くの方々と知り合うことができ素晴らしい財産を与えていただくことができました。出向を支えていただきました野田理事長をはじめとする全てのLOMメンバー皆様のお陰と感謝申し上げます。

私と共に出向していただき予定者のから県内を走り回っていただいた、委員大野陽平君、委員加古川和也君、委員倉田健嗣君、委員坂井田純子君、委員野田敏弘君、委員山岡大介君と、いつも、どこに行くにも一緒でした総括幹事加藤貴恭君の7名の方に心から感謝申し上げます。

本当に1年4ヶ月お疲れ様でした。

すべての「つながり」に感謝。

ありがとうございました。

## 愛知ブロック協議会



「つながり」のある愛知創造委員会

総括幹事 加藤貴恭

野田一郎理事長をはじめとする公益社団法人一宮青年会議所メンバーの皆様には公益社団法人日本青年会議所 東海地区 愛知ブロック協議会に出向をさせていただいたことに感謝申し上げます。

2014年8月下旬に野田周平委員長より総括幹事としてお声を掛けていただいた時には、一旦返答を保留にさせていただきましたが、その夜に野田委員長と二人で今後の打合せを行い、その際に出向をさせていただく返答をさせていただきました。そこから2015年11月の会員会議所まで休むことなく活動をさせていただきました。誠にありがとうございます。

2月名古屋会議メインフォーム、8月青少年事業、9月ブロック大会メインフォームと過去の愛知ブロック協議会でも類をみない事業数となり、毎月の正副監査担当役員会議、役員会議、2ヶ月に1回開催される会員会議所すべてに議案を上程、その間に各地会員会議所、エリア会議へ伺い事業PRを行い、全体委員会を行い、また今日もJCだと・・・特に2014年内は本当に濃厚な時間でした。

開催される会議では散々なことを言われ、青年会議所の理不尽、不条理を感じさせられましたが、ここまで活動できたのは、野田委員長が踏張って本当に耐えておられるその姿を間近で見させていただいたからこそと確信をしております。

出向して感じて、良かったことは、ブロック協議会という組織が本当に必要なのか？各種会議を行う必要があるのか？入会して今まで何の疑問も持たなかったことに疑問を感じたこと、他LOMを見た時に一宮青年会議所はまだ真実な組織であり少し安心したことです。

最後に1年4ヶ月本当に野田委員長にはお世話になりました。あの状況で体を壊さなかったことが何よりです。いろいろと考えさせられた出向ではありましたが、野田委員長と出向をさせていただいたことが一番の宝です。

本当にありがとうございました。

## 愛知ブロック協議会



「つながり」のある愛知創造委員会

委員 加古川和也

私は本年度、愛知ブロック協議会「つながり」のある愛知創造委員会へ出向させていただきました。野田理事長をはじめとする LOM メンバーの皆様、出向する機会を与えて頂き本当にありがとうございました。心より厚く御礼申し上げます。また、出向へ快く送り出して下さいました土川副理事長、加藤委員長をはじめとする地域活性化推進委員会メンバーの皆様本当にありがとうございました。また、名古屋会議からブロック大会当日まで全力で支援をして下さいました小寺委員長をはじめとする渉外委員会の皆様、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。そして、出向のお声掛けを下さいました野田委員長、出向の機会を与えて頂き本当に感謝しております。一年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

私は青少年育成事業担当の小委員会へ委員として配属され、「ひと」と「ひと」との「つながり」により青少年に道徳心を醸成することを目指し活動をして参りました。事業では「つなげよう！ありがとうのきもち～TOUCH IN THE DARK～」と題した青少年育成事業を行い、事業プログラムでは一般社団法人日本ダイバーシティ推進協会会長久保博揮氏の講演を行い、その後目隠しをした状態で周りの人たちとともに協同作業による積み木体験や買い物体験をしていただきました。子どもたちには相手の立場に自分を置き換え、自ら相手を思いやる気持ちや、「ひと」と「ひと」が支えあうことで生まれる「つながり」を体験したことで子どもたちの道徳心を醸成することが出来ました。LOM で青少年委員会を担った経験も活かし、議案の段階から事業当日のファシリテーター担当まで、子どもたちと共に体験をすることで私自身も気づき学び、そしてLOMを超えた青年会議所メンバーの「つながり」に支えられながら事業を終えることが出来ました。

出向を通じ本当に多くの経験、気づき、学び、そしてその時間を共に過ごした仲間というかけがえのない友情の絆を得る事が出来ました。繰り返しになりますが、この様な良い経験をいただきました事と、出向を最後まで見守り支援下さいましたLOMメンバー皆様に心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



## 愛知ブロック協議会

「つながり」のある愛知創造委員会

委員 坂井田純子

本年度、愛知ブロック協議会「つながり」のある愛知創造委員会に出向させていただきました。まずは、出向の機会を与えてくださった野田一郎理事長をはじめとする LOM メンバーの皆様にご心より感謝申し上げます。特に、経営資質向上委員会 委員長 石黒秀幸委員長におかれましては、出向先での事業に参加していただくだけでなく、委員会メンバーへ強く参加の呼びかけをしていただきましたこと、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

「つながり」のある愛知創造委員会では、野田周平委員長のもと、加藤貴恭総括幹事、5名の委員メンバーとともに、名古屋会議メインフォーラムに始まり、青少年事業、ブロック大会メインフォーラムと、自ら相手を思いやり、行動することによって生じる人と人との関係性である「つながり」の構築を目指して、様々な事業に取り組ませていただきました。LOM では経営資質の向上を目的とした事業系以外に、青少年事業等の委員会に配属されたことがない私にとって、本年度の出向先での経験は本当に新鮮なものでした。私は、名古屋会議メインフォーラムを担当する小委員会に配属されたのですが、出向が決定した予定者期間には、他 LOM の出向メンバーが出揃っておらず、大変苦勞したことを今でも鮮明に覚えています。さらには、司会を仰せつかり今まで経験したことのないプレッシャーや、愛知ブロック協議会と、LOM の議案の違いでの戸惑いなど、色々苦勞もありました。ですが、入会以来、初めての出向活動だからこそその楽しさに触れることができたことが、少なからず成長につなげることができたのではと思います。このような経験、反省も、次年度以降の活動に生かすことができればと考えております。ありがとうございました。

## 愛知ブロック協議会

「つながり」のある愛知創造委員会

委員 山岡大介



本年度、愛知ブロック協議会「つながり」のある愛知創造委員会に出向させていただきました。まずは、出向の機会を与えてくださった野田一郎理事長をはじめとする LOM メンバーの皆様に感謝申し上げます。特に、総務・広報委員会、森大介委員長には、幹事が不在となり、加えて諸事情によりご負担の大きい中、両副委員長がそれぞれ東海地区協議会、愛知ブロック協議会に出向することを快くご了解いただいたこと、深く感謝しております。

さて、「つながり」のある愛知創造委員会では、野田周平委員長のもと、名古屋会議メインフォーラムに始まり、夏の青少年事業、ブロック大会メインフォーラムと、自ら相手を思いやり、行動することによって生じる人と人との関係性である「つながり」の構築を目指して、様々な事業に取り組まさせていただきました。LOM では事業系の委員会に配属されたことがない私にとって、本年度の出向先での経験はいずれも新鮮なものでした。私は、ブロック大会メインフォーラムを担当する小委員会に配属されたのですが、メインフォーラムの設営に限らず、事業の PR のために県内の各 LOM を回ったり、駅でチラシを配ったり、炎天下、のぼりを持って駐車場を案内したりといったことにも参加させていただきました。これまで触れることがなかった、事業系の委員会の苦勞、楽しさというもの的一端に触れることができたように感じています。ただ、心残りなのは、ブロック大会メインフォーラムでは、会場を県内 33LOM のメンバーで満員にし、愛知ブロック協議会メンバーの「つながり」を示して、メインフォーラムを「つながり」のある愛知創造委員会の活動の集大成の場にすることを目指していたのですが、それを十分に果たせなかったことです。自分にはまだまだできることがあったのではないかと、自らの至らなさを痛感する結果となりました。このような経験、反省も、次年度以降の活動に生かすことができればと考えております。ありがとうございました。

## 愛知ブロック協議会



ブロックアカデミー委員会

委員 伊藤匠

私は本年度、ブロックアカデミー委員会に出向させて頂きました。

ブロックアカデミー委員会は、入会 3 年未満の愛知県中の青年会議所会員が集まり、青年会議所のイロハを学ぶところであり、とても楽しいところであると聞いておりました。実際に出向してみて感じたことは、楽しいだけのところではないように思います。

私が配属された所では、約 4 万本の 500ml ペットボトルを使い、島をつくり乗るという内容の事業を行いました。この事業で最初に苦労したところは、ペットボトルの収集です。机上では収集可能であると判断しましたが、いざ実行に移した際はなかなか集まらず、事業を実行するぎりぎりまで目標本数に到達しませんでした。

目標本数に足りないまま、次に苦労したことは回収したものの分別と洗浄です。色々な方からご協力いただき大量のペットボトルが集まりましたが、中には使えないものもあり、分別処分する必要がありました。処分するものを一時保管する際には、作業に使わせていただく場所にごみの山を築き、相当な迷惑をかけました。

目標本数に到達し、ごみの処分も済み、事業を実行する日を迎えたところで、会場に向かうための道路が事故で渋滞し、メンバーが到着しないまま開会の時刻になりました。4 万本のペットボトルがあっても、人がいなければ組み立てることは出来ません。事業が成り立たなくなることを皆が想定しましたが、結果的に島は完成し、海に浮かべることができました。

何かを達成するには様々な苦労や壁を乗り越えなければならず、全ての障害をクリアしなくてはなりません。本年度出向して本当に楽しいと感じたのは島が海に浮かんだ一瞬であり、それ以外の時期は苦しいことが多かったように感じます。また、青年会議所の活動をすることや、何かを達成することは、多くの人に助けていただき、初めてできることだと、出向して改めて気づかされました。

本年度出向して学んだことは、一人でできることは限られており、いろいろな人に助けられていると気が付いたことです。この気づきを忘れないように今後も活動して参りたいと思います。



## 愛知ブロック協議会

ブロックアカデミー委員会

委員 大森一輝

2014年に入会し翌年初めての出向でブロックアカデミー委員会にいかせてもらいました。

私は山崎塾に配属されて3チームあるひとつの名張チームのチームリーダーをやらせてもらいました。県内33LOMから色々な人との出会いに最初はとても戸惑いが大きかったです。開校式、名古屋会議あたりまではあまり塾内でも関わりが薄く、本当に楽しめるのかな、と思いながら活動しておりました。全体委員会、塾会議、塾でのスタッフ会議、チーム会議、ブロックアカデミー委員会スタッフ会議のオブザーブ、と最初は本当にただ時間がとられ、お金がかかりと下向きだったことを覚えております。そんな中、私が一番最初に取り組んだことは自分のチームの結束、チーム運営に力を入れました。ここで活かされたことは、昨年、今年のLOMの活動です。チーム会議を委員会に置き換えて、メンバーのエリアを回り、正装、バッチ、ペーパーレスで会議を行うやり方を貫きました。正装の意味、ペーパーレスの意味、時間配分、議事録は一宮のやり方で行いました。そして一番はその会議が参加してくれるメンバーにとって有意義な時間になったかを大切に考え行いました。結束は高まり参加率も塾内でも高く楽しみが増えた気がしました。

山崎塾は山崎博征塾長の3信条がありました。

「思いやり」という「奉仕」の心を持ち、「誰かのために一生懸命行動する」という「修練」を行うことで、生涯の「友情」を育む活動を行う  
この塾方針を重んじて各事業を作り上げていきました。

自分の携わった事業は合計で3事業、まずチームリーダー3人で担当だった第5回塾会議はサバイバルゲームを手法として用いて5月開催として、友情を育むという目的で行いました。議案に苦勞し常滑JCの福田祥久君、岡崎JCの福田晃三君と夜な夜な議案作成に追われましたが当日は目的も達成できました。

次は、第7回塾会議でした。名張チーム担当として内海にて「山崎フェス2015」を開催しました。この塾会議では、私たち塾生は地域、人、様々な場面で必要とされるリーダーになる必要がある、という背景をもとに、そのために競い合い、励まし合い、生き生きと活動することで思いやりある人財になることを目的としました。アイスブレイク、競い合った飯盒炊飯、励まし合った地引網、BBQに塾会議を終えて振り返る時間も作り大成功で終わりました。

そして第7回全体委員会。この事業は8月29日開催でしたが、今までの塾の集大成とってもいいほど、壮大な計画のもと行われました。「つながり」この言葉と意味を何回考えたでしょ

うか。ペットボトルで巨大な島を作り海に浮かべブロックアカデミー委員会全員で乗る事業でした。

全体委員会実行委員会を特別に作り、私は副委員長として携わらせていただきました。

ペットボトル約 40000 本。最初はそんなに大きな感覚がありませんでした。

しかし、作成をしていくにつれ、無理だ。先が見えない。ペットボトルが集まらない。とても超えれそうにない壁がいくつも立ちふさがりました。ここで総括であった豊田 JC の大嶋信哉君がいつも塾全員に対し言葉を掛け、何よりも自分が全ての場に率先し出向き、前向きな姿勢を見せてくれました。これほど JC で身近にカッコイイと思える人間は久しぶりでした。事業は成功し終わりましたがとても感慨深い全体委員会でした。

私がブロックアカデミーで学んだこと、気付いたこと、は青年会議所の必要性、議案の作成、会議のあり方はもちろんですが、人間感を学びました。

時にはチームメンバーから嫌われることも少なくはなかったです。ただ組織、どうしてもある縦組織として、長に合わせるのではなく、長が合わせる。このことの難しさ、そして何かを行うにあたって人の大切さや力強さを痛感しました。

LOM で幹事をやらせていただきましたが、いつも大宮委員長、尾関副委員長は快くブロック優先で頑張ってくれ、と言ってくれたことは本当に感謝しております。

全体委員会の時は一宮青年会議所の野田理事長、正副、理事と沢山の執行部の方やメンバーの方々に協力をいただき LOM のつながりも感じることができました。ありがとうございました。

私は 6 塾ある塾の山崎塾に配属になったことは必然だったと思います。

いつも多くは語らずヒントはくれるけど答えは自分たちで考えさせてくれる山崎塾長。

自分を本当に可愛がってくれて、時には他より厳しく、時には他より優しく、自分の身近な存在でいてくれた斉藤塾幹事。

俺たちのリーダーはこいつしか居ない。自分を出してもいいのにどんな時も他のメンバーを気にして自分も何回も助けられた鈴木英宏塾リーダー。

塾リーをいつもサポートし時には No. 2 として苦言も。男というものの良さを教えてくれて堅実、誠実な大嶋信哉塾リーダー補佐。

山崎塾といえばこの人。みんなのいじめられ役でいつでも周りに人が集まる楽しい人。でもその裏には努力と真面目な素顔がしっかりある隠れ家チーム福田晃三リーダー。

最初に仲良くなった人。少し 2 次元で生き生きしちゃうけど、頑固で、努力家で、いつも自分のそばに味方のように話を聞いてくれて何回も酒を交わし人間同士の関係の育み方を教えてくれたセントレアチーム福田祥久リーダー。

他にも多くの仲間と出会いふれあい共に時間を共有してきました。もう二度と塾生にはなれないけど、いつかこの山崎塾で日本国を揺るがすような事業をしたいと思います。

次年度はこの貴重な経験と成長した自分を LOM で活かしていきたいと思います。

ブロックアカデミーに出向させていただき、そしてその過程で協力してくれたすべての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 愛知ブロック協議会

ブロックアカデミー委員会

委員 白木文章



初めに愛知ブロック協議会ブロックアカデミー委員会に出向させて頂き誠にありがとうございました。このような機会を与えて頂きました野田理事長、真野財務局長をはじめ、LOM の皆様には大変感謝しております。

昨年の秋、真野財務局長から出向のお話をいただいた際は、とても私には荷が重いと感じ一度は御断りをさせてもらいましたが、「一生の友達との出会いがある」との真野財務局長の言葉に押され、出向を決意させていただきました。

ブロックアカデミー委員会では、多くの仲間と交流を持ち色々な学びや絆を作るのを目標に参加しようと決意しました。しかし現実には仕事や妻の入院等もあり、なかなか出席できず、多くの仲間たちと交流する機会がありませんでした、それでも上尾塾長をはじめとする塾メンバーは、たまにしか参加できない私を温かく迎え優しく支えて下さいました。本当にありがとうございました。

出向した1年間を振り返ると開校式・交流会からはじまり8回の全体委員会や各塾の塾会議など数多くの事業が行われました。そのなかでも第7回全体委員会のペットボトルで作成した船は、多くの仲間たちの熱い思いが一つになって達成した事業だと思います。その事業に微力ながら係ることができ感謝しております。

最後に真野財務局長の「一生の友達との出会いがある」との言葉通り、ブロックアカデミーを通して一生の友達が出来たことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 愛知ブロック協議会

ブロックアカデミー委員会

委員 野杵洋平



愛知ブロック協議会アカデミー委員会の出向に際し、野田一郎理事長・浅田担当副理事長・所属委員会の経営資質向上委員会の石黒委員長をはじめといたします公益社団法人 一宮青年会議所に所属されています Lom メンバーの皆様へ深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

思い返せば、昨年の 11 月頃にブロックアカデミーへの出向のお話をいただき、高齢で入会をした自分自身にとって、ブロックアカデミーへの出向はあまり魅力的ではありませんでした。当時は所属先の経営資質向上委員会幹事の職務にやりがいを感じ、委員会のスタッフとしての活動・社業・家庭での時間と本当に時間のやりくりが難しく、その上にまた社業や家族との時間を削ってまで愛知県中の若いメンバーと共に活動する意義を見出せませんでした。最終的に、入会時のアカデミー委員長であり本年度の久保専務より出向は義務に近いものだよと諭され出向する決断をしました。

こんなやる気のない出向者の為、メルパルク名古屋で行われた開校式に出席する際も、絶対に役職は受けないと固く決意し、顔合わせに挑みました。私の配属は岩田塾。やたら背の高いほどほどにイケメンのかなり馴れ馴れしい岩田修昌塾長に初対面から塾リーダーに立候補するように言われ、誰もいなかったら考えると即答しました。残念ながら、まさかのリーダーに 2 名も立候補するという展開になり、ほかのスタッフメンバーも順当に決まり、残されたチーム会計の職も同 Lom の光樂君に受けていただき無事に無役の委員に。その後の、アカデミーの懇親会時にまさかのアカデミー委員会の山本直人委員長が高校の後輩ということも知り(明らかに私より貫禄があり、当初は兄と僕を勘違いしていると思った。)また、岩田塾長の出身が一宮の大志で今でも住んでいることなど縁があるなと感じて少しは参加するかという気持ちになったのは事実です。

やはり、エリアで分かれていたチーム会議ではチームの仲間として、お互いの絆が深まっていき、本当にいい仲間と出会うことができました。

この出向を通じてですが、青年会議所活動は一人のスーパースターの力ではなく、お互いが協力し合い高めあうことで普段では実現することが出来ないことも可能にすることが出来ることを改めて学ぶことができました。これは、自分にとって素晴らしく貴重な体験だったと思います。この経験を一宮青年会議所の為に生かしていくことこそが、本当の恩返しだと考えています。本当に貴重な体験・経験をさせていただきましてありがとうございました。

## 愛知ブロック協議会

ブロックアカデミー委員会

委員 光樂朋尚



本年度、愛知ブロック協議会ブロックアカデミー委員会に出向させていただきまして、誠にありがとうございました。出向の機会を与えていただきました野田一郎理事長をはじめ LOM メンバーの皆様には大変感謝しております。ありがとうございました。また、スタッフという立場でありながら、出向を快く認めていただき、背中を押していただきました大宮和広委員長には心から感謝申し上げます。そして、スタッフ会議・委員会があるのにも関わらず、ブロック優先だからとブロックの事業に送り出していただき、青少年共有委員会には、多大なるご迷惑をおかけいたしましたことに深くお詫び申し上げます。

さて、私は、ブロックアカデミー委員会の岩田塾に配属され、チームの運営・会計の役をいただきました。塾長が一宮出身で一宮の LOM メンバーの中にも同級生がいるということで大きな期待をしていただきましたが、なかなかその期待に添えることができずに誠に申し訳なく思っております。すべての事業（全体委員会・塾会議）に参加するべきでしたが、仕事柄すべてに行くことができなかったことを後悔しております。スケジュールリングをしっかりと、一步を踏み出す勇気をもう少し出して、もう少しの背伸びをしていればと、今となっては思っております。後輩たちには、少しの無理をしてでも行っていただきたいと思っております。

岩田塾の中では、かけがえのない仲間との出遇い、多くの学びがありました。入会 3 年目未満の各青年会議所メンバーが集まり、同じ方向を向いて切磋琢磨し、一つのを創り上げていくという環境で、時には喧嘩をし、時には励まし合い、時には喜び合い、一生の友を得ることができたことがアカデミー委員会に出向して一番良かった事と思っております。

所属チーム設営の塾会議では、最初の企画段階からあれでもない、これでもないと試行錯誤をしながら、どれが良いのか、どうやったらみんな参加してもらえるのかということを考えながら一から設営したことは、今後の LOM での事業に活かせるのではないかと思っております。ブロアカでしか体験・経験できないことをさせていただきまして感謝しております。

最後になりますが、2 月の開校式から 9 月の閉校式まで、支援していただきましたメンバーの皆様のおかげをもちまして、無事最後まで出向することができました。ありがとうございました。

## 愛知ブロック協議会

ブロックアカデミー委員会

委員 栞野広太



ブロックアカデミーに僕が出向した理由は、同じ委員会に所属している、同期の方々が出向される事を聞きそれにくっついて出向を決めました。

その後、自分が配属される塾が決定しました。一宮青年会議所から出向され、同じ塾になった、大森一輝さん、伊藤 匠さん。この時点では、まったくと言っていいほどに面識がありませんでした、特に伊藤さんにおいては、入会予定者の時に行った卒業例会の打合せで、僕があまりよろしくない発言を行い、睨まれた覚えしかありませんでした。

「出向するんじゃないかった」としか考えられませんでした。

塾内での役割を決める際、大森さんと伊藤さんが、隣でボソボソと話をしているのが聞こえました。内容は大森さんが塾リーダーに立候補するから、伊藤さんは塾のサブリーダーに立候補してね。といった内容でした。どちらから言われたかは、覚えていませんが、そうなった場合は、栞野さん、チームリーダーに立候補してね、といったことを言われたような記憶があります。「しまった、配属される場所を間違えた」僕には、そんな役は無理だと思っていました。

結果としては、大森さんが、チームリーダー。伊藤さんは、サブリーダー。なぜか僕はチームの運営をやる事になりました。今考えても、何故あの時、運営に立候補したのかが、思い出せません。二人からの無言の圧力により、手を挙げたと思います。本当に怖い人達です。どんな経緯だとしても、決まった事はやらなければなりません。

毎回のチーム会議の際に、会場を探し、懇親会の店を探し、同じ塾の人たちにどれほど助けられたかわかりません。自分達のチーム、チーム「名張」での事業を行う際は、事業に合った場所を探し、駄目出しをされ、夜遅くまで、チームメンバーと電卓を叩き、どうしようどうしようとチームメンバーと話し、現地にみんなで下見をしに行き、当日ギリギリまで、バタバタしたのを覚えています。当日もバタバタしましたが。

今思うと、出向の思い出というのは、常にバタバタしていた気がします。面識の無いメンバーと共に一つの目標に向かっていく、会議では、最初の内は遠慮がちだった発言が、段々と熱を帯び、喧嘩になるんじゃないかと思うほどに白熱していく。社会人となって、損得抜きであそこまで真面目に話し合いを行ったのは初めてだったかもしれません。とても大変でしたが、掛け替えの無い仲間と、多くの思い出を僕に与えてくれた経験です。



## 2015 年度 卒業生

JC 活動を振り返って

大宮和広

まずは4年間という短い時間でしたが、無事卒業させていただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。今までJC活動を通じて出会えました全ての皆様に感謝申し上げます。

ついに自分がこのような文章を書く日が来たかと感慨深くパソコンに向かっていきます。私は 2012 年に入会させていただき今日まで4年間、一宮 JC にお世話になりました。その間本当に多くの方々と知り合い、他では得ることができない貴重な経験をさせていただきました。ときには泣いたりおもいきりわらったり、ばかばかしいと思えることを力いっぱいやってみたりと出す時がありませんがどれもこれも今となっては楽しい思い出となっています。

私が入会した当初、先輩方は本当に魅力ある方々が多く緊張してまともに話すことができなかったことを覚えています。年だけは毎年とっていき気がつけば卒業生。そこに近づけたかどうか、些か不安は残りますが自分では精一杯やってきたので悔いはありません。

JC は 40 歳で定年を迎えますが、同じ苦楽を共にした仲間とのつながりは一生ものであります。この繋がりをどれだけ増やせるかも JC の魅力の 1 つではないかと思えます。私にも生涯付き合っていきたい繋がってほしいと思える多くの仲間ができました。これは私の誇りであり宝であります。私はその思いを胸に一足先に卒業させていただきますが、どうか皆さんもこの貴重な場でより多くの宝を見つけていただきたいと思えます。最後になりますが、しんどい事から逃げず、常に前向きにそして直向きに取り組む姿取り組む皆の姿はきっと周囲の人々を巻き込むでしょう。そしてそんな団体に所属していたことを誇りに、みんなとの思い出を胸に、そして支えてくれた全ての方々に感謝し、現役会員の皆様の今後のご活躍をご祈念申し上げ、卒業のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## 2015 年度 卒業生

JC 活動を振り返って



尾関利規

まずは、入会してからいろいろありましたが、無事卒業させていただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

一回目の入会は、2007 年上期でした。思うとこの時の仲間との出会いがなかったら、今の自分はなかったかもしれません。

2008 年は、人間力経営開発委員会のセクレタリー、そして、ブロックアカデミーへの出向で、JCのしくみ、つらさ、楽しさを学びました。

そして 2009 年は、本当に大変であり、そして迷惑をかけた年でした。佐々理事長の下、事務局長を受け、何も分からないまま飛び回っていたさなかの、訳あつての途中退会。本当に理事長をはじめ理事会構成メンバーそして、事務局次長の野杵君には、大変迷惑をかけてしまいました。今でも申し訳ない気持ちでいっぱいです。

それから 3 年ほどJCとは無関係の平穏な日々を過ごしていたのですが、2013 年二回目のJC入会。再入会あたって多少不安もあったのですが、たくさんの仲間が優しく向か入れてくれ、すんなりと復帰することができました。

2014 年は、経営資質向上委員会の委員として、森一彦委員長の隠している能力の高さに驚かされながら、一年を過ごしました。

そして本年度 2015 年青少年共育委員会の副委員長を同じ最終年度である大宮和広委員長の下やらせてもらいました。ずっと、やってみたいと思っていた青少年の事業でしたので、キャンプの事業は本当に大変でしたが、スタッフとして活動できてとてもよかったです。あの暑い夏は決して忘れることはないでしょう。

わたしは、JCを途中退会しなければならなくなった時、JC活動ができない悔しさを感じ、2013 年再入会した時、JC活動ができるありがたみを感じ、そして前とは違う立場でメンバーの活動をみた時、みんなをうらやましくも思いました。

JC活動の中には理不尽なことも多く、つらく、お金もたくさん使い、時間を取られ、不平不満を言いたくなることもたくさんあります。しかし、みなさんはJC活動ができる選ばれた人たちです。それぞれ自分の立場でできることを、幸せと感じながらこれからの活動をしていってください。

最後に、この言葉をみなさんに送ります。

人間はふつう楽しいから笑う生き物です。しかしながらJCは楽しいことが数少なく、つらいことが大半です。よってJCではこのように考えるべきだと思います。

「楽しいから笑うのではなく、笑うから楽しくなる」

つらい時でも仲間と肩をたたき合い、がんばれよと笑うから楽しくなるのです。

是非ともこの言葉の意味を、これからの活動において実践の中で自分の言葉に変えていってください。

6年間、本当にありがとうございました。

## 2015 年度 卒業生



### JC 活動を振り返って

加藤武志

僕の JC 活動は、わずか 4 年という短い間でしたが、とても充実した、また学び多い時間を過ごすことができたことを、卒業する今、とても嬉しく思うと同時に、支えてくださったメンバー、先輩方に本当に心より感謝しております。

入会当初、礼儀に非常に厳しいだけでなく、自分の時間を削って、真剣に活動しているこの青年会議所の目標をなかなか理解することができず、どうしてこの団体に所属してしまったんだろう…と、少し後悔する日々がありました。4 年間もの長い時間を、僕は我慢することができるのか？と、とても不安な気持ちでスタートしたことを、今でも昨日のこのように覚えています。

そんな後ろ向きな気持ちで始まった入会 1 年目は、当然になかなか馴染むこともできず、前向きに参加することができませんでした。2 年目に入るときに、ある先輩からブロックアカデミーへの出向のお誘いいただきました。その先輩は自分がブロックアカデミーの委員長やるので、絶対楽しいものにする！もちろん厳しいところもあるけれども後悔させないから、騙されたと思って参加してみろ。とってくださいました。その先輩の言葉に嘘はなく、とても充実した楽しい時間を過ごすことができました。またその時の同期の仲間が全力で取り組む姿に心打たれ、僕の中でも熱いものがこみあげてきたことも、僕の気持ちが変わってきたきっかけのひとつでした。その後は、翌年の出向にも積極的に参加することができ、あっという間に最終年度が見え始めてきたとき、どうしても最後に委員長を経験してみたい！と思うようになってきました。

最後にいただいた役割は、社会開発系の委員長ということで、非常にやりがいにはありましたがその分責任の大きな大切な委員会で、重圧に潰れそうでした。1 年 4 か月間は、とても忙しい時間でしたが、その分、僕の人生で経験したことがないとても充実した時間を過ごすことができ、今となっては本当に委員長を経験させていただけてよかったと、心から感謝しております。またこの時、一緒に過ごしたスタッフ、委員のみなさんとは、本当に長い時間を共に過ごすことができ、学生の時にも経験できなかったほどの楽しく素晴らしい仲間と過ごせたこと、とても嬉しく思っています。

入会当初、あれだけやる気の無かった僕でしたが、長いと思われた 4 年間の JC ライフはあっという間に終りを迎えることとなりました。今後の僕の人生に大きなプラスとなった事は言うまでもありませんし、もっとメンバーと一緒にやりたいという気持ちでいっぱいですが、残念ながら、卒業となってしまいました。これからは、皆さんとは離れてしまうことがとても淋しく思います。残られる皆さんは、これからも「明るい豊

かな地域(まちづくり)のために前向きに笑顔で、そして楽しみながら全力で頑張ってください。

4年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

# 2015 年度 卒業生

JC 活動を振り返って



野々垣 総一郎

2004年に入会し12年間の在籍中、諸先輩よりご指導頂き、過日、卒業の日を迎えることができました。思い起こせば私生活や社業での苦難をのりこえる時に原動力となる数々の力、友情を先輩、同期、後輩の皆様から頂いたとつくづく感じます。皆様全員が温かく接して頂き、心より感謝致します。

さて私が青年会議所活動で心に残っているのは、とてもたくさんありますが、あえて特にあげると3つの点となります。

まずは入会4年目に二ノ宮理事長のもと、前田担当副理事長にお声がけしていただき、渉外委員長を拝命頂いたことです。

まだケツの青い私を優しくコントロールしていただいた、前田先輩には感謝の言葉しか見つかりません。その時は気づきませんでしたが今思い出せば、至らぬ点しかなく申し訳なさしか残っておりません。全国大会の設営ができなかった事が最大の失敗です。可能であればあのやり直しがしたいと思っております。

二つ目の思い出は、2013年の木村憲彦理事長のもと、副理事長を仰せつかったことです。私が言うのもなんですが、とてもまとまりのある正副理事だったのでは無いかと感じます。木村理事長のメンバー全体に対する思いやりを感じる一年でした。

そして私の担当した室の委員長、浅田佳寿優君と一緒に過ごせた一年を忘れません。アスパック、韓国グワンジュの現調、大会、100%例会を達成してくれた24時間ソフトボール大会、そしてクリスマス家族会。浅田君を委員長に指名できて本当に良かったです。弱音を他人に見せない姿、全うする姿勢、本当に勉強になりました。ありがとう。

そして、願わくばもう一度、二人で旅をしたいですね。

そして三つ目、公益社団法人日本青年会議所への5回の出向です。

吉山先輩に背中を押され、佐々先輩にお守りをしていただいた2008年の JCI 関係委員会会計幹事の出向から始まり、2015年卒業年度に行かせていただいた日中関係構築委員会まで5回も勉強する機会をいただいた時の理事長を始めとするメンバーの皆様、本当にありがとうございました。

さらにその中でも2011年の OMOIYARI ネットワーク確立委員会で副委員長を担当し、2月に-30度極寒のモンゴルでの OMOIYARI セミナーを皮切りに世界各地で JCOMOIYARI セミナー活動を行ったことが、印象深いです。一年間息切れしなかったのは奇跡に近いです。108日間は国外にいました。日本語、英語、フランス語、スペイン語の4ヶ国語で行った各地のセミナーは本当に大変でした。

日本 JC 活動で行った国、地域は、セントルイス、ニューヨーク、モルディブ、モンゴル、韓国、シンガポール、スリランカ、バルセロナ、イビザ、マリ共和国、マイアミ、オランダ領キュラソー、シカゴ、デトロイト、フランス、イタリア、ドイツ、フィリピン、台湾、デンマーク、ベルギー、中国、インド、ドバイ、タンザニア、ケニアなどなど、思い起こせば世界中回らせてもらったと思います。そのおかげで世界観を養うことができました。

ぜひ後輩の皆さんには、日本 JC 国際グループへ出向していただきたいと思います。

最後になりますが、12年間支えていただいた皆様に感謝するとともに、一宮青年会議所の卒業を通過点とし、更に成長して皆さん、そして社会に還元できる様、努力してまいります。まだまだチャレンジします。老け込みませんよ！野々垣は！

ありがとうございました。

## 2015 年度 卒業生

JC 活動を振り返って



松田樹直

はじめに、2015 年度野田一郎理事長をはじめとしますメンバーの皆様、私が無事卒業の日を迎えることが出来たのは、紛れもなく皆様のご支援があつてこそです。心から感謝致します。また、卒業例会の折には、温かいお言葉、また山のようなプレゼントに囲まれ、本当に楽しい一日を過ごさせて頂きました。本当にありがとうございます。「松田さんがあの時電話をくれなかったら、声をかけてくれなかったら、僕はここにはいませんでした。」そんなセリフを何名かに頂いたのが、とても印象に残っています。

2004 年度下期入会の私は、同じような立場、同世代が集まる、言わばサロンの意味合いに捉えていました。オリエンテーションに間に合うようにと、忙しく仕事を片付け、同期やアカデミー委員会の方たちに会うと、すこしホッとした感覚を覚えました。その頃はまだメンバーの一員という自覚はなく、ゲストのような感覚で顔を出していたのかもしれませんが。しかし、いつしか入会当初からお世話になった先輩方も卒業され、同期メンバーも卒業していき、古参メンバーの扱いを受けるようになったのは当然といえば当然ですが、11 年という月日は長いと実感せざるを得ません。

振り返ると、あつと言う間でしたが、当時を思い返すと必ずや楽しいことばかりではありませんでした。むしろ辛い、逃げ出したくなる思いの方が多かった気がします。特に委員長をやっていた頃は、楽しかったのは最初だけ。本年度が始まった頃には、目が回るような忙しさに追われ、未熟な私は何もコントロール出来ずにいつしか委員会を取り仕切る委員長としてはかなりみっともない状況に陥っていました。しかしこの失敗を機に、人生の転換期を迎えることが出来たと信じています。

11 年間一宮青年会議所に在籍して得た、一番の財産。それば、生まれ育ち、そして商売の拠点としている一宮市。この街に対する思いを強く持ち、社業、家庭、趣味においても、それを念頭に置いて行動するようになったと。そんな人生の指針のようなものを得たこと。それに尽きます。

JC は仲良しクラブではありません。目的を達成するためには言い争うことも必要でしょう。一宮が少しでも良くなるように、ボトムアップしていけるように。それを念頭において企画運営することが一番大切です。また、それを JC 独自のルールに従って行動することによって、大きな学びを得ることも出来ます。JC がすべきまちづくりは、ひとづくりです。人の心を動かしていく活動です。

JC の活動だけにかかわらず、日常を支えてくれている人たちのこと、決して忘れないでください。気配りを忘れないでください。そしてこの JC の活動を絶え間なく続けていって下さい。

本当にお世話になりました。長いようで短い、短いようで長い。そんな JC 生活を送れて幸せでした。

私が楽しんだ以上にみんなも楽しんでね。じゃあね。街で会っても無視しないでね。  
ではまた会おうぐわっはっはっは

## 2015 年度 卒業生



JC 活動を振り返って

安田敏宏

34 歳で入会し JC 活動を振り返ってみて長かったような短かったような、今はこれで一宮青年会議所活動が終わってしまうかと思うととても名残惜しい気持ちで一杯です。

入会をした当初は不安で何をやっている団体なのか全く理解できず事業に参加する度に早くこんな団体は退会してしまいたいというも思っていました。ですが楽しそうにしている正会員の方々をみてもう少し続けてみてもいいかと思いつつ何とか出席率を達成して正会員になった時のことを思い出します。

2 年目に渉外委員会のセクレタリーになり意味も分からず京都会議の現調だと言われ 9 月に京都までいきなり連れていかれご飯屋を転々と探索し、夜の如何わしい店を徘徊して楽しんだことがとても印象的でした。とうかい号、トーカイフォーラム、サマコン、全国大会、60 周年記念式典など何かと駆り出され出向者に対するお見送り、お出迎えとこの年はとにかく何が何だか分からず連れまわされ予定者時代とは違い時間のとられる大変な団体だと感じておりました。

3 年目に入り会員拡大交流委員会の副委員長のお声がかかり受けさせて頂きました。この年くらいになると LOM の中に気の許せる仲間もでき JC 活動が何なのか理解してきた年でもあり委員会メンバーと共に例会や各種事業大会に参加する事がとても楽しくやっとな自分の中の JC スイッチが入って続けていて良かったなと思える年でした。

4 年目はまたしても会員拡大交流委員会でしたが自分としてはこの一宮青年会議所で活動できるのなら何処の委員会に配属されても構わなく仲間と JC をとことん楽しむ事しか考えていませんでした。しかしこの年の委員長は同期でもある浅田君が委員長で楽しむと同時に浅田君を助けてあげたいと思う気持ちが強かったです。ですから一緒に出向うしようと言われた時に一瞬戸惑いはしましたが快く引き受けましたし、浅田委員長の為に自分は何が出来るのか本気で考えました。同期の絆って素敵だなこの時初めて感じました。結果、僕に出来る事は何か?! 例会を助ける事は勿論、会員を拡大する事しか出来ないと思いつつどこに行っても JC 一緒にやろうよと勧誘してキャバクラにいても JC の話をして勧誘していました(笑)最終的に 4 人の拡大に成功しました。同期の浅田委員長の為に頑張ったととても満足感と達成感のある年でした。

その反動か 5 年目に配属された青少年の委員会では、前年度の達成感と仕事も全国を出張する事も多くなり JC 活動が思う様にできなくなりスリープ状態になってしまいました。その年の土川委員長には何もお手伝いできなく今でも本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

最終年度が近くなりそのまま JC を卒業していくのだろうかと思っていた頃、またしても同期の浅田君がアカデミーの委員長をやってくれないかと頼まれました。さすがに仕事も忙しかったですし委員長の大変さも分かっておりましたので、中途半端な心構えでは委員長を受けられない、いくら浅田君の頼みでもそこは二つ返事ではいとは言えずお断りをしました。しかし同期の絆とは時に恐ろしいもので困っている浅田君の姿と熱い思いを見て助けてあげなくてはと自分を奮い立たせお受けする事を決意しました。スリープしていた安田が委員長になると知って LOM メンバーはとてもビックリしていたと思います。僕自身もビックリでした。しかもアカデミー委員長でしたから最後までやり切れるかどうかとても不安でした。

そしていよいよ委員長職が始まりやるからには予定者を全員正会員へと導いてやるという意気込みで挑みました。ですが自分が想像していた以上に委員長職はキツく仕事と JC との両立がとても過酷で何度も逃げ出したくなりました。しかし委員会メンバーに恵まれ、そして助けられ共に事業を設営して頂き仲間の絆を改めて感じました。初めは辛い事ばかりでしたが次第に自分の中に余裕ができ楽しんで委員長職をやっている自分を感じた時、少し嬉しく思いました。正会員予定者との新たな出会いそして新たな絆も生まれ本当にアカデミー委員会の委員長をやらせて頂き良かったと今では感謝の連続です。委員会メンバーの皆様と LOM メンバーの皆様のご協力のもと結果としてすべての予定者の皆さんを正会員へと導く事が出来た事は非常に満足しております。只、僕は本年度卒業生でもありますのでせっかく出会えた新メンバーと共に一宮青年会議所で活動出来ない事が非常に残念に思います。今後は外から僕が出来るフォローをしながら 2015 年度入会メンバーの活躍を見守っていきたいと思います。

そしてこんな出来の悪い委員長に最後までお付き合い下さいました浅田担当副理事長、並びに委員会メンバーの皆様には心より感謝申し上げます。

そして最後に LOM メンバーの皆様、楽しい JC ライフを僕に下さいまして本当にありがとうございました。

## 2015 年度 卒業生



JC 活動を振り返って

横田公一

思いを巡らせると、やっとここまで来たのかという安堵感と、一体何を成し得たのかという閉塞感に襲われます。

2013年度の年会報で、副理事長兼専務理事として記載した一行目でした。

卒業生として、JC活動を振り返ってというお題と向き合うと、2013年度を回顧します。

おそらく、やっと卒業できたという開放感と、何を成し得たのかという虚無感がそうさせるのでしょう。

巻き戻して、入会当初から振り返ることにします。

2003年の7月1日に初顔合わせに出席した日が、仕事の開業日でした。当然ながら、青年会議所というものを理解していませんでしたし、事前に聞いていた話とは違い、予想以上にお金がかかると感じました。開業運転資金で用意していた資金は、友人からの借入金も含んでいましたが、みるみる減っていきました。ある日、予定者で何もわからない状況で、当時の監事からお前はバカかと大声で言われ、正会員になる前に辞めようと決めたのは自然な流れでした。そんな中、もう1年続けてみようと思えたのは、セクレタリーとして拾っていただいた方との出会いだったと思います。

2004年度以降のことを記載しはじめて、全て削除しました。このペースで記載していると年会報一冊分になりそうです。お世話になった先輩、衝突しあった同朋、成長を続けてくれた後輩のこと、あるいは事業や例会のことなど、全てを述べるには誌面が足りそうにありません。振り返るにはあまりに長く、得られたものは多く、成し得たことは数少ない、忸怩たる想いです。

おそらく、このまま文章を記しても、またしても何も成し得ないことになりそうですので、この辺りでやめておきます。多くの方への感謝については、お会いした時に改めて個別でお話したいと思います。

最後に、2010年代運動指針の、日の目を見ないまま忘れ去られた後段を紹介して結びとかえたいと思います。

私たちは、常に創始の志を忘れてはなりません。先人たちの苦勞とたゆまぬ努力、一宮青年会議所を創立するにあたった並々ならぬ想いは、きっと現代の私たちを厳しく律するための理念として輝き続けることでしょう。恥じるような行動は厳に慎み、自らを律することこそが、私たちが一宮青年会議所であり続けるためのアイデンティティーに他なりません。

そして、私たちに託された想いとなすべき責任は、私たちの、この地域の、そして子供たちへの未来

へと繋がるものであり、繋げていかなければなりません。そのような未来に対する奉仕の気持ちを持ち続け、行動の拠り所とすることにより、きっと私たち自身を磨く修練となることでしょう。未来への奉仕であるがゆえに、厳しい修練をも受け入れて率先して行動することができるはずです。

周りを見渡してください。人は独りではあるものの一人ではないはずで、互いに助け合える仲間がいて、友がいるはずで、修練の厳しさ、孤独を超越し、自らよりも相手のことを尊重し、理解しあえる、素晴らしい利他の精神を共有できれば、私たちの行動は、あらゆる可能性を秘めた個人の調和となりえるのです。

その上で、私たちは、自分たちの団体だけでなく、地域の人たちと生かされ生かされていることを知らなければなりません。地域の人たちと共に育つために、生きるということはどういうことか、あるいは生かされるということはどういうことか、この多様化して情報溢れる現代なればこそ、共に考え、学び、育っていかねばなりません。

そうすることで、きっと生きていることの喜びを得られます。感謝の気持ちが生まれます。そして、他者を思いやる心が育ちます。そのような、感謝と思いやりがあふれる社会を実現させることこそ、明るい豊かな社会の創造につながるのです。

そのためにも、人と人との「輪」を築き、「輪」を人の「和」とすることにより、真の意味で「ここからのわ」で紡ぎあい結束したまちを創造することを、私たちは宣言するだけでなく実践して行動していかなければなりません。

私たちの暮らすこの地域が、「こころ織りなすふるさと」となるために。





貸借対照表  
2015年 12月 31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	39,790,414	40,972,288	△ 1,181,874
未収金	576,212	182,132	394,080
立替金	400,000	0	400,000
前渡金	8,000	8,000	0
流動資産合計	40,774,626	41,162,420	△ 387,794
2. 固定資産			
(3)その他固定資産	797,393	140,188	657,205
その他固定資産合計	797,393	140,188	657,205
固定資産合計	797,393	140,188	657,205
資産合計	41,572,019	41,302,608	269,411
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	30,000	0	30,000
前受金	45,000	57,000	△ 12,000
預り金	4,260	9,570	△ 5,310
流動負債合計	79,260	66,570	12,690
負債合計	79,260	66,570	12,690
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	41,492,759	41,236,038	256,721
正味財産合計	41,492,759	41,236,038	256,721
負債及び正味財産合計	41,572,019	41,302,608	269,411

## 正味財産増減計算書(内訳書)

2015年1月5日から2015年12月31日まで

(単位:円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引控除	合計
	公1	他1			
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
受取入会金	270,000	135,000	135,000	0	540,000
受取入会金	270,000	135,000	135,000	0	540,000
受取会費	5,364,745	2,659,873	2,659,872	0	10,684,490
正会員会費	4,669,745	2,334,873	2,334,872	0	9,339,490
予定者登録料	510,000	255,000	255,000	0	1,020,000
特別会員会費	140,000	70,000	70,000	0	280,000
賛助会員会費	45,000	0	0	0	45,000
事業収益	1,300,000	0	0	0	1,300,000
登録料収益	300,000	0	0	0	300,000
協賛金収入	1,000,000	0	0	0	1,000,000
受取補助金等	522,000	0	0	0	522,000
受取地方公共団体補助金	522,000	0	0	0	522,000
雑収益	0	0	138,735	0	138,735
受取利息			5,097		5,097
雑収益	0	0	133,638	0	133,638
<b>経常収益計</b>	<b>7,456,745</b>	<b>2,794,873</b>	<b>2,933,607</b>	<b>0</b>	<b>13,185,225</b>
2. 経常費用					
事業費	7,191,251	2,106,147		0	9,297,398
会場設営費	2,491,724	320,843		0	2,812,567
講師関係費	659,217	39,660		0	698,877
印刷製本費	300,342	547,266		0	847,608
旅費交通費	427,860			0	427,860
広報費	1,713,400	124,102		0	1,837,502
記念品費	87,924	46,266		0	134,190
通信費	246	1,722		0	1,968
保険料	52,314			0	52,314
雑費	38,718	972		0	39,690
地代家賃	388,786	244,138		0	632,924
光熱水料費	0	0		0	0
給与手当	360,000	360,000		0	720,000
通信運搬費	146,109	91,749		0	237,858
消耗品費	21,460	13,476		0	34,936
印刷製本費	8,816	5,536		0	14,352
賃借料	494,335	310,417		0	804,752
管理費			3,548,897	0	3,548,897
会議費			84,700	0	84,700
地代家賃			72,676	0	72,676
光熱水料費			0	0	0
給与手当			480,000	0	480,000
旅費交通費			0	0	0
福利厚生費			16,100	0	16,100
通信運搬費			27,313	0	27,313
消耗品費			4,011	0	4,011
印刷製本費			1,648	0	1,648
減価償却費			213,386		
賃借料			92,408	0	92,408
外部法律家委託費			0	0	0
会計監査手数料			259,200	0	259,200
国内国際渉外費			97,890	0	97,890
慶弔費			178,963	0	178,963
交際費			164,985	0	164,985
負担金			1,789,130	0	1,789,130
雑費			66,487	0	66,487
<b>経常費用計</b>	<b>7,191,251</b>	<b>2,106,147</b>	<b>3,548,897</b>	<b>0</b>	<b>12,846,295</b>
評価損益等調整費(経常増減額)	265,494	688,726	△ 615,290	0	338,930
<b>評価損益等</b>			<b>△ 82,209</b>		<b>△ 82,209</b>
当期経常増減額	265,494	688,726	△ 697,499		256,721
当期一般正味財産増減額	265,494	688,726	△ 697,499		256,721
一般正味財産期首残高	0	0	41,236,038		41,236,038
一般正味財産期末残高			41,492,759		41,492,759
III 正味財産期末残高			41,492,759		41,492,759

正味財産増減計算書

2015年 1月 5日 から2015年 12月 31日 まで

(単位：円)

科 目	決算	前年度	増減額
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取入金	540,000	720,000	△ 180,000
入会金	540,000	720,000	△ 180,000
② 受取会費	9,339,490	9,184,102	155,388
正会員会費			
予定者登録料	1,020,000	1,920,648	△ 900,648
賛助会員会費	45,000	55,000	△ 10,000
特別会員会費	280,000	440,000	△ 160,000
受取会費計	10,684,490	11,599,750	△ 915,260
③ 事業収益			
登録料収益	300,000	796,690	△ 496,690
協賛金収益	1,000,000	810,000	190,000
事業収益計	1,300,000	1,606,690	△ 306,690
④ 受取補助金等			
地方公共団体補助金	522,000	586,000	△ 64,000
受取補助金等計	522,000	586,000	△ 64,000
⑤ 雑収益			
受取利息収益	5,097	6,408	△ 1,311
その他雑収益	133,638	434,002	△ 300,364
雑収益計	138,735	440,410	△ 301,675
経常収益計	13,185,225	14,952,850	△ 1,767,625
(2) 経常費用			
① 事業費			
会場設営費	2,812,567	2,543,663	268,904
講師関係費	698,877	1,441,901	△ 743,024
印刷製本費	847,608	617,745	229,863
旅費交通費	370,860	122,980	247,880
広報費	1,894,502	2,160,560	△ 266,058
記念品費	134,190	106,631	27,559
通信費	1,968	1,968	0
保険料	51,450	60,551	△ 9,101
雑費	40,554	220,698	△ 180,144
事業費計	6,852,576	7,276,697	△ 424,121
② 管理費			
会議費	84,700	95,300	△ 10,600
地代家賃	705,600	1,230,650	△ 525,050
光熱水料費	0	36,000	△ 36,000
給与手当	1,200,000	1,200,000	0
福利厚生費	16,100		16,100
通信運搬費	265,171	228,799	36,372
消耗品費	38,947	72,212	△ 33,265
印刷製本費	16,000	204,000	△ 188,000
賃借料	897,160	361,532	535,628
減価償却費	213,386	122,459	90,927
外部法律家委託費	0	0	0
会計監査手数料	259,200	491,100	△ 231,900
国内国際渉外費	97,890	96,320	1,570
慶弔費	178,963	205,572	△ 26,609
交際費	164,985	63,000	101,985
負担金	1,789,130	1,528,436	260,694
雑費	66,487	458,094	△ 391,607
管理費計	5,993,719	6,393,474	△ 399,755
経常費用計	12,846,295	13,670,171	△ 823,876
当期経常増減額	338,930	1,282,679	△ 943,749
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産売却損	82,209	0	82,209
経常外費用計	82,209	0	82,209
当期経常外増減額	△ 82,209	0	△ 82,209
当期一般正味財産増減額	256,721	1,282,679	△ 1,025,958
一般正味財産期首残高	41,236,038	39,953,359	1,282,679
一般正味財産期末残高	41,492,759	41,236,038	256,721
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	41,492,759	41,236,038	256,721



## 余剰金計算書(案)

自2015年1月5日 至2015年12月31日

本年度余剰金	41,492,759円
上記金額を下記の如く処分する。	
次年度繰越金	41,492,759円

## 固定資産台帳

2015年12月31日現在

管理番号	備品名	数量	取得日	取得価額	耐用年数	期末帳簿価額	減価償却累計額
1	パソコン	1	2012/9/6	134,295	4	1	134,294
2	デスク式(一括償却資産)	1	2012/9/6	168,048	3	112,032	56,016
3	テーブル式(一括償却資産)	1	2015/11/30	168,588	3	112,392	56,196
4	収納一式・西側(一括償却資産)	1	2015/11/30	158,652	3	105,768	52,884
5	収納一式・南側	1	2015/11/30	260,172	8	249,332	10,840
6	収納一式・東側	1	2015/11/30	227,340	8	217,868	9,472
	合計			1,117,095		797,393	319,702

## 備品リスト

2015年12月31日現在

管理番号	備品名	数量
44	電話加入権	1台
49	会議用テーブル(大理石)	1個
68	スチール製書庫	1組
85	ファクシミリ用電話回線	1式
86	特別会員用ネームプレート	1組
98	交通安全宣言及び宣言文ボード	1式
106	プレジデンシャルリース	1個
111	ファイルユニット	1台
113	理事長椅子	1脚
114	コンピューター	1式
117	無線機	1式
123	ファックス	1台
125	例会用看板	1個
129	エアコン	1式
133	テグカング横断幕、日の丸・韓国旗	1式
144	シュレッダー	1台
138	テント	1式
139	プレジデンシャルリース(JCI)	1個
140	AED	1個
141	バランスマン	1個
142	理事長バッジ1・監事バッジ3・副理事長バッジ5・専務バッジ1・理事長経験者バッジ・理事バッジ7	1式
143	例会用看板	1個
144	スクリーン	1個
145	国旗用ポール・スタンドセット	1式
146	会計ソフト(弥生会計13)	1式
147	例会用看板	1個
148	オリエンテーション看板	1個
149	掃除機	1個
150	テプラ	1個
151	ポット	1個

## 財務諸表に対する注記

### 1 重要な会計方針

(1)「公益法人会計基準」(平成16年10月14日 公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申し合わせ)を採用している。

#### (2)消費税の会計処理等

税込処理を採用している。

#### (3)固定資産の減価償却の方法

工具器具備品の減価償却は、定率法を採用している。

### 2 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び残高は次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
工具器具備品	1,117,095	319,702	797,393
合計	1,117,095	319,702	797,393

財産目録  
2015年 12月 31日 現在

(単位：円)

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
1. 流動資産		
現金		214,116
預金		
三菱東京UFJ銀行一宮支店 普通預金	619,185	
三菱東京UFJ銀行一宮支店 普通預金	3,000,000	
いちい信用金庫一宮支店 普通預金	3,144,762	
尾西信用金庫本店営業部 普通預金	3,492,649	
三菱東京UFJ銀行一宮支店 定期預金	9,000,000	
いちい信用金庫一宮支店 定期預金	10,000,000	
尾西信用金庫本店営業部 定期預金	10,000,000	
前渡金		39,256,596
京都会議事前登録料		8,000
立替金		
地域活性化推進委員会 事業計画2		400,000
未収入金		
入会金 1名	30,000	
正会員会費 4名(うち半期分 3名)	300,000	
予定者登録料 1名	60,000	
地域活性化推進委員会 事業計画2	186,212	
流動資産合計		40,454,924
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
基本財産合計	0	
(2) 特定資産		
尾西信用金庫本店営業部 普通預金	319,702	
特定資産合計		319,702
(3) その他固定資産		
パソコン	1	
デスクー式	112,032	
テーブル式	112,392	
収納一式(西側)	105,768	
収納一式(南側)	249,332	
収納一式(東側)	217,868	
その他固定資産合計		797,393
固定資産合計		1,117,095
資産合計		41,572,019
<b>II 負債の部</b>		
1. 流動負債		
前受金		
LOM基本資料 野村一麿様	3,000	
LOM基本資料 早川一三様	3,000	
LOM基本資料 富田隆裕様	3,000	
LOM基本資料 川松保夫様	3,000	
LOM基本資料 犬飼万壽男様	3,000	
LOM基本資料 桑原英寿様	3,000	
LOM基本資料 井田吉彦様	3,000	
LOM基本資料 鈴木洋志様	3,000	
LOM基本資料 小林正人様	3,000	
LOM基本資料 坂東由邦様	3,000	
LOM基本資料 松岡千尋様	3,000	
LOM基本資料 片山政勝様	3,000	
LOM基本資料 尾関利規様	3,000	
LOM基本資料 尾関栄司様	3,000	
LOM基本資料 森幹昇様	3,000	
仮受金		45,000
2016年度年会費 早川彰	30,000	30,000
預り金		
源泉所得税	4,260	4,260
流動負債合計		79,260
2. 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		79,260
<b>III 正味財産</b>		41,492,759

収支計算書

2015年 1月 5日 から2015年 12月 31日 まで

(単位：円)

科 目	補 正 予 算 額	決 算 額	差 額
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①入会金収入			
入会金収入	540,000	540,000	0
②会費収入			
正会員会費収入	9,487,000	9,339,490	△ 147,510
予定者登録料収入	1,260,000	1,020,000	△ 240,000
特別会員会費収入	360,000	280,000	△ 80,000
賛助会員会費収入	55,000	45,000	△ 10,000
会費収入計	11,162,000	10,684,490	△ 477,510
③事業収入			
登録料収入	300,000	300,000	0
協賛金収入	1,000,000	1,000,000	0
事業収入計	1,300,000	1,300,000	0
④補助金収入			
補助金収入	400,000	522,000	122,000
補助金収入計	400,000	522,000	122,000
⑤雑収入			
受取利息収入	6,000	5,097	△ 903
その他雑収入	270,000	133,638	△ 136,362
雑収入計	276,000	138,735	△ 137,265
事業活動収入合計	13,678,000	13,185,225	△ 492,775
2. 事業活動支出			
①事業費支出			
会場設営費支出	2,523,543	2,812,567	289,024
講師関係費支出	885,560	698,877	△ 186,683
印刷製作費支出	1,028,881	847,608	△ 181,273
旅費交通費支出	0	370,860	370,860
広報費支出	1,913,160	1,894,502	△ 18,658
記念品費支出	154,500	134,190	△ 20,310
通信費支出	95,570	1,968	△ 93,602
保険料支出	140,000	51,450	△ 88,550
雑支出	396,386	40,554	△ 355,832
事業費支出計	7,137,600	6,852,576	△ 285,024
②管理費支出			
会議費支出	151,400	84,700	△ 66,700
地代家賃支出	1,329,000	705,600	△ 623,400
光熱水料費支出	36,000	0	△ 36,000
給料手当支出	1,200,000	1,200,000	0
福利厚生費支出	27,000	16,100	△ 10,900
通信運搬費支出	396,000	265,171	△ 130,829
消耗品費支出	70,000	38,947	△ 31,053
租税公課支出	0	15,700	15,700
印刷製本費支出	150,000	16,000	△ 134,000
賃借料支出	331,215	897,160	565,945
外部法律家委託費支出	50,000	0	△ 50,000
会計監査手数料支出	259,200	259,200	0
国内国際渉外費支出	100,000	97,890	△ 2,110
慶弔費支出	250,000	178,963	△ 71,037
交際費支出	50,000	164,985	114,985
負担金支出	1,818,690	1,789,130	△ 29,560
雑費支出	243,669	50,787	△ 192,882
管理費支出計	6,462,174	5,780,333	△ 681,841
事業活動支出合計	13,599,774	12,632,909	△ 966,865
事業活動収支差額	78,226	552,316	474,090
II 事業活動外支出	0	0	0
III 固定資産取得収支			
1. 投資活動収入			
①特定資産収入			
器具備品売却収入	0	30,000	30,000
投資活動収入合計	0	30,000	30,000
2. 投資活動支出			
①特定資産取得支出			
器具備品支出	0	982,800	982,800
減価償却引当資産取得支出	78,226	459,890	381,664
投資活動支出計	78,226	1,442,690	1,364,464
当期収支差額	0	△ 860,374	△ 860,374
前期繰越収支差額	41,236,038	41,236,038	0
次期繰越収支差額	41,236,038	40,375,664	△ 860,374

# 2015年度財務諸表等適法性確認報告書

公益社団法人 一宮青年会議所

2015年理事長 野田 一郎殿

作成年月日 2016年1月3日

名古屋市熱田区大宝三丁目9番10号

税理士法人 さくら

社員税理士 陣田裕司



当税理士法人は、公益社団法人一宮青年会議所の2015年1月1日から2015年12月31日に係る貸借対照表及び収支計算書並びにその付属明細書並びに財産目録、併せて、正味財産増減計算書について通常必要とされる財務諸表の適法性確認手続きを実施し、また当税理士法人が必要と認めたその他の確認手続きを実施しました。

この財務諸表等は依頼者が自ら起票した伝票に基づき、コンピュータ処理により作成した、仕訳帳、総勘定元帳、試算表、固定資産台帳等に基づき作成されております。

日々の取引に関する記録や領収書等はコンピュータ処理により整然と処理され、摘要も詳細に記載されており、疑義を挟む余地のない水準で処理されております。

記帳は事実に基づいて真実性、適時性、網羅性の要件を満たしたものであり適法に処理されていると認めます。

2016年1月6日

公益社団法人一宮青年会議所  
理事長 野田 一郎 殿

公益社団法人一宮青年会議所

監事 木村 亮一 

監事 横田 公一 

監事 服部 良太 

## 監査報告書

私たち監事は、2015年1月5日から2015年12月31日までの事業年度の事業報告書並びに貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書のことをいい、正味財産増減計算書内訳表を含む。)、その附属明細書及び財産目録(以下、「財務諸表」という。)に関する監査をいたしました。また、併せて公益目的支出計画実施報告書に関する監査をいたしました。

### 監査意見

#### (1) 事業報告の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。

#### (2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

#### (3) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。